

年 報

(令和3年度～令和4年度)



独立行政法人

国立病院機構
National Hospital Organization

関門医療センター

〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号
TEL:083-241-1199(代表)/FAX:083-241-1301

<https://kanmon.hosp.go.jp>

巻頭言

当センターの年報は、平成26年度から発刊していますが、当初は研究業績、診療実績に加え看護研究発表や院内・院外研修会の報告等の簡単な内容でした。平成30年度からは3年分を纏めて発刊しましたが、顔写真入りの部門紹介(診療科ならびに各診療部門)を兼ねた診療実績報告に加えて、毎月発行している広報誌「海峡」も巻末に付けた充実した内容になりました。今回も令和3～4年度の2年分を纏めた発刊となりましたが、前回同様、顔写真入りの職員紹介を含めた診療実績報告など充実した内容となっています。

今回発刊した令和3～4年度の診療実績は、正に新型コロナ禍という非常に厳しい状況における診療内容を反映したものです。今後ポストコロナ禍で医療業界がどのような方向へ向かうかは全く不透明な状況で、しかも少子高齢化が追い打ちをかけてくる時代に突入していきます。今回の年報は、その様な不透明な時代の前兆期におけるデータを盛り込んだもので、今後何かと参考にされるであろう貴重な年報になると思われまます。

年報による診療実績や研究業績を報告することは、その施設の責務であり、特に当センターは国立病院機構の一員として、地域住民の皆様のみならず国民へ広く診療成績を提供する義務があると思っています。今回発刊した年報も当センターのホームページに掲載し、誰でも閲覧することが出来るようにしてあります(ホームページの中の当センターの紹介>病院実績に掲載されています)ので、是非こちらの方でもじっくりとご覧いただきたいと思ひます。

前回は3年分、今回は2年分と発刊が遅れ気味になったことは、深く反省しなければならないと思っています。次回からは、職員一同必ず毎年発刊することを胸に誓い巻頭の挨拶とさせていただきます。

令和6年1月吉日

独立行政法人国立病院機構関門医療センター

院長 吉野 茂文

目次

巻頭言	1
-----	---

Section 1 施設概要

施設概要	6
施設基準	7
指定医療	10
学会施設認定等	11
組織図	12
職員数	16

Section 2 統計

診療科別 患者数、診療点数等	20
病棟別 患者数、診療点数等	21
紹介率・逆紹介率	22
ビーンズ訪問看護ステーション 訪問看護利用件数	22
手術件数(手術室実施分)	23
コ・メディカルデータ	25
「病院情報の公表」	27

Section 3 部門紹介

糖尿病・血液内科	42
総合診療	44
精神科	46
脳神経内科	48
消化器内科	50
循環器内科	52
小児科	54
外科	56
心臓血管外科	58
整形外科	60
脳神経外科	62

泌尿器科	64
産婦人科	66
眼科	68
耳鼻咽喉科	70
放射線診断科	72
放射線治療科	74
病理診断科	76
救急科	78
麻酔科・ペインクリニック	80
歯科口腔外科	82
女性総合外来	84
薬剤部	86
診療放射線科	88
臨床検査科	90
栄養管理室	92
リハビリテーション科	94
医療機器管理室	96
心理療法	98
地域医療連携室	100
看護部	102
事務部(管理課・企画課)	112
診療情報管理室	114

Section 4 研究実績

原著論文、総説、著書(英文)	117
原著論文、総説、著書(和文)	119
国際学会発表	120
国内学会発表	121

Section 5 広報誌「海峡」

海峡220号～海峡243号	127
---------------	-----



 *Section 1*

施設概要

施設概要

名称	どくりつぎょうせいほうじんこくりつびょういんきこう かんもんいりょうせんたー 独立行政法人国立病院機構 関門医療センター National Hospital Organization Kanmon Medical Center	所在地	〒752-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号 Tel 083-241-1199 Fax 083-241-1301
幹部職員	院長 吉野 茂文 副院長 佐藤 稜 統括診療部長 鶴 政俊 臨床研究部長 戒能 聖治	事務部長 難波 和弘 看護部長 小林 奈々 薬剤部長 引地 正人 企画課長 水尻 和夫 管理課長 中村 卓記	
病床数	医療法許可病床 一般 400床(うちICU6床、救命救急センター24床) 運用病床数 362床(急性期一般 267床、ICU 4床、救命救急センター 12床、地域支援病棟 75床)		
診療科目 (34診療科)	内科(総合診療) 糖尿病・血液内科 脳神経内科 消化器内科 呼吸器内科 肝臓内科 循環器内科 腫瘍内科 女性内科(女性総合診療) 精神科 小児科 外科 形成外科 乳腺外科 呼吸器外科 消化器外科 内視鏡外科 心臓血管外科 整形外科 リウマチ科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻いんこう科 リハビリテーション科 放射線診断科 放射線治療科 臨床検査科 病理診断科 救急科(ER24) 歯科口腔外科 麻酔科		
診療機能	地域医療支援病院(平成26年2月) 第二次救急医療施設(昭和52年10月)・救命救急センター(平成17年5月) エイズ治療拠点病院(平成8年7月)・エイズ治療中核拠点病院(平成19年4月) 災害拠点病院(平成22年11月) 臨床研修指定病院(平成30年3月)		

基本方針

*** 地域の皆様の健康と医療を守る**

- ・地域住民の健康と医療を守り、地域社会に安心・安全をもたらす
- ・地域住民からの信頼を最大化する

*** 共に働く仲間を信頼し、尊重する**

- ・共に働く仲間が働き甲斐と矜持を持てる職場に！
- ・チーム医療、多職種連携を推進し”チーム関門”としての連携を強化！

病院理念

国立病院機構の使命を果たす病院として、常に地域の皆さま本位の立場から次の病院理念を推し進める。

- ①あらゆる先駆けとなる医療に果敢に挑戦する。
- ②病気を成り立ちから見つめ、その克服のために最良の道を患者さんとともに歩む。
- ③次の世代をはぐくみ無限の可能性を引き出す。
 - ・キーワードは①「先駆け」 ②「地域」 ③「教育」
 - ・教育標語”3S”…①スピード、②スタンダード&セイフティ、③スマイル

関門医療センターの使命

○先駆的医療の実施 ○患者さん中心の医療 ○地域活動の支援 ○若い人を育てる

私達の挑戦

- * 関門医療センターは病める人々に最善の医療を提供し、地域社会に安心安全をもたらすことをもっとも大切な使命とこころえています。
- * 私たちは目の前の人を、思いやりと愛情で寄り添い支え、安心と感動をお届けいたします。

施設基準

事 項 (区 分)	算定開始年月日	
－	入院時食事療養費 (I)	平成21年4月15日
－	食堂加算	平成21年4月15日
A000	医療情報・システム基盤整備体制充実加算	令和4年10月1日
A100	一般病棟入院基本料(急性期一般入院料1)	平成30年10月1日
A100	一般病棟入院基本料(7対1)	平成28年9月1日
A200	総合入院体制加算3	平成28年4月1日
A204-2	臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	平成21年4月15日
A205	救急医療管理加算	平成22年4月1日
A205-2	超急性期脳卒上加算	平成21年4月15日
A205-3	妊産婦緊急搬送入院加算	平成22年11月1日
A207	診療録管理体制加算1	平成27年5月1日
A207-2	医師業務作業補助体制加算1(15:1)	平成26年9月1日
A207-3	急性期看護補助体制加算(25対1)(5割以上)	令和2年6月1日
A207-3 注2	夜間100対1急性期看護補助体制加算	令和3年5月1日
A207-3 注3	夜間看護体制加算	令和3年5月1日
A207-4	看護職員夜間16対1配置加算	令和元年9月1日
A219	療養環境加算	平成21年6月1日
A221	重症者等療養環境特別加算	平成21年4月15日
A224	無菌治療室管理加算2	平成24年4月1日
A230-4	精神科リエゾンチーム加算	令和5年2月1日
A231-4	摂食障害入院医療管理加算	令和4年4月1日
A233-2	栄養サポートチーム加算	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算1	平成22年4月1日
A234	医療安全対策加算(医療安全対策地域連携加算1)	平成30年4月1日
A234-2	感染対策向上加算1	平成27年4月1日
A234-2	感染対策向上加算(指導強化加算)	平成27年4月1日
A234-3	患者サポート体制充実加算	平成24年4月1日
A234-4	重症患者初期支援充実加算	令和4年4月1日
A234-5	報告書管理体制加算	令和4年4月1日
A236-2	ハイリスク妊娠管理加算	平成22年11月1日
A242	呼吸ケアチーム加算	平成23年12月1日
A243	後発医薬品使用体制加算1	令和元年9月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算1	平成27年11月1日
A244	病棟薬剤業務実施加算2	平成28年4月1日
A245	データ提出加算2(200床以上)	平成26年10月1日
A246	入退院支援加算1	平成28年10月1日
A246	地域連携診療計画加算	平成28年10月1日
A246	入院時支援加算	平成31年1月1日
A247	認知症ケア加算1	平成29年1月1日
A247-2	せん妄ハイリスク患者ケア加算	令和2年4月1日
A252	地域医療体制確保加算	令和2年4月1日
A300	救命救急入院料1	平成27年4月1日
A300	救命救急入院料加算「注2」精神疾患診断治療初回加算(イを算定する場合に限る。)	令和5年2月1日
A300	救命救急入院料加算(救急医療体制充実加算2)	平成31年4月1日
A300	救命救急入院料(早期離床・リハビリテーション加算)	令和4年4月1日
A300	救命救急入院料(早期栄養介入管理加算)	令和4年4月1日
A301	特定集中治療室管理料3	平成27年4月1日
A301	特定集中治療室管理料(早期離床・リハビリテーション加算)	平成30年4月1日
A301	特定集中治療室管理料注5(早期栄養介入管理加算)	令和2年4月1日
A308-3	地域包括ケア病棟入院料2	平成26年10月1日
A308-3	看護職員配置加算	平成26年10月1日
A500	看護職員処遇改善評価料58	令和5年7月1日
B001-1	ウィルス指導料加算	令和2年4月1日
B001-2	小児科外来診療料	平成21年4月15日
B001-2-5	院内トリアージ実施料	平成25年10月1日
B001-2-7	外来リハビリテーション診療料	平成24年4月1日
B001-2-8	外来放射線照射診療料	平成24年4月2日
B001-2-12	外来腫瘍化学療法診療料1	平成24年4月3日
B001-2-12	外来腫瘍化学療法診療料(連携充実加算)	平成24年4月4日
B001-16	喘息治療管理料	平成21年4月15日
B001-20	糖尿病合併症管理料	平成21年6月1日

事 項 (区 分)		算定開始年月日
B001-22	がん性疼痛緩和指導加算料	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料イ	平成23年11月1日
B001-23	がん患者指導管理料ロ	平成26年4月1日
B001-24	がん患者指導管理料ハ	令和4年4月1日
B001-25	がん患者指導管理料ニ	令和4年4月1日
B001-30	婦人科特定疾患治療管理料	令和2年4月1日
B001-33	生殖補助医療管理料1	令和4年4月1日
B001-34	二次性骨折予防継続管理料1	令和4年4月1日
B001-34	二次性骨折予防継続管理料3	令和4年4月1日
B008	薬剤管理指導料	平成21年4月15日
B009	検査・画像情報提供加算	平成28年10月1日
B009-2	電磁的診療情報評価料	平成28年10月1日
B011-4	医療機器安全管理料1	平成21年4月14日
B011-4	医療機器安全管理料2	令和4年4月1日
C005	在宅患者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C005-1-2	同一建物居住者訪問看護・指導料	令和元年10月1日
C152-2	持続血糖測定器加算	平成28年2月1日
D006-2	造血管腫瘍遺伝子検査	平成24年10月1日
D006-4	遺伝学的検査	平成29年9月1日
D006-18	BRCA1/2遺伝子検査	令和2年4月1日
D023	HPV核酸同定検査	平成22年4月1日
D023	HPV核酸同定検査(簡易ジェノタイプ判定)	平成22年4月1日
D026	検体検査管理加算(Ⅱ)	平成29年11月1日
D225-4	ヘッドアップティルト試験	平成25年3月1日
D231-2	皮下連続式グルコース測定	平成28年2月1日
D239-3	神経学的検査	平成21年4月15日
D409-2	センチネルリンパ節生検	平成22年4月1日
E -	画像診断管理加算1	平成21年4月15日
E -	画像診断管理加算2	平成22年1月1日
E101-2	ポジトロン断層撮影	平成22年4月1日
E101-3	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	平成22年4月1日
E200	CT撮影(64列)	平成28年10月1日
E200	冠動脈CT撮影加算	平成22年1月1日
E200	外傷全身CT加算	平成22年4月1日
E200	大腸CT撮影加算	平成24年4月1日
E202	MRI撮影	平成24年4月1日
E202	心臓MRI撮影加算	平成22年1月1日
E202	乳房MRI撮影加算	平成29年6月1日
F100	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	平成22年4月1日
G -	外来化学療法加算1	平成21年4月15日
G020	無菌製剤処理料	平成21年4月15日
H -	各リハビリテーション料初期加算	平成24年4月1日
H001	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	平成21年4月15日
H001-2	廃用症候群リハビリテーション料	平成28年4月1日
H001-2	廃用症候群リハビリテーション料 初期加算	平成28年4月1日
H002	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成22年4月1日
H003	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	平成21年4月15日
H007-2	がん患者リハビリテーション料	平成26年3月1日
J001-10	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	令和3年9月1日
J038	人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	平成30年4月1日
J038	導入期加算1	平成30年4月1日
J038	下肢末梢動脈疾患指導管理加算	平成30年3月1日
K046	緊急整復固定加算	令和4年4月1日
K059	骨移植術	平成26年8月1日
K081	緊急挿入加算	令和4年4月1日
K134-4	椎間板内酵素注入療法	令和2年10月1日
K181	脳刺激装置植込術	平成21年4月1日
K181	脳刺激装置交換術	平成21年4月1日
K190	脊髄刺激装置植込術	平成21年4月1日
K190-2	脊髄刺激装置交換術	平成21年4月1日
K476	乳がんセンチネルリンパ節加算	平成22年4月1日
K546	経皮的冠動脈形成術	平成26年4月1日
K549	経皮的冠動脈ステント留置術	平成26年4月1日

項 目		算定開始年月日
K597 K597-2	ペースメーカー移植術／交換術(電池交換含む)	平成21年4月1日
K600	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	平成21年4月1日
K664	胃瘻造設術(要件を満たす)	平成27年4月1日
K668-2	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	令和4年4月1日
K695-2	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	平成29年10月1日
K702-2	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	平成31年2月1日
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	令和3年6月1日
K800-3	膀胱水圧拡張術	令和4年12月1日
K800-4	ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	令和4年12月1日
K865-2	腹腔鏡下仙骨隆固定術	令和4年11月1日
K920-2	輸血管理料 I	平成22年10月1日
K920-2	輸血適正使用加算1	平成24年4月1日
K939-3	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	平成24年4月1日
—	医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術	施設基準を満たしていれば届出不要
L009	麻酔管理料	平成21年4月15日
M000	放射線治療専任加算	平成21年6月1日
M000	外来放射線治療加算	平成21年6月1日
M001	高エネルギー放射線治療(1回線量増加加算)	平成26年4月1日
M001	高エネルギー放射線治療	平成21年12月1日
M001	画像誘導放射線治療加算(IGRT)	令和4年7月1日
M001	体外照射呼吸性移動対策加算	令和4年7月1日
N006	病理診断管理加算1	平成24年4月1日
N006	悪性腫瘍病理組織標本加算	平成30年5月1日
歯科A000	初診料(歯科)注1に掲げる施設基準	平成30年4月1日
歯科A000	歯科外来診療環境体制加算1	平成31年3月1日
歯科B004-6-2	歯科治療時医療管理料	平成31年1月1日

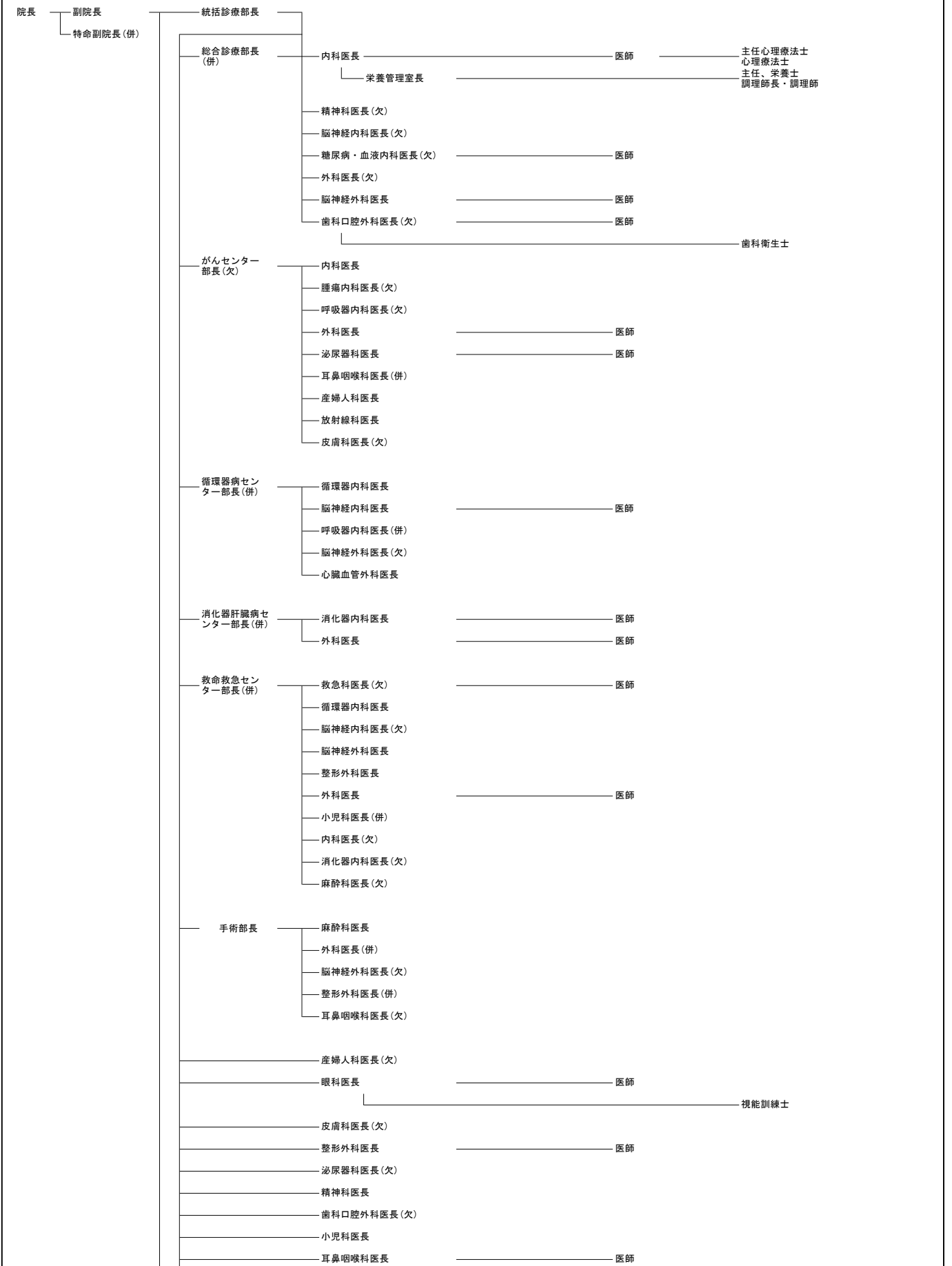
指定医療

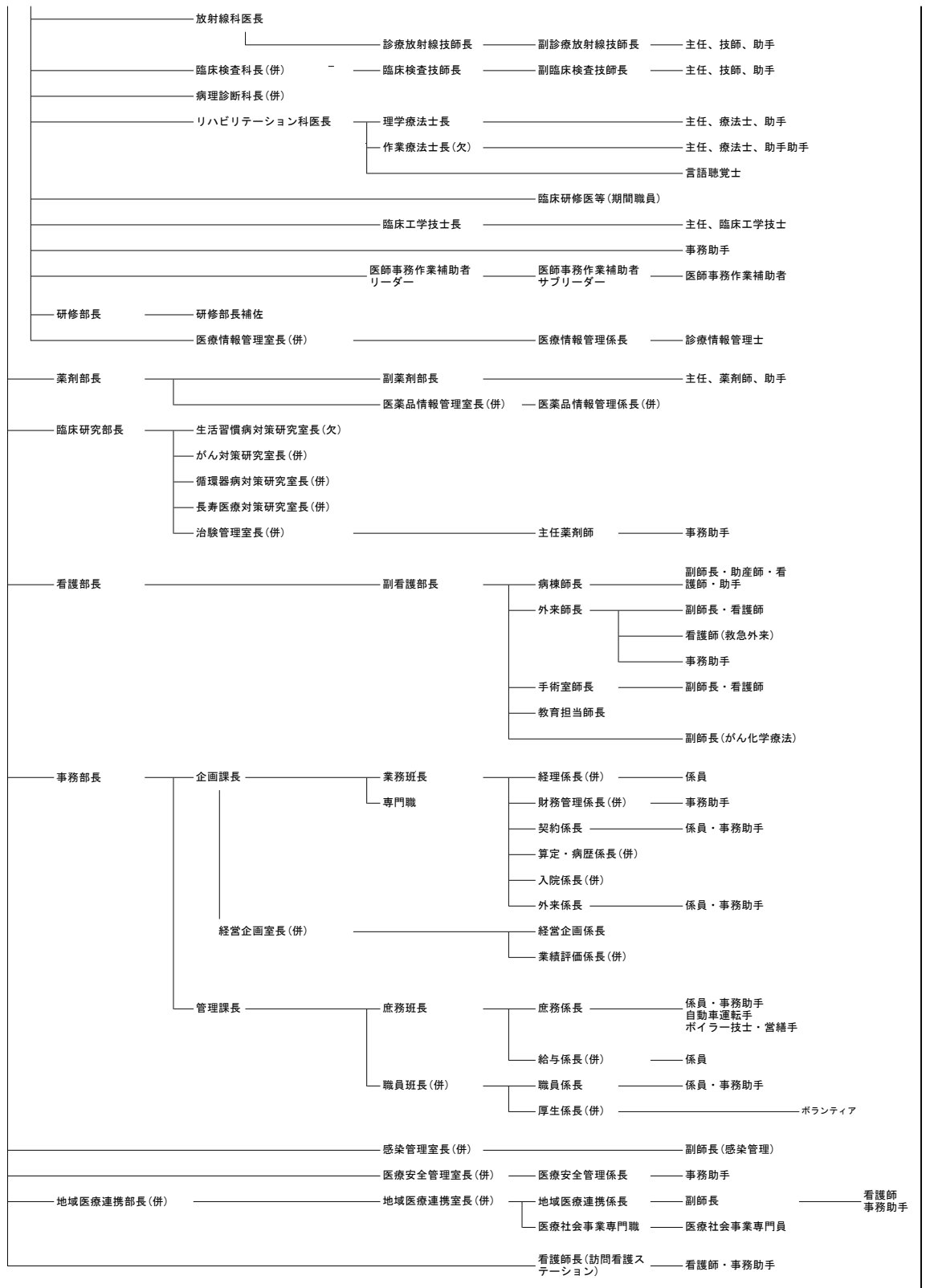
事 項
母子保健法(療育医療)
身体障害者福祉法及び戦傷病者特別援護法(更生医療・・・耳鼻咽喉科、整形外科)
児童福祉法(成育医療)
原子爆弾被爆者医療等に関する法律(認定疾病)
結核予防法
生活保護法
労災保険法
母体保護法
公害健康被害補償法

学会施設認定等

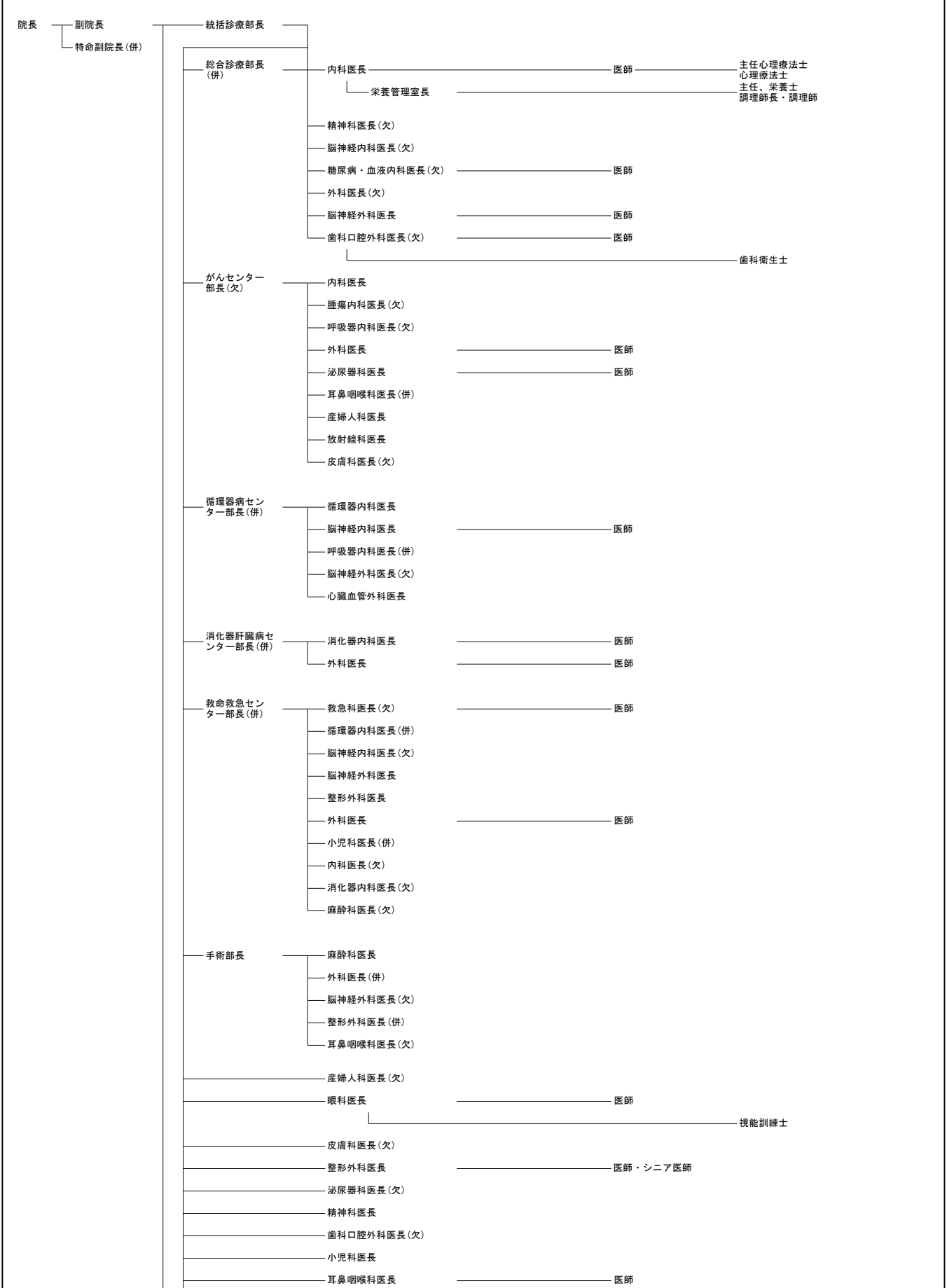
項 目	指 定 日
日本外科学会外科専門医制度修練指定施設	昭和55年10月16日
日本脳神経外科学会 専門医研修プログラム連携施設	昭和56年8月6日
日本整形外科学会専門医研修施設	昭和58年4月11日
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	昭和59年3月24日
日本麻酔科学会認定病院	昭和59年8月23日
日本内科学会教育関連病院	昭和60年4月1日
日本泌尿器科学会専門医教育施設	昭和61年4月1日
日本産科婦人科学会体外受精・胚移植の臨床実施及びヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録施設	昭和63年4月1日
日本消化器病学会認定・関連施設	平成1年12月1日
日本循環器学会認定研修施設	平成3年4月1日
日本消化器内視鏡学会認定医指導施設	平成5年12月1日
日本消化器外科専門医修練施設	平成7年1月1日
日本脳卒中学会認定研修教育病院	平成11年11月11日
日本がん治療認定医機構認定研修施設	平成19年11月1日
日本消化器外科学会専門医修練施設	平成19年12月11日
日本病理学会研修登録施設	平成22年4月1日
日本手外科学会手外科研修施設	平成22年4月14日
日本医療機能評価機構認定施設	平成22年7月2日
日本精神神経学会精神科専門研修施設	平成23年4月1日
日本眼科学会専門研修施設	平成23年4月1日
麻酔科認定病院	平成23年4月1日
日本診療放射線学会医療被ばく低減施設	平成24年1月1日
日本高血圧学会専門医認定施設	平成24年4月1日
科研費指定研究機関	平成25年3月21日
日本胆道学会指導施設	平成25年7月1日
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	平成26年4月1日
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設	平成26年4月1日
日本リウマチ学会教育施設	平成26年9月1日
マンモグラフィ検診施設画像認定施設	平成27年2月1日
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士認定教育施設	平成27年4月1日
日本集中治療医学会専門医研修施設	平成27年4月1日
日本理学療法士協会臨床指導施設	平成27年5月1日
日本産婦人科学会専門研修連携施設	平成28年8月1日
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設	平成28年9月1日
日本乳癌学会関連施設	平成28年1月1日
日本神経学会教育関連施設	平成29年4月1日
日本臨床細胞学会施設	平成29年4月1日
HIV感染症薬物療法認定薬剤師養成研修施設	平成30年4月1日
日本食道学会食道外科専門医準認定施設	平成31年1月1日
下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設	令和1年6月10日
腹部ステントグラフト実施施設	令和1年7月17日
日本脈管学会認定研修関連施設	令和1年10月9日
日本外科感染症学会認定外科周術期感染管理教育施設	令和1年11月28日
心臓血管外科専門医認定修練施設(関連施設)	令和2年1月1日
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設	令和2年7月1日
日本乳癌学会認定施設	令和3年1月1日
画像診断管理認証施設	令和4年4月1日
日本胃癌学会認定施設A	令和5年4月1日

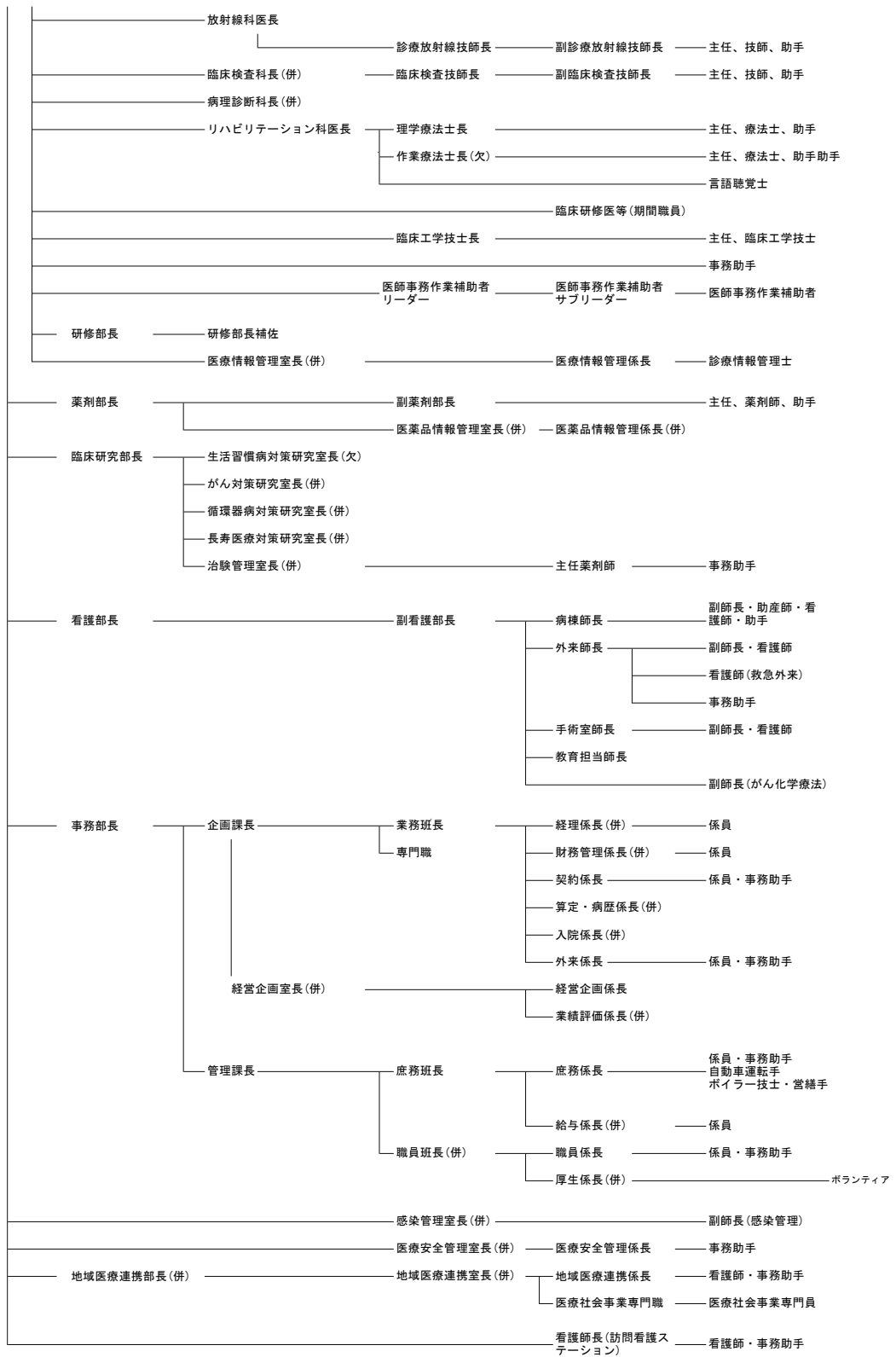
【組織体制図】





【組織体制図】





職 員 数

職 名	R3.4.1						R4.4.1						
	常勤		期間職員		非常勤		常勤		期間職員		非常勤		
	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	定数	人数	
医療職(一)	院長	1	1					1	1				
	副院長	1	1					1	1				
	部長	4	4					3	3				
	医長	29	28					28	28				
	医師	19	18.57	28	29			21	21	32	32		
計	54	52.57	28	29	0	0	54	54	32	32	0	0	
医療職(二)	薬剤部長	1	1					1	1				
	副薬剤部長	1	1					1	1				
	主任薬剤師	4	3					4	4				
	薬剤師	12	11					12	9				
	計	18	16	0	0	0	0	18	15	0	0	0	0
	診療放射線技師長	1	1					1	1				
	副診療放射線技師長	1	1					1	1				
	主任診療放射線技師	4	4					4	4				
	診療放射線技師	9	9		1			9	9				1
	計	15	15	0	1	0	0	15	15	0	0	0	1
	臨床検査技師長	1	1					1	1				
	副臨床検査技師長	1	1					1	1				
	主任臨床検査技師	8	5					8	5				
	臨床検査技師	7	10				1	7	12				2
	計	17	17	0	0	0	1	17	19	0	0	0	2
	栄養管理室長	1	1					1	1				
	主任栄養士	1	0					1	0				
	栄養士	3	4					3	4				
	計	5	5	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0
	理学療法士長	1	1					1	1				
	主任理学療法士	2	2					2	1				
	理学療法士	13	13					13	13				
	計	16	16	0	0	0	0	16	15	0	0	0	0
	作業療法士長	1						1	0				
	副作業療法士長	0						0	0				
	主任作業療法士	2	1					2	2				
	作業療法士	8	11					8	10				
	計	11	12	0	0	0	0	11	12	0	0	0	0
	言語聴覚士	3	3	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0
	臨床工学技士長	1	1					1	1				
主任臨床工学技士	2	2					2	2					
臨床工学技士	4	4					4	4					
計	7	7	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	
視能訓練士	1	1			1	0	1	1			1	0	
心理療法士	2	2					2	2					
歯科衛生士	0	0			2	2	1	0			1	2	
計	95	94	0	1	2	3	96	94	0	0	2	4	
医療職(三)	看護部長	1	1					1	1				
	副看護部長	2	2					2	2				
	看護師長	14	14					14	14				
	副看護師長	25	25					25	26				
	看護師	259	334.1			17	23	259	340			17	23
計	301	376.1	0	0	17	23	301	383	0	0	17	23	
福祉職	医療社会事業専門職	1	1					1	1				
	医療社会事業専門員	4	4					4	4				
計	5	5	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	
事務職	事務部長	1	1					1	1				
	課長・室長	3	2					3	2				
	班長・専門職	4	3					4	3				
	係長	8	5					8	5				
	一般職員	6	9			48	51	6	9			48	51
計	22	20	0	0	48	51	22	20	0	0	48	51	
診療情報管理職	医療情報管理係長	1	0					1	0				
	診療情報管理士	4	5					4	5				
計	5	5	0	0	0	0	5	5	0	0	0	0	
技能職		2	2	0	0	30	28	2	2	0	0	30	26
合計		484	554.67	28	30	97	104	485	563	32	32	96	104

幹部名簿

役職	2021年度	2022年度
院長	林 弘人	林 弘人
副院長	佐藤 穰	佐藤 穰
統括診療部長	伊原 公一郎	吉野 茂文
臨床研究部長	柳井 秀雄	柳井 秀雄
手術部長	内本 亮吾	内本 亮吾
研修部長	吉野 茂文	大谷 望
看護部長	上柿 博美	上柿 博美
副看護部長	川添 由紀子	川添 由紀子
	平畠 真希	平畠 真希
薬剤部長	藤田 秀樹	引地 正人
事務部長	難波 和弘	難波 和弘
企画課長	萩野 勝司	萩野 勝司
管理課長	水尻 和夫	水尻 和夫



 *Section 2*

統計

統 計

診療科別 患者数、診療点数等

		入院				1日当たり 新入院数	合計 診療点数		
		平均 在院日数	延べ 診療点数	1人1日 診療点数	延べ 新入院数				
内科	R3年度	1.0	249,102	12,455.1	21	0.1	390,852	R3年度	内科
	R4年度	1.0	299,418	11,516.1	26	0.1	434,319	R4年度	
糖尿病・ 血液内科	R3年度	18.6	55,933,657	6,983.0	434	1.2	92,977,122	R3年度	糖尿病・ 血液内科
	R4年度	19.1	70,666,842	7,641.3	480	1.3	112,339,370	R4年度	
総合診療科	R3年度	22.7	23,083,793	5,056.7	214	0.6	40,690,773	R3年度	総合診療科
	R4年度	28.3	11,448,978	4,816.6	82	0.2	24,785,068	R4年度	
女性総合	R3年度						70,336	R3年度	女性総合
	R4年度						46,872	R4年度	
(内科 計)	R3年度	19.6	79,266,552	6,293.5	669	1.8	134,129,083	R3年度	(内科 計)
	R4年度	19.6	82,415,238	7,073.7	588	1.6	137,605,629	R4年度	
精神科	R3年度	3.1	467,375	10,622.2	16	0.0	2,180,793	R3年度	精神科
	R4年度	7.2	296,419	8,233.9	5	0.0	1,956,868	R4年度	
脳神経内科	R3年度	21.5	43,941,987	6,260.4	322	0.9	71,320,562	R3年度	脳神経内科
	R4年度	23.0	61,278,912	6,237.0	429	1.2	101,116,661	R4年度	
呼吸器内科	R3年度						1,946,116	R3年度	呼吸器内科
	R4年度		17,447	17,447.0			2,504,890	R4年度	
消化器内科	R3年度	14.1	63,863,145	5,880.6	902	2.5	83,655,947	R3年度	消化器内科
	R4年度	13.2	61,273,234	5,930.4	791	2.2	83,095,306	R4年度	
循環器内科	R3年度	25.1	25,418,908	5,385.4	191	0.5	29,762,905	R3年度	循環器内科
	R4年度	23.7	27,510,370	6,169.6	175	0.5	32,035,524	R4年度	
小児科	R3年度	3.9	5,712,863	5,895.6	249	0.7	8,622,533	R3年度	小児科
	R4年度	3.0	4,075,510	6,212.7	217	0.6	7,356,150	R4年度	
外科	R3年度	11.5	124,903,959	7,851.6	1,371	3.8	171,989,869	R3年度	外科
	R4年度	10.6	127,670,222	8,653.3	1,371	3.8	181,046,611	R4年度	
心臓血管外科	R3年度	23.8	19,278,606	8,256.4	95	0.3		R3年度	心臓血管外科
	R4年度	26.7	18,557,083	8,078.8	85	0.2	19,432,646	R4年度	
整形外科	R3年度	26.8	178,239,802	6,063.4	1,100	3.0	193,509,629	R3年度	整形外科
	R4年度	28.2	177,286,486	6,127.9	1,015	2.8	191,638,687	R4年度	
脳神経外科	R3年度	28.4	38,698,418	6,626.4	195	0.5	41,627,285	R3年度	脳神経外科
	R4年度	25.8	34,338,359	6,766.2	187	0.5	37,067,125	R4年度	
形成外科 (H31.2より)	R3年度						210,901	R3年度	形成外科 (H31.2より)
	R4年度						211,072	R4年度	
腫瘍内科	R3年度						0	R3年度	腫瘍内科
	R4年度						0	R4年度	
皮膚科	R3年度						408,773	R3年度	皮膚科
	R4年度						372,750	R4年度	
泌尿器科	R3年度	10.6	28,378,098	6,708.8	461	1.3	66,220,301	R3年度	泌尿器科
	R4年度	8.8	29,213,051	7,369.6	442	1.2	68,101,530	R4年度	
産婦人科	R3年度	11.0	9,537,229	6,792.9	140	0.4	12,071,274	R3年度	産婦人科
	R4年度	11.2	10,247,503	6,206.8	146	0.4	12,809,448	R4年度	
眼科	R3年度	2.5	6,563,793	11,955.9	265	0.7	16,665,557	R3年度	眼科
	R4年度	2.0	4,411,872	11,671.6	186	0.5	12,080,811	R4年度	
耳鼻咽喉科	R3年度	13.0	11,938,213	4,744.9	190	0.5	16,279,908	R3年度	耳鼻咽喉科
	R4年度	9.9	8,040,094	5,360.1	151	0.4	13,978,574	R4年度	
リハ科	R3年度						1,430	R3年度	リハ科
	R4年度						740	R4年度	
放射線診断	R3年度						3,606,080	R3年度	放射線診断
	R4年度						3,920,487	R4年度	
放射線治療	R3年度						2,631,996	R3年度	放射線治療
	R4年度						2,475,814	R4年度	
救急科	R3年度	5.3	21,886,408	9,017.9	546	1.5	30,228,614	R3年度	救急科
	R4年度	7.7	29,559,970	10,172.0	430	1.2	39,973,746	R4年度	
麻酔科	R3年度	23.4	375,696	4,581.7	4	0.0	653,297	R3年度	麻酔科
	R4年度	10.5	103,552	4,931.0	2	0.0	363,961	R4年度	
歯科口腔外科	R3年度	11.0	4,873,438	5,140.8	84	0.2	7,853,636	R3年度	歯科口腔外科
	R4年度	11.8	4,779,221	5,246.1	77	0.2	7,104,028	R4年度	
合計	R3年度	16.0	663,344,490	6,513.5	6,800	18.6	915,856,307	R3年度	合計
	R4年度	15.8	681,074,543	6,855.4	6,297	17.3	956,249,058	R4年度	

病棟別 患者数、診療点数等

		延べ患者数	1日平均患者数	平均在院日数	延べ診療点数	1人1日あたり診療点数	新入院数	退院数
救命救急	R2年度	2,778	7.6	7.7	38,760,078	13,952.5	646	119
	R3年度	3,017	8.3	7.9	46,536,455	15,424.7	655	107
ICU	R2年度	938	2.6	26.6	31,580,147	33,667.5	48	27
	R3年度	1,002	2.7	23.3	34,851,213	34,781.6	61	25
4C	R2年度	14,801	40.6	13.7	94,868,385	6,409.6	1,168	1,190
	R3年度	14,003	38.4	13.6	98,222,398	7,014.4	1,008	1,048
5B	R2年度	15,238	41.7	24.9	78,269,854	5,136.5	511	747
	R3年度	16,032	43.9	24.2	86,038,143	5,366.7	542	785
6B	R2年度	16,147	44.2	17.1	79,660,008	4,933.4	972	1,040
	R3年度	15,830	43.4	16.9	78,038,082	4,929.8	852	1,019
6C	R2年度	16,826	46.1	12.1	122,710,641	7,292.9	1,386	1,391
	R3年度	16,034	43.9	11.4	124,066,716	7,737.7	1,403	1,398
7B	R2年度	17,663	48.4	20.4	134,801,984	7,631.9	1,032	696
	R3年度	17,090	46.8	23.0	122,380,282	7,160.9	861	626
急性期病棟 計	R2年度	80,675	221.0	16.5	510,310,872	6,325.5	5,069	5,064
	R3年度	78,989	216.4	16.6	508,745,621	6,440.7	4,666	4,876
5C	R2年度	4,027	11.0	8.4	28,232,362	7,010.8	470	536
	R3年度	3,961	10.9	10.2	39,726,949	10,029.5	396	384
7C	R2年度	13,424	36.8	22.5	54,461,037	4,057.0	567	1,012
	R3年度	12,379	33.9	17.2	51,214,310	4,137.2	520	917
地域包括 計	R2年度	17,451	47.8	16.0	82,693,399	4,738.6	1,037	1,548
	R3年度	16,340	44.8	14.7	90,941,259	5,565.6	916	1,301
合計	R2年度	101,842	279.0	15.9	663,344,496	6,513.5	6,800	6,758
	R3年度	99,348	272.2	15.8	681,074,548	6,855.4	6,298	6,309

病棟名	運営病床数	主な診療科	届出入院基本科
E1病棟	12床	救命救急センター	救命救急入院科1
E2病棟	4床	ICU	特定集中治療室管理科3
4C病棟	54床	産婦人科、新生児、糖尿病・血液内科、眼科、泌尿器科	急性期一般入院科1
5B病棟	52床	脳神経外科(急性期)、脳神経内科(急性期)、循環器内科(急性期)、総合診療(急性期)	急性期一般入院科1
5C病棟	51床	総合診療、循環器内科、脳神経外科、脳神経内科	地域包括ケア病棟入院科2
6B病棟	54床	消化器内科、腫瘍内科、外科、緩和ケア、放射線科、歯科口腔外科	急性期一般入院科1
6C病棟	53床	外科(周術期)、消化器内科(内視鏡治療)	急性期一般入院科1
7B病棟	54床	整形外科、耳鼻咽喉科、小児科	急性期一般入院科1
7C病棟	45床	整形外科、脳神経内科、脳神経外科	地域包括ケア病棟入院科2

紹介率・逆紹介率

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021 (R3) 年度	A 初診患者数	848	874	816	795	923	828	871	762	849	854	517	791	9,728
	B 初診紹介患者数	447	413	368	345	422	396	410	373	356	320	163	373	4,386
	C 初診救急搬送	140	160	168	179	141	154	186	165	174	169	138	187	1,961
	D 初診休日夜間	119	143	114	150	142	135	120	104	159	111	87	104	1,488
	E 逆紹介患者数	545	475	513	499	483	509	506	503	533	458	326	581	5,931
	紹介率	75.9%	72.3%	68.9%	74.0%	65.9%	73.5%	72.6%	75.7%	69.0%	55.7%	55.8%	74.6%	69.9%
	逆紹介率	92.5%	83.2%	96.1%	107.1%	75.5%	94.4%	89.6%	102.0%	103.3%	79.8%	111.6%	116.2%	94.5%

年度	項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2022 (R4) 年度	A 初診患者数	811	829	878	925	925	807	828	792	831	749	682	767	9,824
	B 初診紹介患者数	380	353	402	330	328	343	375	382	268	212	313	401	4,087
	C 初診救急搬送	144	164	155	109	228	195	173	193	205	272	156	191	2,185
	D 初診休日夜間	137	150	147	175	146	136	156	143	149	168	124	120	1,751
	E 逆紹介患者数	565	514	554	498	521	518	582	631	605	482	548	541	6,559
	紹介率	71.7%	68.5%	69.8%	51.5%	59.5%	72.1%	75.2%	83.8%	56.2%	68.6%	77.9%	87.9%	69.4%
	逆紹介率	106.6%	99.8%	96.2%	77.7%	94.6%	108.8%	116.6%	138.4%	126.8%	156.0%	136.3%	118.6%	111.4%

$$\text{紹介率} = \frac{\text{B 初診紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

$$\text{逆紹介率} = \frac{\text{E 逆紹介患者数}}{\text{A 初診患者数} - \text{C 初診救急搬送} - \text{D 初診休日夜間}}$$

ビーンズ訪問看護ステーション

○訪問看護利用件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2021 (R3) 年度	介護保険分	218	204	235	199	205	180	201	199	190	163	169	197	2,360
	医療保険分	94	86	105	110	111	143	152	110	104	100	98	111	1,324
	計	312	290	340	309	316	323	353	309	294	263	267	308	3,684
2022 (R4) 年度	介護保険分	169	164	171	164	195	186	182	196	201	174	170	193	2,165
	医療保険分	114	123	138	121	112	99	108	128	102	87	69	65	1,266
	計	283	287	309	285	307	285	290	324	303	261	239	258	3,431

手術件数(手術室実施分)

○2021(R3)年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	月平均
手術 件数	総件数	241	222	244	196	231	194	237	230	186	179	154	223	2,537	211.4
	外科	47	47	45	33	39	38	49	47	37	45	25	44	496	41.3
	心血管外科	7	6	8	8	9	4	4	8	5	2	3	5	69	5.8
	脳神経外科	8	6	9	3	13	8	9	12	7	5	8	5	93	7.8
	整形外科	100	95	100	87	88	77	93	88	72	73	72	79	1,024	85.3
	産婦人科	7	2	5	2	3	5	4	6	4	3	5	3	49	4.1
	泌尿器科	14	11	16	10	11	15	14	15	15	13	6	11	151	12.6
	耳鼻咽喉科	2	2	3	4	5	1	4	6	6	3	0	1	37	3.1
	歯科口腔外科	4	0	1	3	5	3	3	4	3	3	2	5	36	3
	眼科	52	52	57	46	58	42	57	44	36	32	32	69	577	48.1
その他	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4	0.3	
手術 点数	200～ 2999点	44	47	36	37	51	40	33	35	38	31	27	52	471	39.3
	3000～ 7999点	9	15	25	18	31	17	19	28	17	17	19	23	238	19.8
	8000点 以上	184	159	182	141	147	136	184	164	130	124	108	147	1,806	150.5
	自費・ 算定不可	4	1	1	0	2	1	1	2	1	7	0	1	21	1.8
(再掲)時間外手術	43	25	41	25	27	25	47	39	21	38	28	16	375	31.3	
麻酔 件数	全麻	147	125	138	122	128	119	140	142	119	114	92	123	1,509	125.8
	腰麻	15	13	17	10	12	8	12	10	10	2	0	3	112	9.3
	局麻	72	78	81	58	78	63	75	72	52	47	48	89	813	67.8
	その他	7	6	8	6	13	4	10	6	5	16	14	8	103	8.6
麻酔 点数	1000点 未満	95	98	105	73	98	71	95	89	67	66	62	102	1,021	85.1
	1000点 以上	146	124	139	123	133	123	142	141	119	113	92	121	1,516	126.3

○2022(R4)年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計	月平均
手術 件数	総件数	224	212	236	222	230	181	241	218	138	159	140	196	2,397	199.8
	外科	55	40	46	50	43	45	45	45	26	28	41	53	517	43.1
	心血管外科	6	6	6	6	5	8	9	0	1	5	4	7	63	5.3
	脳神経外科	9	9	9	8	9	5	10	8	8	6	7	9	97	8.1
	整形外科	85	75	92	77	97	72	90	98	63	81	70	93	993	82.8
	産婦人科	5	3	4	7	3	3	7	5	2	0	3	4	46	3.8
	泌尿器科	14	15	13	17	16	17	14	14	9	9	11	17	166	13.8
	耳鼻咽喉科	3	4	6	5	7	4	3	3	5	2	1	6	49	4.1
	歯科口腔外科	3	4	5	4	2	4	5	3	1	3	3	7	44	3.7
	眼科	43	56	54	48	48	22	57	42	23	25	0	0	418	34.8
その他	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	4	0.3	
手術 点数	200～ 2999点	45	45	42	42	34	25	51	38	31	32	12	24	421	35.1
	3000～ 7999点	30	26	23	26	38	20	24	25	15	15	13	21	276	23
	8000点 以上	149	139	168	152	157	135	164	154	92	110	115	149	1,684	140.3
	自費・ 算定不可	0	2	3	2	1	1	2	1	0	2	0	2	16	1.3
(再掲)時間外手術	32	25	33	44	53	40	42	43	26	34	30	45	447	37.3	
麻酔 件数	全麻	139	114	136	126	139	126	135	139	92	105	108	148	1,507	125.6
	腰麻	0	0	0	0	0	12	11	8	3	5	10	11	60	5
	局麻	0	2	3	2	1	1	2	1	0	2	0	2	16	1.3
	その他	20	16	16	23	19	7	12	13	5	5	1	10	147	12.3
麻酔 点数	1000点 未満	85	98	99	96	91	55	106	79	46	53	31	48	887	73.9
	1000点 以上	139	114	137	126	139	126	135	139	92	106	109	148	1,510	125.8

☝ コ・メディカルデータ

○薬剤部

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
薬剤師人数	人	R3年度	15	15	15	15	15	15	14	15	15	15	15	15	15	179
		R4年度	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
薬剤管理指導 件数	件	R3年度	362	340	524	704	649	669	632	720	899	785	477	644	7,405	
		R4年度	473	547	658	526	630	516	493	525	405	509	585	538	6,405	
後発医薬品採用 品目数比率	%	R3年度	64.1%	64.7%	64.7%	64.7%	64.6%	67.9%	62.4%	67.3%	62.1%	62.5%	63.3%	63.5%	64.3%	
		R4年度	64.1%	64.7%	63.6%	63.9%	64.0%	69.9%	65.2%	65.4%	64.1%	64.5%	64.7%	63.7%	64.8%	
(購入金額 ベース)	%	R3年度	(70.0%)	(68.3%)	(70.1%)	(66.5%)	(69.2%)	(67.7%)	(65.3%)	(64.6%)	(63.3%)	(58.5%)	(67.3%)	(71.3%)	(66.8%)	
		R4年度	(75.2%)	(77.8%)	(62.8%)	(59.9%)	(55.7%)	(53.7%)	(58.6%)	(53.7%)	(58.4%)	(55.9%)	(56.4%)	(59.6%)	(60.6%)	
[消費数量 ベース]	%	R3年度	[92.6%]	[94.1%]	[93.1%]	[92.9%]	[93.5%]	[93.4%]	[91.5%]	[91.0%]	[90.6%]	[91.1%]	[92.3%]	[92.5%]	[92.4%]	
		R4年度	[92.2%]	[93.6%]	[93.1%]	[94.2%]	[9.2%]	[93.1%]	[94.7%]	[94.7%]	[93.0%]	[92.2%]	[94.4%]	[93.9%]	[93.5%]	
調剤件数	件	R3年度	73,336	73,272	75,574	70,318	71,530	75,250	76,549	83,029	88,963	85,011	72,291	90,055	935,178	
		R4年度	81,800	75,038	77,529	72,506	83,764	76,783	83,737	73,952	77,753	75,835	71,487	78,592	928,776	

○診療放射線科

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
診療放射線技師 人数	人	R3年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	—
		R4年度	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	—
エックス線診断 ・単純	人	R3年度	2,118	1,813	1,998	2,319	1,863	1,927	2,032	2,042	2,069	1,955	1,460	2,171	23,767	
		R4年度	2,099	1,920	2,010	2,363	2,223	2,070	2,157	2,105	1,698	1,922	1,890	2,257	24,714	
エックス線診断 ・造影	人	R3年度	164	112	148	143	147	150	168	153	177	162	196	182	1,902	
		R4年度	176	137	159	155	166	166	149	164	145	140	225	173	1,955	
エックス線診断 ・血管造影	人	R3年度	20	10	15	12	13	16	17	11	18	13	8	10	163	
		R4年度	16	15	11	10	10	20	17	15	7	7	9	11	148	
SPECT	人	R3年度	74	86	77	74	71	68	83	76	93	76	65	74	917	
		R4年度	71	92	95	80	93	86	95	80	57	61	87	105	1,002	
PET、PET/CT	人	R3年度	45	20	31	41	42	21	51	43	32	32	12	32	402	
		R4年度	35	29	51	36	43	38	33	32	28	26	32	38	421	
CT	人	R3年度	1,140	1,164	1,559	1,494	1,146	1,134	1,270	1,188	1,222	1,110	914	1,251	14,592	
		R4年度	1,206	1,107	1,246	1,130	1,201	1,149	1,230	1,206	1,048	1,094	1,091	1,256	13,964	
MRI	人	R3年度	412	369	417	415	425	385	436	437	467	369	280	401	4,813	
		R4年度	382	399	418	380	391	365	390	373	341	269	335	438	4,481	
放射線治療	人	R3年度	137	142	198	217	226	260	375	235	195	178	246	252	2,661	
		R4年度	159	234	245	142	234	247	143	73	106	0	0	0	1,583	

○栄養管理室

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
栄養食事指導 ・入院	件	R2年度	136	125	119	111	110	81	66	51	48	66	22	19	954
		R3年度	38	35	40	32	38	30	44	57	33	30	60	64	501
栄養食事指導 ・外来	件	R2年度	44	35	39	48	44	55	46	41	39	42	30	33	496
		R3年度	38	33	29	41	33	36	31	43	44	40	50	49	467
栄養食事指導 ・集団	件	R2年度	3	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	9
		R3年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養食事指導 ・非加算	件	R2年度	18	11	10	9	5	4	7	20	21	3	0	2	110
		R3年度	4	2	5	4	7	4	2	2	0	1	7	1	39

○臨床工学技士

	単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
透析患者数	人	R3年度	44	41	43	45	39	38	43	40	42	46	45	47	513
		R4年度	45	43	38	41	40	46	41	44	38	42	41	40	499
透析実施件数	件	R3年度	500	482	500	506	467	473	496	507	530	595	496	540	6,092
		R4年度	533	495	478	435	505	486	523	517	498	462	440	502	5,874
高気圧酸素治療 実施件数	件	R3年度	94	208	160	202	201	154	142	138	121	196	181	182	1,979
		R4年度	225	155	228	198	153	175	230	206	161	115	203	219	2,268

○臨床検査科

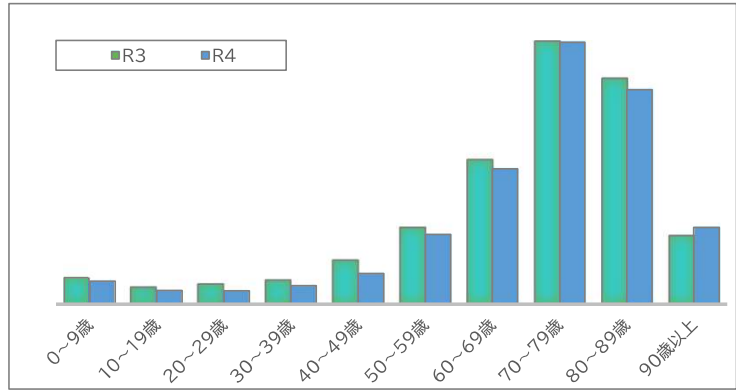
		単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査	一般検査	件	R3年度	3,988	3,667	4,146	4,012	4,163	4,067	4,110	4,248	4,509	3,906	3,424	4,520	48,760
			R4年度	4,168	3,802	4,360	4,126	4,232	4,373	4,241	4,114	3,826	3,804	3,640	4,043	48,729
	血液学的検査	件	R3年度	12,794	12,327	12,642	12,747	13,075	12,668	13,089	12,967	13,448	12,924	11,373	13,960	154,014
			R4年度	13,293	12,843	13,577	13,332	13,758	13,298	13,261	12,488	12,100	12,027	11,458	13,034	154,469
	生化学的検査	件	R3年度	69,970	66,364	69,406	69,513	70,204	69,860	71,556	71,331	73,356	69,932	62,310	75,563	839,365
			R4年度	69,415	65,343	70,846	69,018	71,753	69,243	67,637	64,683	63,064	61,662	60,132	68,535	801,331
	免疫学的検査	件	R3年度	9,100	9,034	9,207	23,866	9,364	9,103	9,513	9,413	9,514	10,030	8,786	10,815	127,745
			R4年度	10,425	9,978	11,072	10,757	11,196	10,304	10,013	9,551	10,004	10,170	9,222	10,426	123,118
	微生物学的検査	件	R3年度	1,202	1,303	1,301	1,363	1,470	1,316	1,372	1,395	1,690	1,435	1,116	1,484	16,447
			R4年度	1,391	1,313	1,507	1,382	1,478	1,345	1,288	1,265	1,100	1,109	1,304	1,466	15,948
生理検査	心電図	件	R3年度	533	480	481	461	497	512	537	534	451	447	401	551	5,885
			R4年度	508	488	575	482	511	499	528	535	374	479	478	518	5,975
	呼吸機能検査	件	R3年度	118	92	88	68	94	82	102	134	90	110	28	32	1,038
			R4年度	30	44	78	67	66	58	81	78	50	53	61	82	748
	脳波検査	件	R3年度	38	29	30	23	33	57	49	46	81	86	73	110	655
			R4年度	81	103	102	106	74	73	97	116	61	56	108	106	1,083
	心エコー	件	R3年度	264	263	247	213	240	219	278	289	243	242	183	287	2,968
			R4年度	244	231	286	251	234	240	246	272	183	260	237	250	2,934
	腹部エコー	件	R3年度	144	126	132	157	163	133	154	164	147	143	114	156	1,733
			R4年度	44	136	183	165	160	146	154	163	135	141	155	157	1,739
体表エコー(甲状腺)	件	R3年度	83	79	76	84	67	50	103	92	93	87	69	106	989	
		R4年度	64	81	106	79	74	80	90	91	74	66	68	80	953	
血管エコー(頸動脈)	件	R3年度	89	82	83	104	86	76	77	93	91	54	49	86	970	
		R4年度	87	79	78	62	68	69	78	53	78	47	52	70	821	
乳腺エコー	件	R3年度	37	26	50	48	58	52	39	41	66	30	30	53	530	
		R4年度	36	42	42	47	33	38	43	46	53	35	39	42	496	

○リハビリテーション科

		単位	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	職員数	人	R3年度	14	14.0	14	14	14	14	14	14	13	13	13	13	164
			R4年度	14	14.0	14	14	14	14	14	14.0	14	14.0	14	14	168
	単位数	単位	R3年度	3,577	3,874	3,905	3,721	3,877	4,077	4,092	3,992	3,602	3,430	3,285	3,779	45,211
			R4年度	3,446	3,598	3,614	3,857	4,129	4,012	3,966	3,977	3,432	3,375	3,347	3,963	44,716
1人1日当たり単位数	単位	R3年度	13.2	14.3	14.4	14.1	14.4	15.1	15.2	16.4	15.5	15.2	14.5	15.2	14.8	
		R4年度	13.5	13.8	13.4	14.4	15.5	15.4	15.3	15.9	14.8	15.1	15.5	13.7	14.7	
作業療法	職員数	人	R3年度	10	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	129
			R4年度	11	11	11	11	10	10	10	10	10	9	9	9	
	単位数	単位	R3年度	2,504	2,651	2,928	3,028	2,944	2,759	3,128	3,169	2,876	2,455	2,274	2,727	33,443
			R4年度	2,764	3,011	3,160	3,080	2,747	2,682	2,895	3,032	2,589	2,575	2,350	2,447	33,332
1人1日当たり単位数	単位	R3年度	12.6	14.9	15.2	14.4	14.9	14.0	15.0	16.5	14.8	14.1	14.4	14.9	14.7	
		R4年度	14.0	15.0	15.1	15.0	16.1	16.0	15.7	16.4	15.2	15.9	16.2	14.4	15.4	
言語聴覚	職員数	人	R3年度	3	3.0	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	30
			R4年度	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	単位数	単位	R3年度	450	441	573	506	595	448	476	521	529	376	412	497	5,824
			R4年度	536	661	679	678	715	656	759	731	621	593	506	395	7,530
1人1日当たり単位数	単位	R3年度	7.8	8.2	9.4	8.6	9.8	8.3	12.9	13.4	14.3	11.8	12.5	13.3	10.4	
		R4年度	9.2	11.4	11.1	11.3	12.5	11.5	13.3	13.9	12.2	12.1	11.6	8.5	11.6	
退院時リハ	件	R3年度	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
		R4年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

年齢階級別退院患者数

年齢階級	令和3年度	令和4年度
0～9歳	169	149
10～19歳	112	89
20～29歳	132	87
30～39歳	158	120
40～49歳	283	196
50～59歳	492	447
60～69歳	924	867
70～79歳	1,679	1,677
80～89歳	1,442	1,373
90歳以上	440	492



診断群分類別患者数等 (診療科別患者数上位5位まで)

※患者数10件未満を除く

○糖尿病・血液内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	130030xx99x5xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-5あり	33	20.12	19.92	3.0%	76.21
	130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群 手術なし 手術・処置等2-4あり	25	10.20	10.12	0.0%	77.84
	130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-4あり	25	14.56	10.66	4.0%	75.72
	130060xx97x40x	骨髄異形成症候群 手術あり 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	21	14.57	18.76	4.8%	78.90
	10007xxxxxx1xx	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。) 手術・処置等2-1あり	20	14.65	14.41	10.0%	75.00
R4年度	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	28	25.11	21.11	28.6%	80.29
	130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群 手術なし 手術・処置等2-4あり	25	10.24	9.97	0.0%	79.88
	130030xx99x5xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-5あり	22	21.41	19.67	9.1%	69.82
	130040xx99x5xx	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物 手術なし 手術・処置等2-5あり	21	6.00	16.47	0.0%	80.00
	130030xx99x4xx	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-4あり	19	16.95	10.00	5.3%	72.95

○総合診療

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	25	31.16	20.57	68.0%	85.76
	100380xxxxxxxx	体液量減少症	-	-	-	-	-
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	-	-	-	-	-
	180010x0xxx0xx	敗血症(1歳以上) 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-
	010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
R4年度	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	13	29.54	21.11	38.5%	85.62
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	-	-	-	-	-
	070560xx99x00x	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
	180010x0xxx0xx	敗血症(1歳以上) 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-
	100393xx99xxxx	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害 手術なし	-	-	-	-	-

○脳神経内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	29	15.17	15.63	44.8%	73.41
	010155xxxxx2xx	運動ニューロン疾患等 手術・処置等2-2あり	20	11.70	16.43	0.0%	75.30
	010130xx99x4xx	重症筋無力症 手術なし 手術・処置等2-4あり	13	17.38	16.34	7.7%	65.23
	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	11	20.00	7.22	63.6%	69.27
	010060x2990301	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-3あり 定義副傷病-なし	11	15.91	17.99	36.4%	74.45
R4年度	010060x2990301	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-3あり 定義副傷病-なし	34	17.79	18.2	32.4%	72.38
	010110xxxxx4xx	免疫介在性・炎症性ニューロパチー 手術・処置等2-4あり	22	15.14	16.5	9.1%	57.14
	010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	20	9.65	7.329	10.0%	62.55
	010060x2990401	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	19	13.79	15.97	21.1%	73.11
	010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	13	24.23	19.58	53.8%	71

○消化器内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	80	3.24	2.65	29.0%	72.19
	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	50	13.20	9.21	1.3%	69.06
	060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	40	13.20	7.96	14.0%	78.66
	060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)その他の手術あり 手術・処置等2-なし	27	19.96	10.48	2.5%	74.68
	060300xx97100x	肝硬変(胆汁性肝硬変を含む。)その他の手術あり 手術・処置等1-あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	26	12.65	11.81	7.4%	76.48
R4年度	060100xx01xxxx	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術	68	3.94	2.64	0.0%	71.09
	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	55	12.31	8.94	9.1%	75.24
	060020xx04xxxx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術	29	9.97	7.76	0.0%	74.07
	060190xx99x0xx	虚血性腸炎 手術なし 手術・処置等2-なし	24	9.58	8.76	0.0%	71.08
	060077xxx9910xx	膵臓、脾臓の腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり 手術・処置等2-なし	22	2.86	4.25	0.0%	73.0

○循環器内科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院 日数	(参考)全 国	転院 割合	平均 年齢
R 3 年 度	050130xx9900xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	58	26.62	17.35	31.0%	85.33
	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	14	29.57	20.57	57.1%	87.07
	050130xx97000x	心不全 その他の手術あり 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
	050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1-なし、1,3あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
	050130xx9902xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり	-	-	-	-	-
R 4 年 度	050130xx9900x0	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	57	24.21	17.54	45.6%	84.7
	050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1-なし、1,3あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	24	15.21	9.89	8.3%	85.33
	040081xx99x0xx	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2-なし	10	20.6	21.11	50.0%	87.4
	050130xx97000x	心不全 その他の手術あり 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
	050130xx9902xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり	-	-	-	-	-
	050130xx9901xx	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-1あり	-	-	-	-	-

○小児科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院 日数	(参考)全 国	転院 割合	平均 年齢
R 3 年 度	040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他) 定義副傷病-なし	26	4.54	5.83	0.0%	2.19
	060380xxxxxx00x	ウイルス性腸炎 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	18	2.89	5.53	0.0%	5.78
	180030xxxxxx00x	その他の感染症(真菌を除く。) 定義副傷病-なし	17	3.41	10.47	0.0%	1.47
	040100xxxxxx00x	喘息 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	16	3.63	6.24	0.0%	2.38
	140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害(出生時体重2500g以上) 手術なし 手術・処置等2-なし	12	8.00	6.13	8.3%	0.00
R 4 年 度	060380xxxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2-なし	17	2.88	5.70	0.0%	3.71
	040090xxxxxx0xx	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	15	3.33	5.89	0.0%	1.00
	040100xxxxxx00x	喘息 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	11	3.82	6.05	0.0%	4.55
	180030xxxxxx00x	その他の感染症(真菌を除く。) 定義副傷病-なし	10	3.50	9.48	0.0%	2.70
	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
	140010x199x0xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害(2500g以上) 手術なし 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-

○外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	060035xx99x6xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり	55	5.60	4.54	9.1%	72.29
	090010xx99x4xx	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり	51	2.12	3.94	0.0%	58.00
	090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等1-なし	48	12.96	10.15	4.2%	64.88
	060335xx02000x	胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	44	9.07	7.11	4.5%	66.48
	090010xx02xxxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの)	40	6.13	5.88	0.0%	62.30
R4年度	090010xx010xxx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴うもの(内視鏡下によるものを含む。))等 手術・処置等1-なし	57	10.75	9.99	0.0%	59.84
	060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	55	5.455	4.59	1.8%	72.95
	090010xx99x40x	乳房の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	46	2	3.66	0.0%	57.76
	060035xx99x6xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり	45	5.089	4.44	11.1%	71.87
	060035xx010x0x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1-なし 定義副傷病-なし	44	15.3	15.40	4.5%	75.23

○心臓血管外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	21	2.00	2.75	0.0%	72.76
	050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	15	8.20	5.32	6.7%	77.13
	050180xx99xx0x	静脈・リンパ管疾患 手術なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
	050163xx03x0xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 スtentグラフト内挿術 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-
	050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-あり	-	-	-	-	-
R4年度	050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	17	2.35	2.66	0.0%	73.06
	050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	-	-	-	-	-
	050163xx03x0xx	非破裂性大動脈瘤、腸骨動脈瘤 スtentグラフト内挿術 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-
	100100xx99x0xx	糖尿病足病変 手術なし 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-
	050161xx9900xx	大動脈解離 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-

○整形外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	177	28.59	25.32	83.6%	84.34
	160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)手術なし	69	21.09	19.34	79.7%	80.80
	070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。)人工関節再置換術等	40	38.78	23.02	10.0%	75.70
	160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 定義副傷病-なし	38	23.00	4.99	5.3%	65.87
	070343xx99x1xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)腰部骨盤、不安定椎手術なし 手術・処置等2-1あり	30	2.00	2.68	0.0%	78.43
R4年度	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	183	33.83	26.42	84.2%	83.19
	160690xx99xxxx	胸椎、腰椎以下骨折損傷(胸・腰髄損傷を含む。)手術なし	51	24.12	20.09	64.7%	84.16
	070230xx01xxxx	膝関節症(変形性を含む。)人工関節再置換術等	40	39.45	22.44	5.0%	74.8
	070343xx01x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)腰部骨盤、不安定椎脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)前方椎体固定等 手術・処置等2-なし	29	51.38	20.05	31.0%	76.45
	070343xx99x1xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。)腰部骨盤、不安定椎手術なし 手術・処置等2-1あり	29	2.552	2.62	0.0%	76.1

○脳神経外科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院日数	(参考)全国	転院割合	平均年齢
R3年度	010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	19	20.53	15.57	63.2%	69.11
	010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	18	26.11	11.78	50.0%	81.72
	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	16	19.81	8.30	50.0%	72.94
	010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	13	25.15	18.90	69.2%	76.08
	010040x199x0xx	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10以上)手術なし 手術・処置等2-なし	13	22.23	22.42	92.3%	75.77
R4年度	010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	16	16.75	11.85	0.25	75.75
	160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	15	17.53	8.54	0.40	76.93
	010060x2990201	脳梗塞(脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-2あり 定義副傷病-なし	14	18.93	16.01	0.29	71.14
	010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満)手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	11	27.64	19.58	0.64	70.73
	160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病-なし	11	12.55	10.14	0.55	76.45

○泌尿器科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院 日数	(参考)全 国	転院 割合	平均 年齢
R 3 年 度	110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり	83	2.04	2.50	0.0%	73.24
	11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病-なし	30	2.97	7.16	43.3%	82.47
	110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	27	9.30	8.23	0.0%	77.96
	110070xx03x0xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等2-なし	21	7.52	7.02	4.8%	77.62
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	17	16.82	13.14	29.4%	76.00
R 4 年 度	110080xx991xxx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり	83	2.01	3.01	4.01	5.01
	11012xxx97xx0x	上部尿路疾患 その他の手術あり 定義副傷病-なし	36	2.83	7.20	41.7%	84.97
	110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	24	8.58	7.82	0.0%	76.63
	110310xx99xxxx	腎臓又は尿路の感染症 手術なし	17	12.06	13.61	11.8%	72.12
	110070xx02xxxx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術+術中血管等描出撮影加算	16	7.38	6.89	0.0%	78.31

○産婦人科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院 日数	(参考)全 国	転院 割合	平均 年齢
R 3 年 度	12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	16	13.38	4.34	0.0%	65.00
	12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等2-なし	17	15.00	11.55	0.0%	65.88
	120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	18	10.14	9.39	0.0%	32.29
	120010xx99x50x	卵巣・子宮付属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 定義副傷病-なし	19	11.71	4.23	0.0%	82.57
	12002xxx03x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮内膜掻爬術 手術・処置等2-なし	20	3.14	2.56	0.0%	66.57
R 4 年 度	060030xx99x30x	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-3あり 定義副傷病-なし	22	4.227	6.073	0	80.86
	12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-なし	14	13.21	4.275	0	67.14
	12002xxx99x41x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病-あり	13	12.23	8.106	0	63.23
	120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	-	-	-	-	-
	12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腔部)切除術等 手術・処置等2-なし	-	-	-	-	-

○眼科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院 日数	(参考)全 国	転院 割合	平均 年齢
R 3 年 度	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2-なし	8	2.00	2.94	0.0%	73.63
	020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり	7	3.14	2.71	0.0%	78.71
	020200xx99x2xx	黄斑、後極変性 手術なし 手術・処置等2-2あり	5	2.00	2.42	0.0%	80.60
	020320xx97xxxx	眼瞼、涙器、眼窩の疾患 手術あり	2	2.00	3.11	0.0%	78.00
	020210xx99x1xx	網膜血管閉塞症 手術なし 手術・処置等2-あり	2	2.00	2.38	0.0%	82.00
R 4 年 度	020250xx97xxxx	結膜の障害 手術あり	2	2.50	3.09	0.0%	64.5
	02006xxx97xxxx	眼の良性腫瘍 手術あり	1	2.00	3.43	0.0%	84.0
	020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2-なし	1	2.00	2.90	0.0%	67.0

※上記は一般病棟のみの集計であり、白内障手術の多くは地域包括ケア病棟にて実施。

○耳鼻咽喉科

年度	DPCコード	DPC名称	件数	平均在院 日数	(参考)全 国	転院 割合	平均 年齢
R 3 年 度	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	30	5.77	4.92	0.0%	69.37
	030428xxxxxxxx	突発性難聴	15	13.33	8.75	0.0%	59.67
	030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	13	11.62	7.84	0.0%	27.85
	030390xx99xxxx	顔面神経障害 手術なし	12	11.83	9.01	0.0%	57.08
	030380xxxxxxxx	鼻出血	11	5.00	5.37	9.1%	71.45
R 4 年 度	030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	19	5.58	4.79	5.3%	67.58
	030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	12	11.75	7.73	0.0%	27.92
	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	11	11.00	5.69	9.1%	35.55
	030428xxxxxxxx	突発性難聴	11	11.00	8.56	0.0%	46.09
	030380xxxxxxxx	鼻出血	-	-	-	-	-

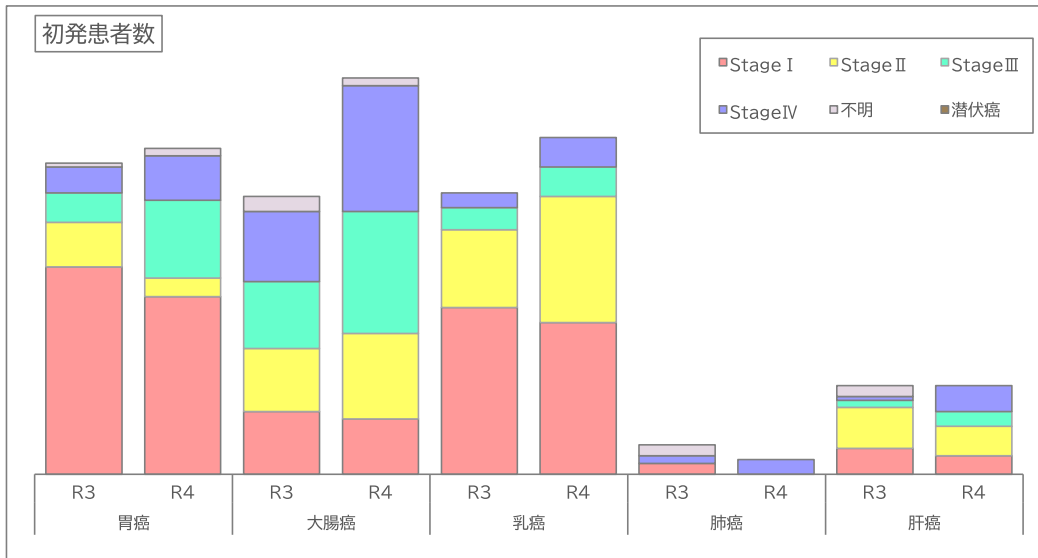
初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数

○令和3年度

	初発						再発
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	潜伏癌	不明	
胃癌	56	12	8	7	-	1	99
大腸癌	17	17	18	19	-	4	271
乳癌	45	21	6	4	-	-	118
肺癌	3	-	-	2	-	3	17
肝癌	7	11	2	1	-	3	47

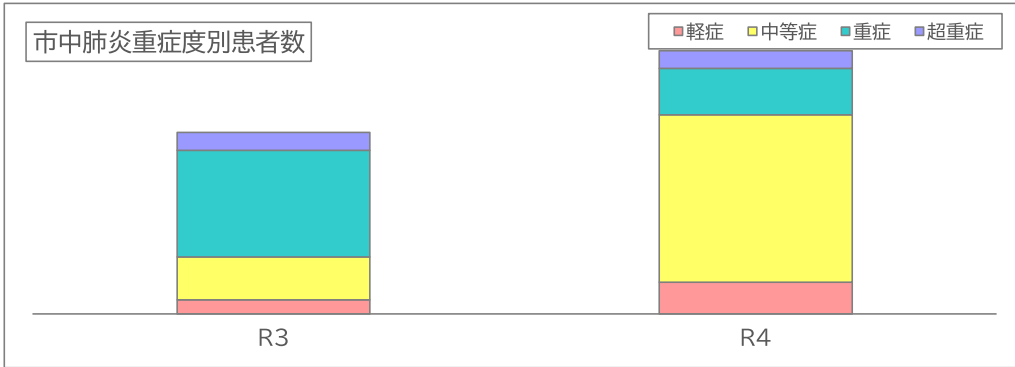
○令和4年度

	初発					再発
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明	
胃癌	48	5	21	12	2	78
大腸癌	15	23	33	34	2	205
乳癌	41	34	8	8	-	130
肺癌	-	-	-	4	-	8
肝癌	5	8	4	7	-	36



成人市中肺炎の重症度別患者数等

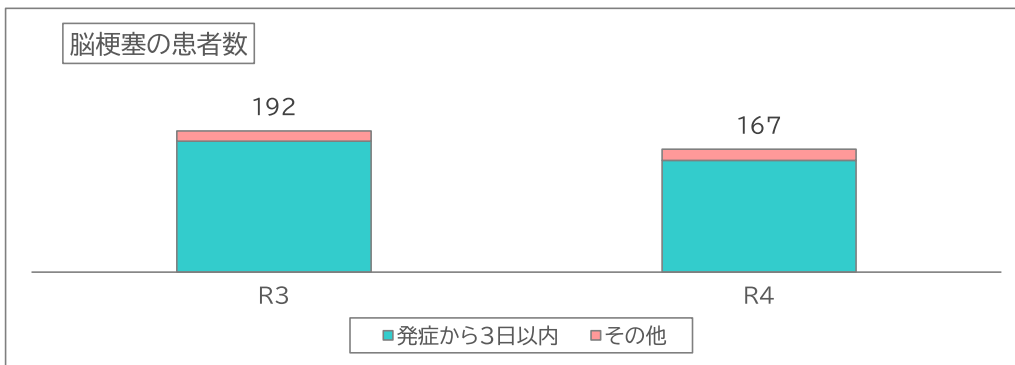
	令和3年度			令和4年度		
	件数	平均在院日数	平均年齢	件数	平均在院日数	平均年齢
軽症	4	8.25	60.25	9	12.44	77.11
中等症	12	38.25	86.67	47	23.77	76.98
重症	30	23.63	77.27	13	22.38	87.69
超重症	5	12.2	83.2	5	11.4	72.8



○市中肺炎の定義：入院契機病名、および最も医療資源を投入した傷病名が肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（DPC 040080相当）でさらにその中でもICD-10コードがJ13～J18で始まるもの
 ※インフルエンザ等、ウイルス性肺炎(DPC 040070相当)、誤嚥性肺炎(DPC 040081)は除外
 また、市中肺炎であるので入院後発症の肺炎、一般病棟外からの転入、他院からの転院も除外

脳梗塞の患者数

	発症から3日以内				その他			
	件数	平均在院日数	平均年齢	転院率	件数	平均在院日数	平均年齢	転院率
令和3年度	178	22.31	76.99	61.2%	14	19.14	76	57.1%
令和4年度	152	23.65	77	44.7%	15	28.53	71	80.0%



※最も医療資源を投入した病名が脳梗塞(ICD-10の上3桁)で集計

診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

○消化器内科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル未満)	70	1.59	2.53	1.4%	69.24
	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	53	3.28	14.02	11.3%	80.34
	K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術)	39	1.13	11.13	2.6%	74.95
	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル以上)	33	0.97	3.85	6.1%	69.79
	K6871	内視鏡的乳頭拡張術・内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のもの)	28	1.71	9.96	17.9%	77.46
R4年度	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル未満)	52	0.83	4.10	0.0%	72.04
	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	46	2.07	12.54	10.9%	74.78
	K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術(早期悪性腫瘍胃粘膜下層剥離術)	30	1.00	7.93	0.0%	74.07
	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル以上)	30	0.03	4.23	0.0%	71.77
	K6871	内視鏡的乳頭拡張術・内視鏡的乳頭切開術(乳頭括約筋切開のもの)	27	2.19	7.90	7.4%	81.06

○循環器内科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K597-2	ペースメーカー交換術	5	1.00	9.40	40.0%	91.6
	K5972	ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	5	4.60	16.40	20.0%	82.8
	K386	気管切開術	3	8.33	79.33	100.0%	92
	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル以上)	2	23.50	15.50	50.0%	77
	K596	体外ペースメーカーリング術	2	0.50	28.50	0.0%	92
R4年度	K5972	ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)	13	8.08	14.62	0.077	86.08
	K597-2	ペースメーカー交換術	13	1	9.77	0.077	84.08
	K386	気管切開術	-	-	-	-	-
	K596	体外ペースメーカーリング術	-	-	-	-	-
	K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	-	-	-	-	-

○外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	64	2.69	6.03	3.1%	65.3
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	58	1.72	8.40	1.7%	65.38
	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	41	5.17	13.66	7.3%	73.46
	K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	40	1.13	4.00	0.0%	62.3
	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	32	0.72	3.47	0.0%	74.38
R4年度	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	60	1.27	6.45	1.7%	65.57
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)・抗悪性腫瘍剤動脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	54	0.31	2.18	0.0%	71.21
	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	49	2.55	16.94	6.1%	75.10
	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	44	0.80	3.43	2.3%	72.48
	K4762	乳腺悪性腫瘍手術(乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの))	38	1.00	2.53	0.0%	59.11

○心臓血管外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	24	4.17	15.29	8.3%	79.5
	K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	21	0.00	1.00	0.0%	72.76
	K56120	ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	-	-	-	-	-
	K0871	断端形成術(骨形成を要するもの)(指)	-	-	-	-	-
	K6093	動脈血栓内膜摘出術(その他のもの)	-	-	-	-	-
R4年度	K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	19	3.05	39.79	15.8%	79.16
	K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	17	0.12	1.24	0.0%	73.06
	K56120	ステントグラフト内挿術(腹部大動脈)	-	-	-	-	-
	K6093	動脈血栓内膜摘出術(その他のもの)	-	-	-	-	-
	K084	四肢切断術(足)・四肢切断術(大腿)	-	-	-	-	-

○整形外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K0461	骨折観血的手術(上腕・大腿)	109	2.82	24.31	78.9%	83.94
	K0811	人工骨頭挿入術(肩・股)	78	4.14	27.73	79.5%	82.51
	K0821	人工関節置換術(股・膝)	72	5.44	38.00	11.1%	74.83
	K0462	骨折観血的手術(下腿・前腕)	49	1.43	22.31	2.0%	55.55
	K1424	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)(前方後方向同時固定)	33	7.76	44.79	36.4%	76.48
R4年度	K0461	骨折観血的手術(上腕)・骨折観血的手術(大腿)	135	2.32	27.32	76.3%	69.35
	K0811	人工骨頭挿入術(股)	71	3.30	31.51	85.9%	82.3
	K0821	人工関節置換術(肩)・人工関節置換術(股)・人工関節置換術(膝)	66	2.97	39.13	7.6%	77.1
	K0462	骨折観血的手術(下腿)・骨折観血的手術(前腕)	39	3.73	17.49	12.8%	57
	K1424	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多椎弓の場合を含む。)(前方後方向同時固定)	28	3.39	45.68	32.1%	76.25

○脳神経外科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭による)	21	5.14	22.19	52.4%	80.48
	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	14	5.86	23.79	14.3%	68.5
	K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	-	-	-	-	-
	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	-	-	-	-	-
	K1643	頭蓋内血腫除去術(開頭して行うもの)(脳内のもの)	-	-	-	-	-
R4年度	K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術(穿頭による)・慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	21	4.55	16.73	23.8%	77.23
	K6092	動脈血栓内膜摘出術(内頸動脈)	12	12.75	12.75	8.3%	74.42
	K1742	水頭症手術(シャント手術)	-	-	-	-	-
	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング(1箇所)	-	-	-	-	-
	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術(その他のもの)	-	-	-	-	-

○泌尿器科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	50	2.08	6.64	38.0%	82.94
	K80364	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	44	1.05	5.41	2.3%	76.64
	K8412	経尿道的前立腺手術(その他のもの)	21	1.33	7.14	0.0%	77.48
	K773-2	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	12	2.17	11.17	0.0%	77.42
	K61211	末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純なもの)	12	3.17	8.08	8.3%	76.42
R4年度	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	54	0.11	4.69	33.3%	83.63
	K80364	膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)(電解質溶液利用のもの)	40	1.73	6.73	12.5%	77.9
	K8411	経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用のもの)	24	2.0	6.17	0.0%	77.13
	K843	前立腺悪性腫瘍手術	12	1.92	13.67	0.0%	71.08
	K61211	末梢動静脈瘻造設術(内シャント造設術)(単純なもの)	12	9.33	12.00	25.0%	78.75

○産婦人科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K861	子宮内膜掻爬術	10	1.00	1.10	0.0%	66.6
	K877	子宮全摘術	10	1.30	11.50	0.0%	55.7
	K867	子宮頸部(腔部)切除術	-	-	-	-	-
	K879	子宮悪性腫瘍手術	-	-	-	-	-
	K8982	帝王切開術(選択帝王切開)	-	-	-	-	-
R4年度	K877	子宮全摘術	12	1.00	10.25	0.0%	63.25
	K867	子宮頸部(腔部)切除術	-	-	-	-	-
	K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置(頭頸部その他)	-	-	-	-	-
	K861	子宮内膜掻爬術	-	-	-	-	-
	K8881	子宮附属器腫瘍摘出術(両側)(開腹によるもの)	-	-	-	-	-

○眼科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K28210	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	-	-	-	-	-
	K28220	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	-	-	-	-	-
	K28230	眼瞼内反症手術(皮膚切開法)	-	-	-	-	-
	K28240	虹彩光凝固術	-	-	-	-	-
	K215-2	眼瞼結膜腫瘍手術	-	-	-	-	-
R4年度	K220	結膜縫合術	-	-	-	-	-
	K224	翼状片手術(弁の移植を要するもの)	-	-	-	-	-
	K2191	眼瞼下垂症手術(眼瞼挙筋前転法)	-	-	-	-	-

○耳鼻咽喉科

年度	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
R3年度	K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	14	1.00	9.71	0%	26.21
	K4631	甲状腺悪性腫瘍手術(切除)(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	-	-	-	-	-
	K386	気管切開術	-	-	-	-	-
	K4641	副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術(副甲状腺(上皮小体)摘出術)	-	-	-	-	-
	K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型(副鼻腔単洞手術)	-	-	-	-	-
R4年度	K3772	口蓋扁桃手術(摘出)	16	1.00	9.44	0.0%	25.94
	K6261	リンパ節摘出術(長径3センチメートル未満)	-	-	-	-	-
	K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術2型(副鼻腔単洞手術)	-	-	-	-	-
	K386	気管切開術	-	-	-	-	-
	K4631	甲状腺悪性腫瘍手術(切除)(頸部外側区域郭清を伴わないもの)	-	-	-	-	-

● その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	令和3年度		令和4年度	
			症例数	発症率	症例数	発症率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	4	7.00%	2	0.04%
		異なる	5	9.00%	7	0.13%
180010	敗血症	同一	30	0.51%	14	0.25%
		異なる	7	0.12%	8	0.15%
180040	その他の真菌感染症	同一	30	0.51%	35	0.64%
		異なる	0	0.00%	2	0.04%

※発症率=患者数/全ての退院患者数

MEMO 



 *Section 3*

部門紹介

糖尿病・血液内科

👤 スタッフ

役 職 氏 名	出 身 大 学	専 門 医 認 定 医
統括診療部長 (地域連携連携室長) 鶴 政俊 (ツル マサトシ)	山口大学卒(平成4年)	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医 総合内科専門医
糖尿病・血液内科医長 松井 久未子 (マツイ クミコ)	山口大学卒(平成15年)	日本糖尿病学会専門医 総合内科専門医
糖尿病・血液内科医師 周山 拓也 (スヤマ タクヤ)	筑波大学卒(平成22年)	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医 総合内科専門医



👤 実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		2021年度	2022年度
130030	非ホジキンリンパ腫	113	97
10007x	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	22	12
130060	骨髄異形成症候群	56	42
040080	肺炎等	11	20
040081	誤嚥性肺炎	23	29
130040	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	13	43
100040	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡	21	17
110310	腎臓又は尿路の感染症	14	22
130010	急性白血病	14	47
130110	出血性疾患(その他)	4	6
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	0	3
130090	貧血(その他)	2	2
080010	膿皮症	2	0
060380	ウイルス性腸炎	4	1
050130	心不全	2	4
10006x	1型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)	2	3
180010	敗血症	5	1
100380	体液量減少症	2	3
170020	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	1	5
130080	再生不良性貧血	4	0
130020		2	0
-	その他	59	78
合計		376	435

総合診療

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
副院長 佐藤 穰 (サトウ ユタカ)	山口大学大学院修(昭和62年) ／感染症、血液、内科診断学	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本血液学会専門医 日本医療マネジメント学会評議委員 ICLSディレクター



概要

総合診療科は、臓器別専門科だけでは対応できない患者さんをトータルに診療していく部門として、平成16年に県内に先駆けて開設されました。高齢化社会になってひとりひとりの患者さんが複数の慢性疾患を抱え、診療科が特定できない様々な症状を訴えて病院を受診されます。総合診療外来では、「ドクターG」として丁寧な医療面接と身体診察を行うことにより鑑別診断を行っていきます。そして病態の「緊急性」、「重要性」、「問題解決性」を考慮して治療を計画していきます。また総合診療科は研修医に「総合診療マインド」を習得させる役割を担っております。日々の外来、入院診療が研修医の修行の場となっています。

●対象疾患

総合外来には、発熱などの内科救急の患者さんや、どこの病院でも原因不明と言われて藁をもつかむ気持ちで受診される方もおられます。診断推論の技法を駆使することにより、このような患者さんの多くにおいて、その原因を突き止めることができました。そのような積み重ねが評価され、最近では不明熱や原因不明の不定愁訴の患者さんの精査目的で、地域の先生方から紹介される件数が増えてきました。

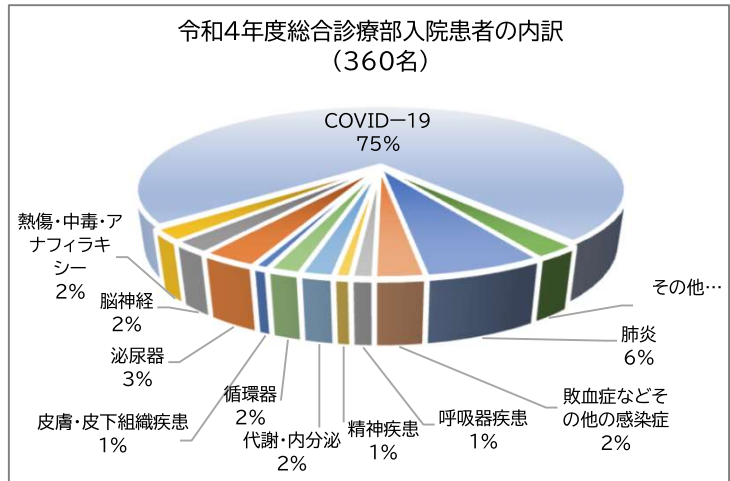
また当院は山口県のエイズ診療中核拠点病院に指定されており、診療科長の佐藤とHIV診療チームが外来および入院診療にあたっています。また2000年末から国内で流行し始めた新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者の外来診療および入院診療もすべて総合診療科が担当しています。

診察実績

総合外来には週あたり平均45.7名、年間2,377名の患者さんが受診されました。午前午後フル回転で、研修医とともに診療に当たっております。地域の先生方からの紹介も多く、その期待に応える責任を感じています。

また入院部門は総合外来からの入院に加えて、救命救急センターからの内科系救急疾患の患者さんの入院を担当しています。昨年1年間は計 名 の患者さんの入院診療に当たってきました。図からもわかるように、疾患ジャンルは感染症を中心に多岐にわたっており、総合診療科をローテートする研修医は自らの臨床能力をフルに発揮させ、さらに関連する専門医とのコミュニケーション能力も求められます。総合診療科が卒後臨床研修の中心的役割を担っている理由がここにあります。

傷病名	2022年度
肺炎	22
敗血症などその他の感染症	9
呼吸器疾患	4
精神疾患	3
代謝・内分泌	6
循環器	6
皮膚・皮下組織疾患	3
泌尿器	11
脳神経	8
熱傷・中毒・アナフィラキシー	8
COVID-19	271
その他	9
合計	360



(佐藤 穰)

精神科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
精神科医長 若林 祐介 (ワカバヤシ ユウスケ)	山口大学卒(平成14年) 山口大学大学院 単位取得退学(平成20年)	医学博士 精神保健指定医 日本精神神経学会 精神科専門医/指導医 精神腫瘍学の基本教育に関する指導者



概要

精神科では、うつ病、ストレス関連障害、パニック障害、不眠症、統合失調症、認知症などを診療対象としています。精神科を標榜する医療機関には、「大学病院の精神科」「精神科病院」「精神科クリニック」の他に、当科のような「総合病院精神科」があります。さまざまな精神疾患の診療をおこなうのは他の精神科医療機関と同じですが、総合病院精神科では体の病気を抱えた方の精神的不調に対して、内科・外科など他の診療科と密に連携しながら治療を受けやすいというメリットがあります。当科でも通常の外来診療、救急外来での急患対応と並んで、リエゾン精神医学と呼ばれる他科入院中の患者さんに対する関わりが診療の大きな柱となっています。

・リエゾン精神医学とは

「リエゾン(liaison)」とはフランス語で「連携」や「連絡」を意味する言葉です。「リエゾン精神医学」は、身体疾患に伴うさまざまな精神疾患や課題にチーム医療で取り組もうとする包括的な治療・ケアのことです。当院では精神科医と身体科の担当医だけでなく、臨床心理士、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種で密接な連携をとりながら患者さんの精神的不調・課題に対応しています。

実績

○外来

ICD-10分類		2021年度	2022年度
F0	認知症、せん妄など	12	18
F1	アルコール依存症など	2	3
F2	統合失調症など	7	7
F3	うつ病、躁うつ病など	12	12
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	45	45
F5	摂食障害、不眠症など	11	9
F6	パーソナリティ障害など	0	4
F7	知的障害など	2	1
F8	広汎性発達障害など	5	4
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	2	0
その他	診断なし、てんかんなど	11	13
合計(人)		109	116
平均年齢(才)		53	53

○リエゾン(他科入院中の患者さんの精神科への紹介件数)

ICD-10分類		2021年度	2022年度
F0	認知症、せん妄など	152	180
F1	アルコール依存症など	5	10
F2	統合失調症など	19	25
F3	うつ病、躁うつ病など	10	11
F4	神経症性障害、ストレス関連障害など	10	10
F5	摂食障害、不眠症など	19	14
F6	パーソナリティ障害など	1	1
F7	知的障害など	5	4
F8	広汎性発達障害など	1	1
F9	多動性障害、小児期の情緒障害など	2	0
その他	診断なし、てんかんなど	14	10
合計(人)		238	266
平均年齢(才)		77.0	77.9

(若林 祐介)

脳神経内科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経内科医長 田中 信一郎 (タナカ シンイチロウ)	山口大学大学院修(平成11年) ／脳神経内科疾患全般、脳血管障 害、末梢神経障害、パーキンソン病	日本神経学会神経内科専門
脳神経内科医師 尾本 雅俊 (オモト マサトシ)	山口大学(平成10年) ／脳神経内科	日本神経学会神経内科専門医 日本内科学会総合内科専門医
脳神経内科医師 押部 奈美子 (オシベ ナミコ)	山口大学(平成30年) ／脳神経内科	
脳神経内科医師 池川 眞之 (イケガワ マサユキ)	産業医科大学(令和2年) ／脳神経内科	



概要

内科の一部門で、循環器内科が心臓や血管を、消化器内科が胃腸や肝臓を、それぞれ主に診療の対象とするように脳と神経を診療の対象とします。脳神経外科と扱う疾患が重なりますが、薬物を使った治療が主体です。多い病気としては脳梗塞、頭痛、パーキンソン病、てんかん、認知症、末梢神経障害などがあります。稀ですが、重要な病気として筋萎縮性側索硬化症、脳炎・髄膜炎、クロイツフェルト・ヤコブ病、重症筋無力症、多発筋炎などがあります。自己免疫疾患、遺伝子疾患等、以前は限られた治療しかなかった病気も近年次々と新しい治療法が登場している分野でもあります。

実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		2021年度	2022年度
010060	脳梗塞	111	115
010230	てんかん	13	32
010155	運動ニューロン疾患等	25	17
010110	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	11	24
010130	重症筋無力症	15	12
040080	肺炎等	9	18
010040	非外傷性頭蓋内血腫(非外傷性硬膜下血腫以外)	9	17
010160	パーキンソン病	10	12
040081	誤嚥性肺炎	7	10
010061	一過性脳虚血発作	9	7
070560	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患	6	8
010080	脳脊髄の感染を伴う炎症	5	6
010081	免疫介在性脳炎・脊髄炎	0	11
010310	脳の障害(その他)	5	6
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	3	6
010170	基底核等の変性疾患	2	6
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	2	5
110310	腎臓又は尿路の感染症	3	4
010190	遺伝性運動失調症	3	3
080010	膿皮症	0	6
-	その他	60	60
総計		308	385

(田中 信一郎)

消化器内科

👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
臨床研究部長 消化器内科医長 戒能 聖治 (カノウ セイジ)	山口大学卒(平成6年) 山口大学大学院修(平成12年) ／胆道・膵臓	日本内科学会 総合内科専門医 日本消化器病学会 専門医・認定医 日本消化器内視鏡学会 指導医 日本膵臓学会 認定指導医 日本胆道学会 認定指導医
消化器内科医長 坂口 栄樹 (サカグチ エイキ)	山口大学卒(平成8年) 山口大学大学院修(平成14年) ／肝臓	日本消化器病学会 専門医 日本肝臓学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 専門医
消化器内科医師 原野 恵 (ハラノ メグミ)	山口大学卒(平成14年) ／胆道・膵臓	日本内科学会 認定医 日本消化器病学会 専門医 日本消化器内視鏡学会 指導医 日本胆道病医学会 認定指導医
消化器内科医師 千原 大典 (チハラ ダイスケ)	福岡大学卒(平成22年) ／消化器全般	日本救急医学会認定ICLSコースディレクター
消化器内科医師 小川 亮 (オガワ リョウ)	山口大学卒(平成24年) ／消化器内視鏡	



概要

当科では消化管(食道・胃・小腸・大腸)、肝臓、膵臓、胆道(胆のう・胆管)の病気の診断や治療を主に行っています。消化管では食道、胃、大腸の腫瘍の診断や内視鏡的治療を積極的に行っています。また出血性の消化管疾患に対する内視鏡的治療等も行っています。

肝臓領域では肝機能障害の診断や治療、B型・C型肝炎に対する抗ウイルス療法や肝癌に対する経皮的治療(ラジオ波焼灼療法、エタノール注入療法)、肝動脈塞栓療法、化学療法(分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬等)等を行っています。

膵臓、胆道領域についてはこれらの領域における癌の診断や癌により発生した閉塞性黄疸に対する減黄治療(ほとんどが内視鏡的治療)、また総胆管結石に対する内視鏡的治療等を主に行っています。膵臓癌の診断には超音波内視鏡やEUS-FNA(超音波内視鏡下穿刺吸引法)も実施しています。また手術にて切除することが困難な進行した膵臓癌、胆道癌の方に対する化学療法も行っています。

上記に加え進行性の癌等により消化管が閉塞した方へのステント留置もおこなっています。

実績

	R2年	R3年
上部消化管内視鏡検査	2,255例	2,359例
大腸内視鏡検査	856例	941例
内視鏡的止血術	30例	35例
胃ESD	31例	39例
食道ESD	3例	2例
大腸内視鏡的粘膜切除術	372例	402例
内視鏡的乳頭切開術	31例	46例
内視鏡的胆管ステント留置術	49例	57例
EUS-FNA	15例	13例
内視鏡的食道静脈瘤治療	15例	31例
肝動脈塞栓療法	26例	28例
経皮的ラジオ波焼灼療法	2例	1例

(坂口 栄樹)

循環器内科

👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学	専門医 認定医
循環器内科医長・ 外来部長 大谷 望 (オオタニ ノゾム)	山口大学大学院修(平成元年)	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合専門医・指導医
循環器内科医長 早野 智子 (ハヤノ トモコ)	山口大学大学院修(平成11年)	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合専門医・指導医 女性総合診療 兼任



👤 概要

当科では高血圧、狭心症、心筋梗塞、心筋症、肺塞栓症、深部静脈血栓症、心臓弁膜症、心房細動等の不整脈を診療しています。

【診療活動】

過去3年間の診療実績は表1のとおりです。

令和2年の1日平均外来患者数は29人、1日平均入院患者数は12人でした。

表1【診療実績】

	心エコー	心臓カテーテル 検査	冠動脈インターベ ンション	ペースメーカー
R3	1968	3	1	11
R4	2934	1	0	24

【外来】

外来は2名体制で行っております。待ち時間をなくすように予約制になっております。患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

【主な検査】

- ・心電図
- ・動脈硬化の検査：脈波検査
- ・24時間心電図
- ・心エコー
- ・血管エコー：頸動脈、腎動脈、下肢の静脈
- ・経食道心エコー
- ・心臓CT：冠動脈造影CT
- ・心臓MRI・心臓核医学検査
- ・心臓カテーテル検査・冠動脈エコー

狭心症の疑いで冠動脈CTの実施数と、深部静脈血栓症が増加し下肢静脈エコー検査数が増加しています。

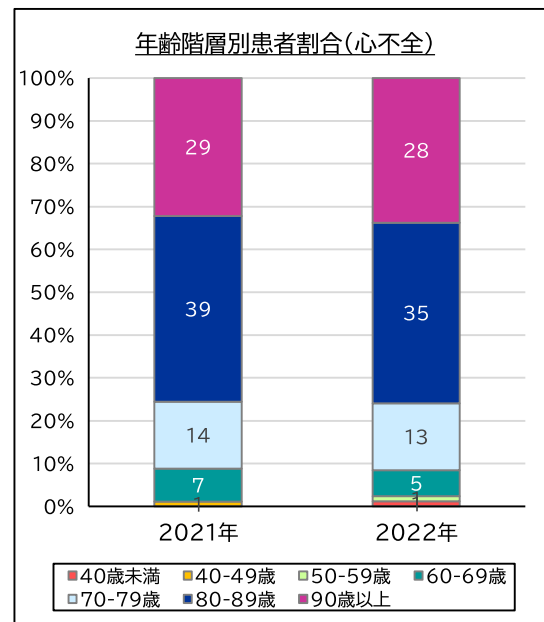
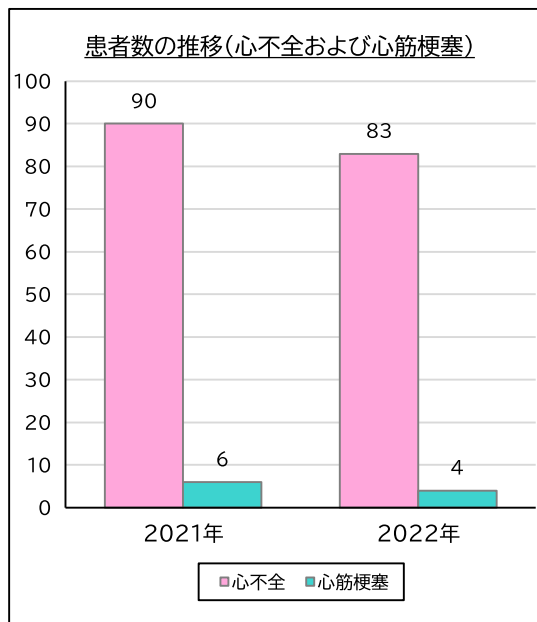
【入院】

超高齢化社会を背景に、ご高齢の方の心不全が数年前から著増しています。心不全の治療薬も進歩・増加しつつあり、個々人の全身状態(腎機能や心房細動の有無など)に応じて、投薬治療・調整が必要です。

【心臓リハビリテーション】

ご高齢の患者さまが、元の環境に安全に戻れるよう、多職種で対応し、リハビリを行っています。

実績



(早野 智子)

小児科

スタッフ

役職氏名	出身大学	専門医認定医
小児科医長 牧 隆司 (マキ タカシ)	愛媛大学卒(昭和62年) ／新生児・小児科	日本小児科学会専門医



概要

少子化の波の中で、次の世代を担う子供のために、国の医療機関の使命として成育医療という胎児・未熟児・新生児から乳幼児、学童、思春期までの一連の過程に関する診療をしています。

また、予防も小児科で大切な分野なので、乳幼児検診、予防接種、生活習慣病健診も積極的に行っています。



診療実績(退院患者統計)

DPC6桁分類		2021年度	2022年度
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症(その他)	26	15
060380	ウイルス性腸炎	18	17
040100	喘息	16	11
180030	その他の感染症(真菌を除く。)	17	10
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	12	8
160100	頭蓋・頭蓋内損傷	9	7
110310	腎臓又は尿路の感染症	5	6
150040	熱性けいれん	6	5
010230	てんかん	6	1
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	3	4
150070	川崎病	5	2
030270	上気道炎	4	2
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	1	5
080270	食物アレルギー	2	4
100210	低血糖症	3	3
040080	肺炎等(1歳以上15歳未満)	3	1
180010	敗血症	3	1
140410	先天性肥厚性幽門狭窄症	1	2
060390	細菌性腸炎	1	1
080080	痒疹、蕁麻疹	1	1
-	その他	19	21
総計		161	127



MEMO 

外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
病院長 吉野 茂文 (ヨシノ シゲフミ)	山口大学卒(昭和61年) 山口大学大学院修(平成3) ／消化器外科・上部消化管外科	日本消化器外科学会 専門医・指導医・評議員 日本内視鏡外科学会 技術認定医(胃)・評議員 日本食道学会 食道科認定医・食道外科専門医 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医・指導医
外科医長 矢原 昇 (ヤハラ ノボル)	山口大学卒(平成5年) 山口大学大学院修(平成15年) ／消化器外科・胆膵外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医 検診マンモグラフィ読影 認定医
外科医長・乳腺センター長 長島 由紀子 (ナガシマ ユキコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成30年) ／乳腺外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本乳癌学会 乳腺専門医・指導医・評議員 日本乳癌検診学会 評議員 検診マンモグラフィ読影 認定医
外科医長 坂本 和彦 (サカモト カズヒコ)	山口大学卒(平成9年) 山口大学大学院修(平成19年) ／消化器外科・肝胆膵外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医 日本肝臓学会 肝臓専門医
外科医長 吉田 晋 (ヨシダ シン)	山口大学卒(平成11年) 山口大学大学院修(平成20年) ／消化器外科・下部消化管外科	日本外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 北原 正博 (キタハラ マサヒロ)	浜松医科大学卒(平成17年) 山口大学大学院修(平成29年) ／消化器外科・上部消化管外科	日本外科学会 専門医 日本消化器外科学会 専門医・指導医 日本食道学会 食道科認定医・食道外科専門医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
外科医師 佐伯 晋吾 (サエキ シンゴ)	山口大学卒(平成30年) ／消化器外科	日本外科学会 専門医
外科医師 酒井 豊吾 (サカイ ブンゴ)	山口大学卒(平成30年) ／消化器外科	日本外科学会 専門医



概要

当科では消化器癌や消化器の良性疾患、乳癌を中心とした外科治療を行うとともに、これらの領域の癌の薬物療法も行っています。当院は、日本外科学会外科専門医制度修練指定施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本食道学会食道外科専門医認定施設、日本胃癌学会認定施設A、腹腔鏡下肝切除術学会関連施設、日本外科感染症学会認定外科術期感染管理教育施設、日本乳癌学会認定施設、マンモグラフィ検診施設画像認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設に認定されており、また6名の外科学会専門医、5名の消化器外科学会専門医、2名の食道外科専門医、1名の内視鏡外科学会技術認定医、1名の肝胆膵外科学会高度技能専門医、1名の乳癌学会乳腺専門医、1名のがん薬物療法専門医を擁しており、患者さんへ質の高い外科治療やがん薬物療法を提供しています。また豊富な症例数と万全の指導体制で、将来を担う外科医の育成を行っています。

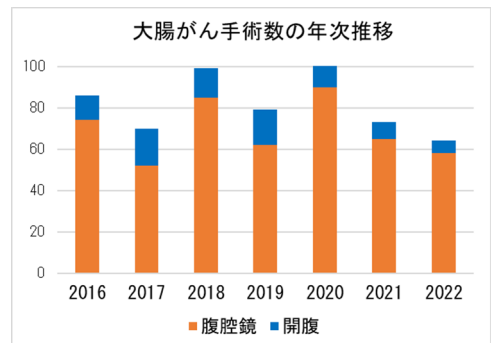
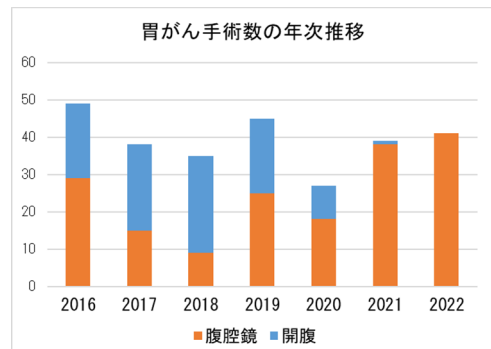
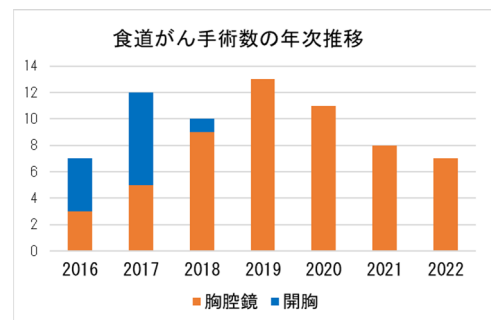
特筆すべきは、年間10例近い食道癌手術を全例胸腔鏡下で行っており、胃癌、大腸癌の手術もほとんどの症例を腹腔鏡下で行っています。また肝切除術や膵切除術の高難度手術も増えてきており、年間40例近くの症例数があります。さらには年間約100例の乳癌手術も行っています。

実績

○手術件数

術式	2021年	2022年
食道切除術	8(8)	7(7)
胃切除術	41(40)	44(44)
幽門側胃切除術	21(20)	33(33)
胃全摘術	14(14)	6(6)
噴門側胃切除術	4(4)	2(2)
胃部分切除術	2(2)	3(3)
大腸切除術	80(72)	79(68)
結腸切除術	62(54)	53(47)
直腸切除術	18(18)	24(21)
経肛門切除術	0	2
肝切除術	26(15)	30(18)
膵切除術	8(0)	10(0)
乳腺切除術	92	100
胆嚢摘出術	74(72)	64(63)
鼠径ヘルニア修復術	41(39)	47(36)
大腿・閉鎖孔ヘルニア修復術	3(3)	2(2)
ヘルニア修復術(その他)	11(0)	8(1)
虫垂切除術	21(21)	21(21)
腸閉塞解除術	16(9)	16(13)
人工肛門造設術	26(14)	19(13)
人工肛門閉鎖術	9(0)	11(0)
消化管バイパス術	8(7)	3(2)
肺切除術	9(8)	11(11)
その他	48	39
合計	521	511

()は鏡視下手術



(吉野 茂文)

心臓血管外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
心臓血管外科医長 村上 雅憲 (ムラカミマサノリ)	大分医科大学卒(平成12年) 山口大学大学院修(平成19年)	日本外科学会専門医・指導医 日本心臓血管外科学会専門医・修練指導者 腹部ステントグラフト実施医・指導医 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施医・指導医



概要

当科では頭頸部を除く動脈疾患、静脈疾患を対象に診療を行っています。従来からの外科治療に加えて低侵襲の血管内治療(カテーテル治療)を積極的に取り入れ患者さんに適切な治療を提供し、地域医療施設との連携構築に努めてまいります。

治療については必ずしも手術をおすすめするわけではありません。できるだけ低侵襲な検査で診断し、運動療法や薬物療法、カテーテル治療、手術療法を選択肢に入れた適切な治療が実施されるように心がけます。

当院は関連10学会構成日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設、四学会構成浅大腿動脈ステントグラフト実施施設、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施施設の認定を取得しています。

実績

○手術件数

	2021年	2022年
手術件数	101例	83例
動脈瘤	9例	8例
(ステントグラフト内挿術)	(6例)	(6例)
(瘤切除人工血管置換術)	(3例)	(1例)
(塞栓術)	-	(1例)
末梢動脈疾患	36例 LEAD、急性動脈閉塞など	28例 LEAD、急性動脈閉塞など
下肢静脈瘤	38例	21例
その他	17例 CVポート、切断など	14例 CVポート、切断など

(村上 雅憲)

MEMO 

整形外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
整形外科医長 リウマチ科医長 峯 孝友 (ミネ タカトモ)	山口大学卒(昭和60年) 山口大学大学院卒(平成2年) ／膝関節外科、関節リウマチ、スポーツ医学	日本リウマチ学会指導医、評議員 日本整形外科学会 専門医 日本膝関節学会 評議員 山口大学医学部臨床教授
整形外科医長 篠原 道雄 (シノハラ ミチオ)	久留米大学卒(平成7年) ／脊椎外科	日本整形外科学会専門医 日本脊椎脊髄病学会指導医
リハビリテーション科長 栗山 龍太郎 (クリヤマ リュウタロウ)	山口大学卒(平成8年) ／外傷、手外科	日本整形外科学会専門医
整形外科医長 坪根 徹 (ツボネ テツ)	山口大学卒(平成9年) ／外傷・手外科・マイクロサージャリー	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医・指導医 日本マイクロサージャリー学会評議員
整形外科医師 米原 孝則 (ヨネハラ タカノリ)	山口大学卒(令和元年)	日本整形外科学会所属
伊原 公一郎 (イハラ コウイチロウ)	山口大学卒(昭和56年) 山口大学大学院修(平成2年) ／骨・軟部腫瘍、手外科、股関節外科	日本整形外科学会専門医 日本手外科学会専門医・指導医 日本リハビリテーション医学会専門医・臨床認定医



概要

整形外科とは、骨、関節、筋肉、靭帯、神経などの運動器の疾患・外傷を診療を行います。運動器疾患を対象とする整形外科医に求められるニーズは 高齢化社会や外傷やスポーツ障害の増加に伴い、増加の一途を辿っています。当院では、小児から高齢者までの年齢層における、外傷一般はもちろんのこと、膝関節・リウマチ疾患、手の外科、骨・軟部腫瘍、脊椎疾患、股関節疾患につきまして、それぞれの専門医を含む6名の整形外科医が日々診療を行っています。また、様々な外傷や変性疾患に対する手術を施行しているのももちろんのこと、急性期のリハビリテーションおよび当院にて手術施行した症例につきまして回復期リハビリテーションを行っています。手術件数は年々増加傾向にあります。別表に昨年手術件数と、その主な内訳をお示しします。

また、日々の診療だけではなく、最新の整形外科領域の知見の獲得や難治症例の検討を目的とした学会活動や研究会も行っています。

実績

○手術件数

	総数	人工関節置換術	手の外科・マイクロ(骨折を除く)	脊椎疾患	骨軟部腫瘍
2022年	994	147	100	93	63

(峯 孝友)

脳神経外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
脳神経外科医長 副島 慶輝 (ソエジマ ヨシテル)	産業医科大学卒(平成12年) ／脳卒中の外科・機能的脳神経外科	日本脳神経外科学会 専門医・認定医 日本脳卒中学会 専門医・指導医
関門医療センター顧問 山下 勝弘 (ヤマシタ カツヒロ)	山口大学卒(昭和57年) ／脳卒中の外科	日本脳神経外科学会 専門医・認定医 日本脳卒中学会 専門医・指導医 日本脳卒中の外科学会 技術指導医



診療・研究内容

脳神経外科では脳腫瘍、脳卒中、頭部外傷、機能的脳神経外科などの領域の疾患を対象とし、主に手術療法で治療しています。脳腫瘍には髄膜腫などの良性腫瘍と神経膠芽腫などの悪性腫瘍があり、良性腫瘍では開頭腫瘍摘出術を行い、悪性腫瘍では手術に加えて放射線治療や化学療法を併用します。脳卒中の中で外科治療の対象となる疾患は、脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血、高血圧性脳出血、脳梗塞の原因となる頸動脈狭窄症です。脳動脈瘤破裂の治療法には開頭クリッピング術と血管内治療による動脈瘤コイル塞栓術があり、症例ごとに治療法を選択しています。頸動脈狭窄症の治療法には直達手術の頸動脈血栓内膜剝離術と血管内治療によるステント留置術があります。直達手術を優先しますが、全身麻酔が困難な症例などではステント留置術を行います。頭部外傷の頭蓋内出血は急性硬膜下血腫などの急性出血と慢性硬膜下血腫に分類され、前者では開頭血腫除去術を、後者では穿頭血腫除去術を行います。機能的脳神経外科の対象となる症状は、三叉神経痛、顔面けいれん、脳卒中後の筋痙縮、パーキンソン病の振戦などです。三叉神経痛と顔面けいれんでは後頭下開頭による微小血管減圧術で治療します。筋痙縮では腹部にポンプを埋め込み、バクロフェンを脊髄腔に投与します。

脳神経外科では診療のみでなく、臨床研究にも力を入れています。新薬の臨床試験では、複数の第2相試験(*)が進行しています。

*経口FXIa阻害薬BMS-986177による虚血性脳卒中の再発抑制効果を検討する国際共同第2相試験

*中枢神経系病変におけるMRI造影剤BAY 1747846単回静脈内投与の多施設共同試験

実績

○手術件数

	2021年	2022年
脳腫瘍	20	6
脳血管障害	16	15
出血性病変		
虚血性病変	10	11
頭部外傷	39	24
機能的脳神経外科	3	4
その他	19	32
合計	107	92

2022年はCOVID感染拡大により手術件数が減少しています。

○脳卒中症例数（脳神経内科と合同）

	2021年	2022年
くも膜下出血	8	8
脳内出血	59	51
脳梗塞	217	150
合計	284	209

アテローム血栓性脳梗塞の比率が突出して高い傾向が見られます。
また2022年はCOVID感染拡大により脳梗塞患者の発生が減少しています。

(山下 勝弘)

泌尿器科

👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
泌尿器科医長 鄭 泰秀 (テイ ヤスヒデ)	山口大学卒(平成3年) 山口大学大学院修(平成8年)	日本泌尿器科学会 専門医・指導医
泌尿器科医師 篠原 陽太 (シノハラ ヨウタ)	宮崎大学卒(令和2年)	



👤 概要

当院泌尿器科では尿路(腎臓・尿管・膀胱・尿道)・男性性器(前立腺・精巣・精巣上体・陰茎)および内分泌臓器である副腎を対象とし、泌尿器科一般(尿路性器腫瘍・尿路感染症・尿路結石症・排尿障害・尿失禁など)の診療を行っています。

また、末期腎不全患者に対して血液透析による治療を行っています。

腎臓癌・膀胱癌・前立腺癌などの尿路性器腫瘍に対しては内視鏡手術(経尿道的手術)・腹腔鏡手術を行っています。膀胱癌に対しては2022年10月より光線力学診断を用いて、膀胱癌の見直しを極力少なくし、より確実に癌病変を切除するように努めています。

進行性・転移性の腎臓癌や膀胱癌に対しては血管新生阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤が使用されることが多く、これらの抗がん剤はさまざまな副作用があるため、他科の先生や薬剤師と連携して副作用の対策・管理に努めています。

転移性の前立腺癌に対しては治療初期より新規ホルモン剤・化学療法薬(抗癌剤)が使用できるようになり、従来のホルモン治療より長期にわたり癌の進行を遅らせることができるようになりました。また、去勢抵抗性前立腺癌では新規ホルモン剤・化学療法薬(抗癌剤)・運指標的薬・放射性医薬品の投与が可能であり、個々の患者さんに適した治療法を選択できるように心がけています診療ガイドラインにもとづいて推奨度の高い治療を行うように心がけています。

実績

○手術件数

	2021年	2022年
腎腫瘍	6例	5例
尿管腫瘍・腎盂腫瘍	7例	4例
経尿道的膀胱腫瘍切除術	51例	49例
膀胱全摘	0例	2例
前立腺全摘除術	5例	8例
経尿道的前立腺切除術	25例	21例
内シャント増設術	22例	18例
前立腺生検	88例	70例

(鄭 泰秀)

産婦人科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
産婦人科医長 林 公一 (ハヤシ キミカズ)	山口大学大学院修(昭和62年)	日本産科婦人科学会専門医 麻酔科標榜医 母体保護法指定医
非常勤医師 齋藤 剛 (サイトウ ツヨシ)	山口大学大学院修(平成元年)	日本産科婦人科学会専門医



概要

ほぼ常勤医一人での対応となるため多症例の診療には限度がありますが、他科の先生方の協力を得て、産科領域(エイズ感染も含む)、婦人科良性疾患、癌、不妊症(体外受精治療も含む)、感染症とすべてに渡り安心・安全を信条として対応させていただいています。研修医の先生方へは1ヶ月ごとのローテイトとなりますが、産婦人科診療に興味を持っていただけるような研修を心掛けています。また、診療での医学的視野が狭まらないように臨床研究や地域活動にも積極的に参加して最新医学情報の収集や地域貢献にも努めています。

臨床実績(令和4年度)

*分娩件数：22件 (うち帝王切開：4件)

*婦人科手術：46件

- 子宮全摘 13件
- 子宮内膜搔爬 8件
- 付属器腫瘍摘出 5件
- 付属器悪性腫瘍手術 2件
- 子宮腔部円錐切除 7件
- 子宮悪性腫瘍手術 4件
- 流産手術 1件
- バルトリン腺嚢胞摘出 1件
- 子宮動脈塞栓術 1件

*抗癌剤による化学療法：14例

- 子宮内膜癌 6例
- 子宮頸管癌 2例
- 卵巣癌 3例
- 腹膜癌 3例

臨床研究

*厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業:研究協力

「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及及び啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均霑化に関する研究」

*文部科学研究費補助金精神神経科学関連事業:研究協力

「周産期メンタルヘルス調査とパートナーへの介入方法に関する研究」

*NHOエイズ共同研究:研究協力

「抗HIV療法中のプロウイルスにおける薬剤耐性微小集団に関する研究観察」

*NHO成育共同研究:研究協力

1. 「人工知能を用いた分娩時大量出血症例における凝固障害の病態解明と新しい産科DICスコアの開発」

*NHO・EBM共同研究:分担研究

「免疫抑制患者における13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体型ワクチンの連続接種と23価莢膜多糖体型ワクチン単独接種の有効性の比較－二重盲検無作為化比較試験(CPI STUDY)」

地域活動

1. 下関東ロータリークラブ:青少年育成プログラム支援

「中・高生における性教育講座」(2010～)

2. 世界エイズデーイベント開催(2013～)

(林 公一)

眼科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
眼科医師 播磨 希 (ハリマ ノゾミ)	福岡大学卒(平成21年)	日本眼科学会専門医
視能訓練士 山下 栄太郎 (ヤマシタ エイタロウ)		



概要

令和5年度から眼科は山口大学医学部付属病院の関連病院となり、診療体制を一新しております。それに伴い新たに導入した検査機器も多くあり、より充実した環境となっております。外来診療は毎日午前中となっており、午後は特殊検査や手術、硝子体内注射やレーザー治療等を行っております。手術に関しては白内障手術や翼状片手術を1泊2日の入院で行っております。基本的には局所麻酔で行っておりますが、必要に応じ全身麻酔下での手術にも対応しております。

眼科外来は完全予約制としております。かかりつけの眼科より当科での診断・治療が必要と判断された場合に、地域連携室を通じてご予約を取っていただくシステムとなっておりますのでよろしくお願いいたします。

(播磨 希)

耳鼻咽喉科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
耳鼻咽喉科医長 村上 直子 (ムラカミ ナオコ)	山口大学卒(平成9年)	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医 補聴器相談医
耳鼻咽喉科医師 田原 晋作 (タハラ シンサク)	山口大学卒(平成20年) 山口大学大学院修(平成28年)	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医



概要

当科では耳鼻咽喉科領域の各種疾患の検査、治療を行っています。

また耳鼻咽喉科専門医制度の山口大学附属病院の専門研修連携施設となっています。

診療活動

突発性難聴、めまい、顔面神経麻痺、急性扁桃炎、急性喉頭蓋炎、急性副鼻腔炎などでは入院を含む治療を行い、突発性難聴に対しては適応があれば、高気圧酸素治療が可能です。手術については、慢性扁桃炎や小児の睡眠時無呼吸、IgA腎症の症例に対する扁桃摘出術や甲状腺結節性病変の手術、気管切開術、内視鏡下副鼻腔手術などを行っています。

睡眠時呼吸障害の検査では1泊入院での終夜睡眠ポリソムノグラフ検査を行っています。

専門性の高い手術を要する症例や集学的治療を要する頭頸部癌の症例に関しては、山口大学附属病院などへ紹介して手術や化学放射線治療を受けていただき、当院では必要な術前検査、術後のリハビリ、検査、追加治療などを連携して行っています。

近年、脳梗塞後や加齢などで誤嚥を繰り返す入院患者が増え、嚥下内視鏡検査の件数が増加しています。

2022年度 終夜睡眠ポリソムノグラフ 21件

2022年度 嚥下内視鏡検査 84件

実績

○手術件数

	2021年度	2022年度
口蓋扁桃摘出術(成人)	11	11
口蓋扁桃摘出術(小児)	3	6
内視鏡下副鼻腔手術	4	7
ラリngoマイクロサージャリー	1	2
気管切開術	18	25
リンパ節生検	1	6
甲状腺手術	6	3
鼓膜チューブ留置術	3	9
その他	4	3

(村上 直子)

放射線診断科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
放射線診断科医長 岡田 宗正 (オカダ ムネマサ)	山口大学卒(平成7年) 山口大学大学院修(平成14年) ／放射線診断・IVR(画像下治療)	日本医学放射線学会 診断専門医 日本IVR学会 専門医



概要

単純X線撮影から、CT、MR、核医学検査(SPECT及びPET)、血管造影装置があり、これらの画像の読影を行っている。一般診療時に撮影された画像から、検診時の画像も一括して読影を行い、日常診療に貢献している。当院の病院群輪番制病院担当日には、読影担当として急患に対応している。

出血や外傷などの急患別を含め、幅広く画像下治療(IVR)を行っている。このため、血管造影室には各種塞栓物質やステント(グラフト)を常備しており、複雑な症例にも対応できる準備が整っている。組織診が必要な症例や深部膿瘍例に対し、CTガイド下に生検やドレナージを行い、患者さんの心配や苦痛緩和に貢献している。

2021年から、週1回放射線診断・画像下治療(IVR)の外来を行い、画像診断や血管内治療について患者さんにも分かりやすく説明している。

実績

		2021年度	2022年度
読影	CT	14,064	13,701
	MR	5,013	4,487
	核医学(SPECT)	927	964
	核医学(PET)	542	516
	CR(検診を含む)	1,863	2,012
	DR(検診を含む)	588	637
	院外フィルム	24	25
手技	生検	12	18
	ドレナージ	6	7
	血管造影	33	43

(岡田 宗正)

放射線治療科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
放射線治療科医長 河村 光俊 (カワムラ ミツシ)	山口大学卒(平成1年) 山口大学大学院修(平成7年) ／放射線治療	日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会 共同認定専門医 日本医学放射線学会 指導医
放射線科医長 佃 利信 (ツクダ トシノブ)	山口大学卒(平成9年) ／放射線診療	日本医学放射線学会 診断専門医 日本医学放射線学会 指導医



概要

がん治療の主な治療法として放射線治療があります。その中で高エネルギーX線を用いた外部放射線治療を主体で行っています。治療部位は脳神経、頭頸部、消化器系を含めた胸腹部、骨盤部などを対象としています。他科と協力し抗がん剤と組み合わせた化学放射線療法にも取り組んでいます。現在休診中ですが、近日中に最新機器へ更新し再開する予定です。その際は下関地区で唯一、強度変調放射線治療(IMRT)可能な施設となるべく準備しています。放射線治療単独で通院可能な患者さんでは、当部門で受付し治療を受けられます。入院が必要な場合は他科入院担当の上、共同で診療にあたります。いずれも地域医療連携室で受付していますので御紹介の際はこちらにご連絡ください。

 実績

	2021年 (1月1日～12月31日)	2022年 (1月1日～12月31日)
放射線治療新規患者	95	78
放射線治療実人数(新患+再診)	107	91
治療計画実施件数	117	100
原発巣別新患者		
脳・脊髄	2	0
頭頸部	9	5
食道	10	7
肺・気管・縦隔	4	2
乳腺	44	45
肝・胆・膵	4	1
胃・小腸・結腸・直腸	5	5
婦人科系	0	2
泌尿器系	9	4
造血リンパ系	8	4
皮膚・骨・軟部	0	3
その他(悪性腫瘍)	0	0
放射線同位元素		
イットリウム	0	0
ラジウム	3	3

(河村 光俊)

病理診断科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
内科医長 村田 健一郎 (ムラタ ケンイチロウ)	長崎大学卒(昭和61年) 長崎大学大学院修(平成2年) ／病理診断	病理専門医 病理専門医研修指導医 細胞診専門医



概要

病理診断科は、病理専門医1人、臨床検査技師3人(内、細胞診検査技師2人)とメディカルクラーク1人で業務を行っています。病理組織検査の標本作成は、通常のHE染色標本と一般的な特殊染色標本のみ、院内で施行しており、免疫染色、パラフィン包埋標本による遺伝子検査およびコンパニオン診断等は外部検査機関に委託しております。臨床検査技師の夜間・休日等の交代勤務のため、外部検査機関との間の標本や検査結果の受け渡し等で、メディカルクラークの存在が重要になっています。

実績

	2021年度	2022年度
病理組織診断(受付番号数)	2,813	2,811
内、術中迅速診断	121	115
細胞診断(受付番号数)	2,568	2,578
内、婦人科	1,112	1,172
病理解剖	2	1
CPC	1	0

(村田 健一郎)

MEMO 

救急科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 /専門分野	専門医 認定医
救命救急センター長 松本 泰幸 (マツモト ヒロユキ)	産業医科大学卒(平成21年) /救急科、集中治療室	日本救急医学会 救急科専門医 日本集中治療医学会 集中治療専門医 日本内科学会 内科認定医 日本DMAT隊員、統括DMAT



概要

当科では非常に多岐に渡る疾患を扱っており、心肺停止、多発外傷、中毒、特殊感染症、ショック、熱中症、低体温症、熱傷など救急科に専門性が求められる領域も複数担っております。下関・長門医療圏で唯一、救急科専門医、集中治療専門医が専従で救急部門に従事する病院として高度な重症疾患の治療を行っております。

ICUにおける重篤な患者においても、主治医の医師と連携して全身管理、呼吸/気道管理、循環管理、術後管理などを行う事で、救命するだけでなく元の生活に戻るまで回復させるといった全人的医療が提供できるようサポートを行っております。

また、消防局と連携した地域救急医療体制の整備や、初期臨床研修医・大学生・コメディカルスタッフの教育活動や看護師特定行為研修の実践など、教育活動も精力的に行っております。

実績

○救急車受入件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019	144	202	166	153	206	167	200	160	221	197	171	143	2,130
2020	134	157	120	178	158	157	151	173	174	186	154	143	1,885
2021	222	246	258	261	233	265	276	257	286	273	230	291	3,098
2022	232	256	251	304	346	285	301	285	300	375	240	291	3,466

MEMO 

麻酔科・ペインクリニック

👤 スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
手術部長 内本 亮吾 (ウチモト リョウゴ)	山口大学卒(昭和56年)	日本麻酔科学会指導医 日本専門医認定機構 専門医
麻酔科医長 藤田 文彦 (フジタ フミヒコ)	山口大学卒(平成5年)	日本麻酔科学会指導医 日本専門医認定機構 専門医
麻酔科医長 田和 聖子 (タワ ショウコ)	山口大学卒(平成元年) 山口大学大学院修(平成5年)	日本麻酔科学会専門医・指導医
内科医師 北 仁志 (キタ ヒトシ)	京都府立医科大学卒(平成10年)	日本麻酔科学会認定医
内科医師 福井 健彦 (フクイ タケヒコ)	自治医科大学(平成19年)	日本麻酔科学会専門医



👤 概要

麻酔医師は常勤で5名だが、大学からの非常勤医が2名、それぞれ水曜日、木曜日に麻酔の応援に来てくれている。そのかいあって外相相当番日を引き受け手術件数は増加してきているが、今のところそれには対応できていると考えている。一方、手術終了時間が20時頃になるのはまれであったがその時間に3件の手術が残っていることもまれではない、働き方改革が各業種に影響を与えている、大学卒業後県内に残る医師が減りつつある、病院間の統合計画が進行中、COVIDの影響はどうなるのか、など心配の種は尽きない。当院は2年の研修医制度のなかで毎年10名以上を受け入れ、幸い毎月のローテーションではあるが1から4名が麻酔を担当し、戦力となっている。この中から、麻酔科に進んでくれる医師もあり、今後の外科系医療への貢献を期待している。

 実績

○麻酔件数

麻酔別	2021年度	2022年度
全身麻酔+硬膜外麻酔	1,502 件	1,507 件
硬膜外麻酔+脊椎麻酔	134 件	60 件
局所麻酔	793 件	679 件
その他(静・局・伝含)	108 件	150 件
計	2,537 件	2,396 件

(内本 亮吾)

歯科口腔外科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
歯科口腔外科長 板敷 康隆 (イタシキ ヤスタカ)	徳島大学卒(平成19年)	日本口腔外科学会認定医 日本口腔科学会認定医 日本有病者歯科医療学会認定医・専門医 歯科医師臨床研修指導医
常勤	歯科衛生士 1名	
非常勤	歯科衛生士 1名 メディカルクラーク 1名	



概要

当科では歯・顎骨の硬組織と歯肉・頬粘膜・舌・口底・口唇の粘膜および顎下腺・舌下腺・耳下腺（腫瘍を除く）の大唾液腺組織を中心に歯科・口腔外科的領域の疾患について診断・加療を行っています。

下関医療圏の歯科医院からの紹介は以下の5つの多いです。①有病者の抜歯（抗血小板薬・抗凝固薬・BP製剤の内服中や内服既往）、②智歯抜歯や難抜歯、③口腔粘膜疾患、④骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（BRONJ・ARONJなど）や顎骨骨髓炎、⑤頬部膿瘍や下顎骨周囲膿瘍などの重篤な歯性感染症

また、医科からの院内紹介は以下の5つが多いです。①周術期等口腔機能管理、②義歯調整、③口腔ケア、④口腔粘膜疾患、⑤補綴部の脱離

【専門領域】

- ・有病者患者の観血的処置（抜歯や切開・排膿・ドレナージなど）
- ・口腔外科処置（智歯抜歯や嚢胞摘出など小～中手術：全身麻酔下、局所麻酔下での手術）
- ・周術期等口腔機能管理

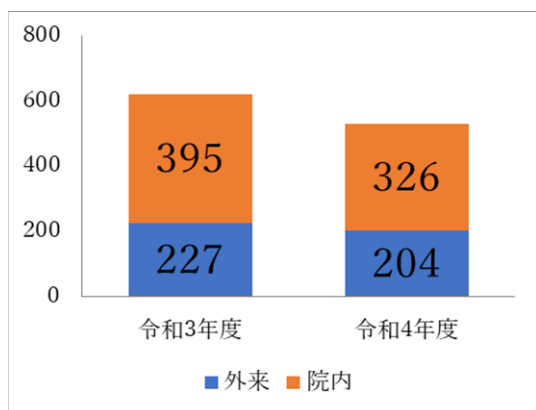
【診療内容】

- ・山口県歯科医師会および下関歯科医師会の先生と連携を取りながら、歯科・口腔外科診療を行っています。
- ・周術期等口腔機能管理として、全身麻酔下での頭頸部・呼吸器・消化器・乳腺領域の悪性腫瘍手術、脳外科領域や人工股関節置換術等の整形外科領域の手術に対する手術前後の口腔ケアを行っています。さらに、がん等に係る放射線治療・化学療法を実施している患者様（予定している患者様を含む）・緩和ケアの患者様の口腔ケアにも取り組んでいます。
- ・骨吸収抑制薬関連顎骨壊死や顎骨骨髓炎に対し、外科的手術前後に、高気圧酸素療法＋抗菌薬の投与を積極的に行っています（症例によっては山口大学歯科口腔外科へ紹介する場合があります）。
- ・全身麻酔下での顎骨嚢胞摘出や智歯抜歯等も行っています。

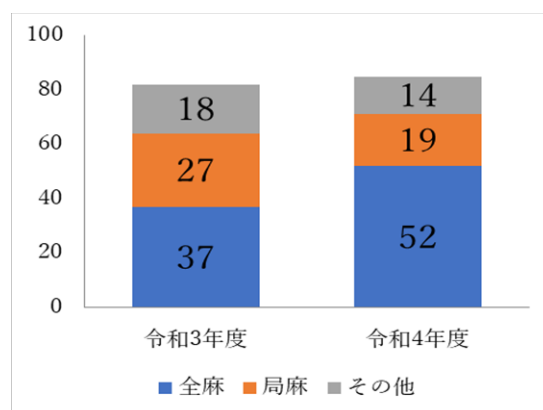
【令和3年度・令和4年度の当科初診のべ患者数・入院のべ患者数】

①令和3年度・令和4年度の当科初診のべ患者数（外来・院内）は以下通り（図1）。

②令和3年度・令和4年度の当科入院のべ患者数（全身麻酔下手術：全麻、局所麻酔下手術：局麻、その他）は以下通り（図2）



(図1)



(図2)

【感染予防対策】

・歯科診療時の感染予防対策として、新型コロナウイルス感染症前から、入室時、すべての患者様にアルコールでの手指消毒を、スタンダードプリコーションとして患者様ごとに滅菌器具やディスポーザブル器具等を使用しております。さらに、歯科診療台等は患者様ごとに、清拭クロス等で消毒を、診療室内の唾液・血液等の飛沫軽減として、口腔外バキューム使用しています。

・新型コロナウイルス感染症後からは上記の対策に加え、診療室にHEPAフィルター＋紫外線殺菌装置搭載の空気清浄器を2台使用しています(2020年10月から)。

夜間はオゾン発生装置を使用し室内全体の消毒を行っています(2021年2月から)。

加えて、ストリーマ搭載の空気清浄器をX線照射室および歯科技工室にそれぞれ設置しました(2022年2月から)。



歯科用滅菌器具



口腔外バキューム



HEPAフィルター＋紫外線殺菌装置搭載



オゾン発生装置



ストリーマ搭載の空気清浄機

【学会発表】

日本口腔外科学会・日本口腔科学会・日本有病者医療学会・国立病院総合医学会などでの発表を行っており、今後も積極的に行う予定です。

(板敷 康隆)

女性総合外来

スタッフ

役 職 氏 名	分担	専 門 医 認 定 医
医長 早野 智子 (ハヤノ トモコ)	担当医師	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合専門医・指導医 日本女性医学会・日本性差医学/医療学会会員
副看護師長 大石 麻莉 (オオイシ マリ)	事前の電話問診・予約対応	看護師
心理療法士 臼井 麻子 (ウスイ アサコ)	カウンセリング・心理テスト等担当	公認心理師 臨床心理士



概要

私どもの女性総合診療外来は、女性の一生を心と身体の両方から支えることを目標に、平成14年9月30日に開設されました。女性が自分の心と体の健康について理解し、社会の中、家庭の中で、自ら納得のゆく健康管理をしながら充実した人生を過ごせることが私たちの願いです。主婦、母、妻、キャリアウーマン、OL、シングル・レディ、etc…、女性の立場・呼び名は様々ですが、ひとりの女性の健康を守ることは、そのひとと関わる社会、家族の健康を守ることへとつながります。

診療活動

過去2年の診療実績は下記のようにです。
令和4年度の1日平均外来患者数は0.5人でした。

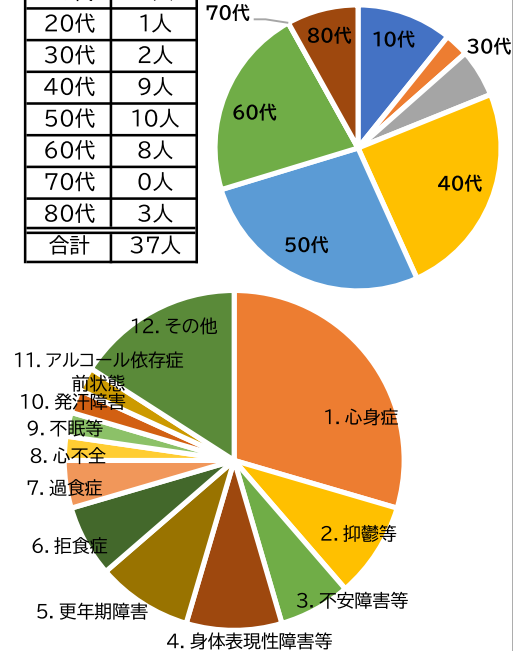
女性外来の診療実績(令和3年4月1日～令和5年3月31日診療分)

★女性外来受診の主な傷病名★

1	心身症	13
2	抑鬱・産後鬱	4
3	不安障害・不安神経症	3
4	身体表現性障害・パニック障害・適応障害・強迫神経症	4
5	更年期障害	4
6	拒食症	3
7	過食症	2
8	心不全	1
9	不眠・睡眠障害・中途覚醒・悪夢	1
10	発汗障害	1
11	アルコール依存症前状態	1
12	その他 冷え症、ふらつき、肥満、季肋部痛・心窩部痛、喉のつかえ・つまり、月経不順、食思不振、口渇、過呼吸、徐脈疑い、発達障害、低体重、体重減少、吐き気、肩こり、尿失禁、物忘れ、脱毛、寝汗、高コレステロール血症	7

★年齢分布★

10代	4人
20代	1人
30代	2人
40代	9人
50代	10人
60代	8人
70代	0人
80代	3人
合計	37人



外来

外来は週に1回、月曜日の午後1時半より、おひとり30分間(初回は1時間)。待ち時間をなくすように完全予約制で行っております。

症状について、受診以前からの経過を詳しく伺い、その内容を鍵に検査・治療・他科専門医師への橋渡しに努めています。患者さまにわかりやすい説明を心がけています。

<例>「胸の痛み」の問診票

- ①症状の具体的な性状は？(皮膚の表面を針で刺すよう なチクチクした痛み、みぞおちからのど元にかけて引き絞られるような鈍い痛み、深く息を吸ったときに生じる痛み、など)、
- ②症状が初めて生じた時期とその持続時間(期間)は？
- ③現在までの発症頻度は？(週または月に何回、徐々に頻度が増えているか)、
- ④症状が出やすい季節・時間帯は？(深夜・明け方、昼間の作業中、食後・飲酒後、など)、
- ⑤症状が起こる引き金となる動作の内容は？(階段を登る、夜布団に入った後、冷たいシャワーを浴びる、など)
- ⑥症状が現れる具体的な体の部位と範囲は？
- ⑦症状によるつらさの程度(生活への支障度)は？
- ⑧その方の住まれる社会環境や職種は？
- ⑨味の好みや生活習慣は？(脂ものや塩分の量、喫煙、運動不足、飲酒ほか)、
- ⑩家族歴とご本人の合併疾患は？(高血圧、脂質代謝異常、糖尿病、心筋梗塞、不整脈、大動脈瘤、脳卒中、気胸、肺炎、逆流性食道炎、十二指腸潰瘍、過換気症候群など)、
- ⑪これまで使用した治療薬の種類とその効果

※診療は、完全予約制となっております。恐れ入りますが、事前のご連絡をよろしくお願いいたします。

(早野 智子)

薬剤部

スタッフ

役職・氏名		専門・認定資格	
薬剤部長	引地 正人	日本病院薬剤師会 日本病院薬学認定薬剤師	小山 朋子、綾田 翔、高岡 昌司、濱砂 恵理香
副薬剤部長	小山 朋子	日本薬剤師研修センター 認定実務実習指導薬剤師	小山 朋子、林 俊吾、綾田 翔、高岡 昌司
主任薬剤師	4名	日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	小山 朋子、林 俊吾、中村 良子、濱砂 恵理香
薬剤師	9名	日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム(NST) 専門療法士	小山 朋子
薬剤助手	4名	栄養サポートチーム加算に係る40時間以上の研修	小山 朋子、中村 良子
治験看護師	1名	日本老年薬学会 認定薬剤師	小山 朋子
治験事務助手	2名	日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	高岡 昌司
		日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	小山 朋子、濱砂 恵理香
		日本くすりと糖尿病学会 糖尿病薬物療法准認定薬剤師	小山 朋子
		日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト	濱砂 恵理香



概要

◆薬剤部について◆

薬剤部では、治療の一分野である薬物治療に使用する「お薬」に関わるお仕事を主な業務としています。患者さんの治療に際し、処方せんに基づき正確に調剤することは当然ですが、「お薬」は単なる物ではなく、その背景には数多くの情報(有効な疾患、副作用、相互作用=飲み合わせ等)を持っています。当センターに入院されました患者さんには医師の治療計画に従って、薬剤師が病棟に赴きベッドサイドにて患者さんに処方されたお薬について説明させていただいております。また、有害な副作用の発見にも努めており、薬剤師が薬のスペシャリストとして医療の質と患者さんのQOLの向上に貢献し、真の医療人として社会から信頼されるよう薬剤部一同研鑽を重ねております。

また、薬剤師はチーム医療推進(ICT、NST 等)のため様々なチームに参加しており、薬剤師としての職能を生かした薬学的支援を行っています。

薬剤部は医薬品の購入・供給・薬品管理、医薬情報の収集・提供、一般製剤・特殊製剤、入院・外来患者の調剤、化学療法注射剤の混合調製、病棟活動等、それぞれにおいてお薬に関する重要な役割を担っています。

◆調剤業務◆

治療のために、医師が処方したお薬を素早く取りそろえ、患者さんに手渡すだけでは十分とはいえません。取りそろえただけのお薬はそのままでは単なる物ですが、そのものがお薬として適切に服用や使用されるために、我々スタッフが患者さんごとにお薬の使い方や使用量、併用しているお薬や食べ物との飲み合わせ、アレルギーや副作用などについて確認したうえでお薬をお渡しています。

◆製剤業務◆

製薬会社を作っていない医薬品や、まだ開発段階にあるもの、病院独自の薬剤を医師の依頼に基づいて調製することが主な仕事です。

◆注射薬調剤業務◆

注射薬は、一般に効果が強く血管内に直接投与されます。特に注射薬は急性期に使用されるので、病状に応じて処方内容が細かく変化します。

薬剤部では、注射薬についてもその都度処方せんによって調剤を行い、配合変化や相互作用、薬剤の分量、用法、投与速度、投与ルート、投与間隔などを確認し、特に翌日分の注射薬はアンプルピッカーを使用して1施用毎(1回分)の注射薬セットを行っています。

◆抗がん剤無菌調製◆

抗がん剤は、がん細胞の増殖を阻止する作用を持つ薬物で、増殖に必要な核酸やタンパク質の合成を直接阻害することで作用を発揮する薬剤です。その一方で、抗がん剤は旺盛に増殖する正常細胞(骨髄・消化管上皮・毛根など)にも影響を及ぼす薬剤でもあり、細胞毒性、変異原性(遺伝子に変異を与える可能性がある)あるいは発がん性を有するものが多く、抗がん剤を取り扱う医療従事者は薬剤の曝露(被曝)による健康上の危険性がついてまわります。医療従事者の曝露を回避するため、注射用抗がん剤は、薬剤部にて無菌的に調製を行ったあとで、病棟あるいは外来化学療法センターへ薬剤を供給しています。

抗がん剤の投与(薬物療法)は、効果や副作用など、いろいろな不安や疑問点があると思います。患者さんが安全に安心して治療を受けていただけるように、医師・看護師とともに薬剤師も尽力いたします。

◆医薬品情報◆

お薬に関する最新の情報を収集したり整理したりして、医師や患者さん、医療スタッフにその情報を提供することも重要な仕事の1つです。特に医薬品に関する重要な情報はその都度お知らせし、院内で決まった医薬品や薬の副作用情報などは定期的に医療スタッフに提供しています。

◆入院患者さんへの服薬指導◆

医師・看護師等と連携を取りながら、入院中の患者さんのベッドサイドで薬の説明を行い、質問や相談に応じています。薬の効き目や、飲み合わせ、副作用についてもチェックをし、患者さんが安心して服薬してもらえるよう取り組んでいます。

治験業務

GCPに基づき治験を実施するチームの一員として、プロトコルに従い、治験責任医師・分担医師の業務を支援し、治験薬を適正に保管・管理しながら治験薬が適正に投与されているかを確認する業務を担っています。

実績

		2021年度	2022年度
薬剤管理指導料	届出病床数	400.0	400.0
	対象患者数	789.0	663.3
	年度計画上の指導件数	700.0	700.0
	実施患者数	441.6	387.3
	請求患者数	440.3	387.2
	請求件数内訳1. ハイリスク薬管理	212.0	207.7
	請求件数内訳2. 1以外	405.0	323.5
	*請求件数(上記内訳の合計)	617.0	531.2
	(麻薬加算件数)	14.4	17.1
	実施薬剤師数	12.8	12.0
	*薬剤師1人当請求数	48.5	44.3
	病棟薬剤業務	病棟薬剤業務実施加算1算定病棟数	5.0
病棟薬剤業務実施加算2算定病床数		12.0	12.0
一週間当たりの平均病棟薬剤業務時間(算定病棟)		22.0	21.5
病棟薬剤業務実施加算1件数		1,212.1	1,182.6
病棟薬剤業務実施加算2件数		200.1	204.8
持参薬確認数(算定病棟)		302.8	276.7
持参薬確認に要する業務時間(算定病棟)		100.1	92.2
処方支援・診療支援数(算定病棟)		67.9	61.1
薬剤師のレジメンチェックによる処方変更件数(算定病棟)		0.7	2.1
一週間当たりの平均病棟薬剤業務時間(非算定病棟)		1.0	0.0
持参薬確認数(非算定病棟)		9.3	8.2
持参薬確認に要する業務時間(非算定病棟)		3.1	2.7
無菌製剤処理科	無菌製剤処理科1 総実施件数	372.2	402.9
	イ 閉鎖式接続器具を使用した場合 請求件数	30.6	26.7
	ロ イ以外の場合 請求件数	339.0	376.3
	無菌製剤処理科1にかかる時間(時間数)	93.6	100.0
	無菌製剤処理科2 総実施件数	11.3	9.9
	無菌製剤処理科2 請求件数	11.3	9.9
	無菌製剤処理科2にかかる時間(時間数)	2.8	2.5
	薬剤師が行った提供件数	245.8	267.7
請求件数	245.8	264.6	
外来化学療法加算	外来化学療法加算1 A:15歳以上 請求件数	171.3	3.2
	外来化学療法加算1 B:15歳以上 請求件数	3.5	3.2
外来腫瘍化学療法診療科	外来腫瘍化学療法診療科1	-	189.6

(小山 朋子)

放射線科

スタッフ

役職・氏名	
放射線科医師(治療・診断)	3名
診療放射線技師	17名
診療放射線技師長	1名
副診療放射線技師長	1名
主任診療放射線技師	4名
診療放射線技師	11名
放射線科助手	1名

診療放射線技師資格・認定取得者	
国家資格	
第1種放射線取扱主任者	1名
認定機構資格	
放射線治療専門技師	1名
放射線治療品質管理士	1名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	6名
PET研修セミナー	6名
CT認定技師	2名
肺がん認定	1名
画像等手術支援	2名
塩化ストロンチウム治療安全取扱	2名
I-131による残存甲状腺破壊の外来治療	
塩化ストロンチウム治療安全取扱	
塩化ラジウム(Ra-232)注射液を用いた	
RI内用療法における適正使用	2名
放射線医薬品取扱ガイドライン	7名
放射線技師会資格	
放射線機器管理士	2名
放射線管理士	3名
医療情報技師	2名
シニア技師	1名
アドバンスド技師	1名

施設認定
マンモグラフィ検診施設画像認定

保有機器	
一般撮影 4台	歯科撮影装置 2台
ポータブル撮影装置 6台	CT 2台
透視撮影装置 2台	MRI 1台
骨密度測定装置 1台	ガンマカメラ 1台
乳房撮影装置 1台	PET-CT 1台
血管撮影装置(汎用型) 1台	リニアック 1台
外科用イメージ 3台	治療計画装置 1台

主な検査・治療	
一般撮影	MRI検査
マンモグラフィ	RI検査
骨塩定量測定	PET-CT検査
透視撮影	放射線治療
CT検査	



放射線科について

放射線科の業務には、画像診断・核医学検査・放射線治療があります。

画像診断領域では、一般撮影・X線透視・CT・MRI・アンギオなどがあります。核医学検査では、脳血流検査・心機能検査なども行っています。

放射線治療領域では、リニアック治療装置を使用し、頭頸部・食道・乳腺・前立腺がん等の放射線治療を行っています。なお放射線治療装置は令和5年度の更新予定であり来年度は新しく装置が変わります。

当センターでは、放射性同位元素内用療法として、ゼヴァリンによるRI標識抗体療法、塩化ラジウム²²³の去勢抵抗性前立腺がんの骨転移治療なども行っています。

また、乳房撮影装置の更新に伴い、マンモグラフィ検診施設・画像認定を取得しております。

実績

	2021年度	2022年度
単純撮影	23,767	24,714
(マンモ)	628	687
(ポータブル)	4,602	4,813
(造影検査)	1,902	1,955
(骨塩定量)	971	1,135
(時間外撮影人数)	5,309	5,434
血管造影	163	148
RI	974	1,069
PET-CT	402	421
CT	13,760	13,964
(CT紹介)	453	503
MRI	4,813	4,481
(MRI紹介)	362	424
3次元画像解析	6,554	615
放射線治療	664	1,583
放射線度同位元素内用療法	3	0

* ()は再掲

(本田 邦彦)

臨床検査科

スタッフ

役職・氏名	
臨床検査科長	長島 由紀子
臨床検査技師長	笠井 昇
副臨床検査技師長	宮崎 純子
主任臨床検査士	5名
臨床検査技師	13名
臨床検査助手	1名
事務助手	1名



資格・認定取得者			
【国家資格】			
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者 5名			
有機溶剤作業主任者 4名			
日本乳がん検診精度管理中央機構主催 乳房超音波試験A判定 1名			
【認定資格】			
認定輸血検査技師	1名	超音波検査士(泌尿器)	4名
細胞検査士	3名	超音波検査士(体表臓器)	1名
認定病理検査技師	1名	認定一般検査技師	1名
超音波検査士(消化器)	3名	糖尿病療養指導士	1名
超音波検査士(循環器)	3名	JHRS認定心電専門士	1名
認定サイトメトリー技術者	2名	緊急検査士	4名
血管診療技師	1名		



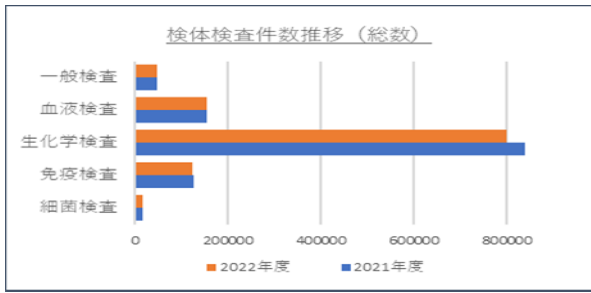
診療活動

2021年度、2022年度においては、新型コロナウイルスが2020年の年明けから感染拡大して2、3年目を迎える。そこで、コロナ前の2019年度の件数を比較した(図1~4)。

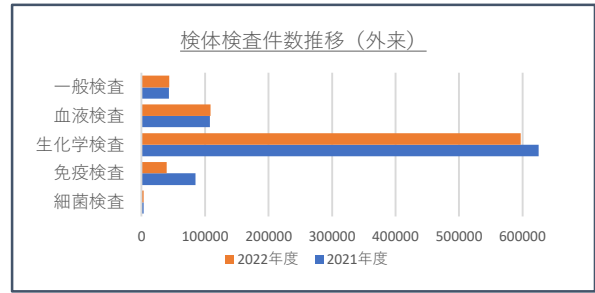
検体検査(総件数)で見ると2021年度は2019年度と比較して3.2%増加していたが2022年度では0.5%減少していた。また、生理検査エコー(総数)では、どの部位に対しても2019年度件数を下回っており、2021年度は10.9%減少、2022年度では更に12.1%の減少していた。コロナ前の件数を取り戻すには難しい状況となった。このコロナ禍において検査として活躍したのがCOVID-19遺伝子を測定する解析装置。2021年2月にTRC-Ready 80(東ソー)(写真1)が、2022年2月にはGene Xpert GX-IV(ベックマン コールター)(写真2)の遺伝子解析装置が臨床検査科に導入された。TRCは、最大8テスト、核酸精製から結果報告まで40分かかり、主に院内クラスター発生時に使用された。Gene Xpertの所要時間は45分で4テストしかかけられないが、追加検査が可能で普段は使い勝手の良いGene Xpertで測定した。この2台で遺伝子検査を実施。(図5)、(図6)はCOVID-19の抗原検査件数、(表5)は遺伝子解析装置2台により測定した件数を示す。この装置が活躍する前は、外注検査、保健所に検査依頼をした。

輸血検査においては2021年度、2022年度の血液製剤の使用状況は、FFP/RBC比が0.54未満、アルブミン/RBC比が2未満で輸血適正使用加算Ⅰの取得条件を満たしていた(表1~4)。2021年には宗教上の理由で輸血を中止した症例が1件あった。また、2022年には稀な高頻度抗原に対する抗体が検出され血液センターに精査を依頼した結果、抗jka抗体だった。センターには適合血であるjk(a-b-)を依頼した。この高頻度抗原とは抗原の陽性頻度がおおむね99%以上の抗原のことを言い、高頻度抗原を欠く人は、これらの抗原に対する抗体を保有する場合があります。貴重な症例だったと言える。

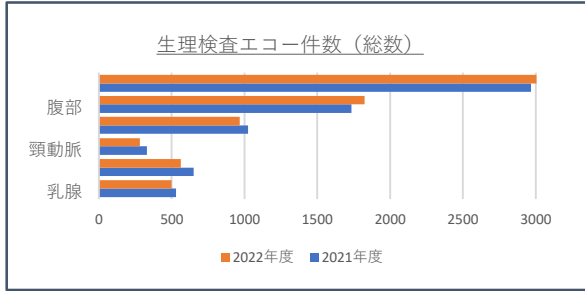
兎に角2021年度、2022年度はコロナに振り回された2年間であった。



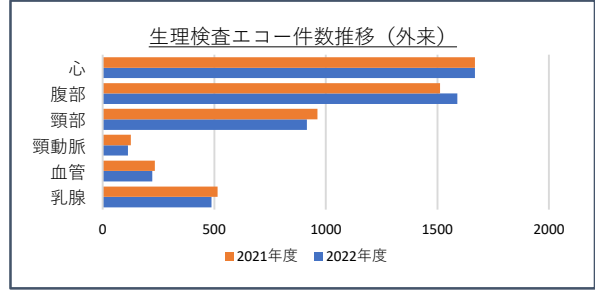
(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

血液製剤使用状況

【照射赤血球LR】

(表1)

	2021年度	2022年度
使用(単位)	2,784	3,012
廃棄(単位)	8	6
廃棄率%	0.29	0.2

【新鮮凍結血漿LR】

(表2)

	2021年度	2022年度
使用(単位)	288	476
廃棄(単位)	8	6
廃棄率%	2.70	1.24

【濃厚血小板(10単位)】

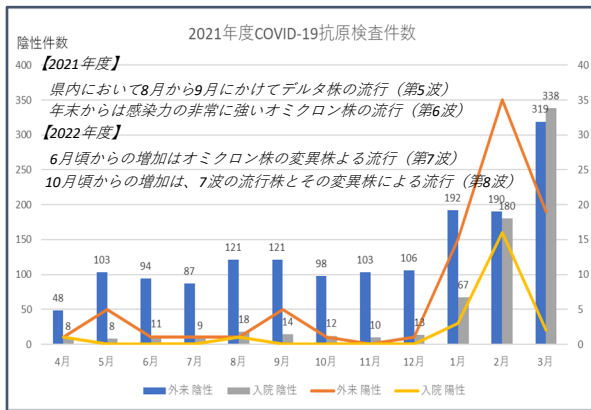
(表3)

	2021年度	2022年度
使用(単位)	2,784	3,012
廃棄(単位)	8	6
廃棄率%	0.28	0.00

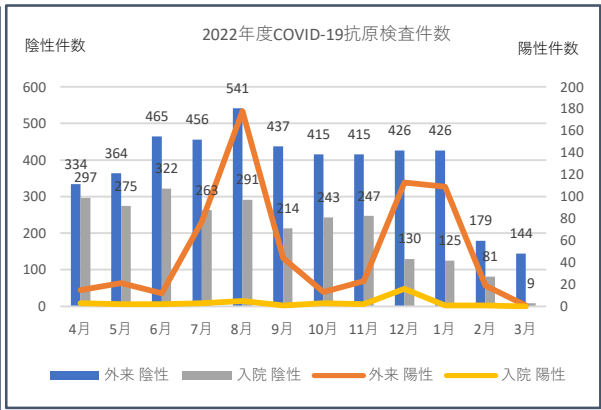
【アルブミン分画製剤(12.5g)】

(表4)

	2021年度	2022年度
使用(単位)	774	713
廃棄(単位)	0	1
廃棄率%	0.00	0.14



(図5)



(図6)

【COVID-19 PCR検査件数(東ソー:TRC Ready-80、バックマン コールター:Gene Xpert GX-IV)】

(表5)

	結果	2021年度	2022年度
外来	陰性	677	2,626
	陽性	74	240
入院	陰性	400	1,591
	陽性	28	198
	合計	1,179	4,655

※TRCの運用が2021年9月からスタート (件数)

(写真1)



(写真2)



(笠井 昇)

栄養管理室

スタッフ

役職・氏名		専門・認定資格
栄養管理室担当医	鶴 政俊	管理栄養士 5名 栄養サポートチーム(NST)専門療法士 2名 日本糖尿病療養指導士 1名 栄養管理に関する40時間研修終了 2名
栄養管理室長	揚村 和英	
管理栄養士	池田 千尋	
	滝澤 菜	
	西田 睦美	
調理師	鶴野 くるみ	
	坂田 修	
	松本 歩	
委託会社職員	33名	



概要

◆栄養管理業務◆

【概要】

1, 栄養管理業務

①栄養管理計画書: 栄養管理計画書は、主治医が入院診療計画書で『特別な栄養管理の必要性が有り』とした患者について、多職種が協力して作成します。入院時および再評価時にスクリーニングとアセスメントを実施して栄養状態に課題があるか、または栄養不良のリスクが高い患者について提供栄養量の検討や食事変更の提案を行います。入院時に栄養状態良好でも入院中に体重減少や食事摂取量が減少の見られる患者も多いため、すべての入院患者に対して栄養管理計画書を作成して入院中に一週間ごとに再評価を行っています。管理栄養士は病室を訪問し、患者への聞き取りや食事の様子の観察を行い、また担当看護師と情報を共有しながら患者個々に最適な栄養サポートプランを計画して実施できるよう努めています。

②個人栄養食事指導: 入院患者および外来患者に対して個人栄養食事指導を提供しています。患者の日ごろの食生活などを丁寧に聞き取ることで、患者が主体的に食事療法に取り組めるようオーダーメイドの指導を行い、QOLやADLの向上に繋がることを目標としています。

③集団栄養食事指導: 入院患者を中心に、毎月2回の糖尿病教室と毎月1回の減塩教室を開催しています。担当スタッフからの知識の啓蒙と患者同士の会話に重点をおいた運営を心がけています。

※新型コロナウイルスのため一時的に活動中止しています。

④チーム医療: 栄養サポートチーム(NST)をはじめ、褥瘡、緩和ケアのラウンドなど各委員会に参加しています。また令和元年からは、ICUでの栄養管理業務を強化し、令和2年度からは早期栄養介入管理加算を算定して入室後早期からの栄養管理に他職種と連携して取り組んでいます。

◆給食管理(通常の患者食調理は、すべて委託)◆

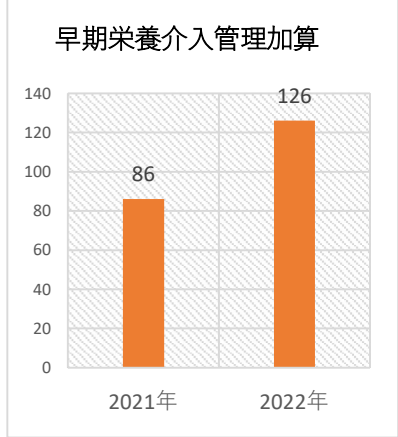
2, 給食管理

①特別メニュー: 2007年から開始している特別メニューは、現在1ヶ月に10回前後実施しています。病院給食では提供が難しいメニューや患者様が自宅に帰ったようななどこか懐かしいメニューなどを取り入れています。

(写真)

②献立作成: 献立作成は、5週間のサイクルメニューになっていますが定期的に新メニューや四季を感じてもらえるような食材を取り入れて、行事食にはカードを添えるなど入院中であっても移り行く季節を感じてもらえる食事提供を目指しています。

内容	2021年	2022年
食事提案件数	3,066	3,636
栄養指導件数	1,417	970
早期栄養介入管理加算件数	86	126



(写真:特別メニュー ふぐちり鍋)



(写真:特別メニュー 海老天ぷらそば)

(揚村 和英)

リハビリテーション科

スタッフ

役職・氏名		専門・認定資格
理学療法士長	安川 達哉	3学会合同呼吸療法認定士 呼吸ケア指導士 福祉住環境コーディネーター2級 臨床実習指導者講習修了 がんのリハビリテーション研修修了
理学療法主任	山内 菜緒	
理学療法主任	井上 和裕	
作業療法主任	石丸 眞	
作業療法主任	渡邊 沙耶香	
理学療法士	12名	
作業療法士	10名	
言語聴覚士	2名	
診療業務助手	2名	



概要

◆診療活動◆

救急医療に対応したリハビリテーションを特徴とし、発症後早期より積極的に患者様の心身機能や生活能力回復に取り組んできました。平成21年5月より、新たに心臓リハビリテーションを開設し、また、集中治療室に専任のスタッフを配置し、重症例の患者様に対して早期から積極的なリハビリテーションができるように体制を強化しました。さらに、平成26年10月から地域包括ケア病棟の開設に伴い、在宅復帰を目指した回復期のリハビリテーションを本格的に始めました。急性期から在宅復帰まで一貫して関わる事によって、患者様のニーズに寄り添ったリハビリテーションサービスの提供に努めています。

◆チームアプローチ◆

毎週各診療科事に医師・看護師・ソーシャルワーカーなど多職種合同でカンファレンスを実施しております。多職種で情報を共有して患者様それぞれに最適なゴール設定を行う事によって、最適なリハビリテーションを実施できるように日々努力しております。下関市は年々高齢化が進んでおり、在宅での介護が困難になるケースも増えていますが、患者様の希望にできるだけ添えるように多職種で協議しています。

◆教育体制◆

臨床教育にも力を入れており、毎年7～8校、10名程度の臨床実習生の受け入れを行っています。また、教育の一環として、積極的に学会発表を推奨しております。研究活動や症例報告を通して、科学的根拠をもって診療にあたるように努力しています。

実績

疾患別(件数)	職種	2021年度	2022年度
脳血管疾患リハビリテーション I	PT	4,095	4,571
	OT	5,558	4,937
	ST	1,683	2,263
	合計	11,336	11,771
運動器疾患リハビリテーション I	PT	17,391	17,483
	OT	8,150	7,003
	合計	25,541	24,486
廃用症候群リハビリテーション I	PT	4,862	4,574
	OT	4,975	6,088
	ST	205	54
	合計	10,042	10,716
呼吸器リハビリテーション I	PT	2,491	2,646
	OT	601	1,234
	ST	7	57
	合計	3,099	3,937
心大血管リハビリテーション I	PT	798	901
	OT	24	50
	合計	822	951
がんのリハビリテーション	PT	512	365
	OT	481	955
	ST	0	0
	合計	993	1,320
リハビリテーション総合実施計画書		2,607	3,239
退院時指導		2	0

(河野 明彦)

医療機器管理室

スタッフ

役職・氏名	専門・認定資格
臨床工学技士長 三代 英紀 主任臨床工学技士 石田 朋行 臨床工学技士 5名	3学会合同呼吸療法認定士 2名 高気圧酸素治療専門技師 1名 第2種ME技術者 5名 日本DMAT隊員 1名



概要

◆医療機器管理業務◆

医療機器管理業務では病院内で使用している人工呼吸器や輸液ポンプなど約20機種・700台の医療機器を中央管理として安全に使用できるように保守点検業務を行っています。保守点検業務では、使用が終了した機器の終了時点検や定期的に行われる点検の年間計画を策定し実施しています。また、教育業務にも力を入れており、看護スタッフに向けて人工呼吸器や新しく入ってきた機器の取り扱い等の勉強会を行っています。

◆集中治療室業務・手術室業務◆

集中治療室では、人工呼吸器の使用時に起こったトラブルの対応やCHDF(緩徐血液透析濾過法)などの生命維持管理装置に対する技術支援を行っています。

手術室では、術中神経モニタリング(MEP / SEP)や脳ナビゲーションによる手術の支援、下肢静脈瘤血管内焼灼術におけるレーザー装置の操作などを行っています。

◆透析センター業務◆

透析センターでは腎臓の働きの代わりにする血液透析(HD)や血液透析濾過(HDF)を行っており、臨床工学技士はそれらの治療を行う装置の操作、保守点検を行っています。また、透析を行うにあたって必要となる透析液の水質検査やダイアライザーの管理も行っています。

◆高気圧酸素治療室業務◆

高気圧酸素治療は、様々な疾患に対して治療を行っています。治療の計画から装置の操作、保守点検を臨床工学技士が担っています。

実績

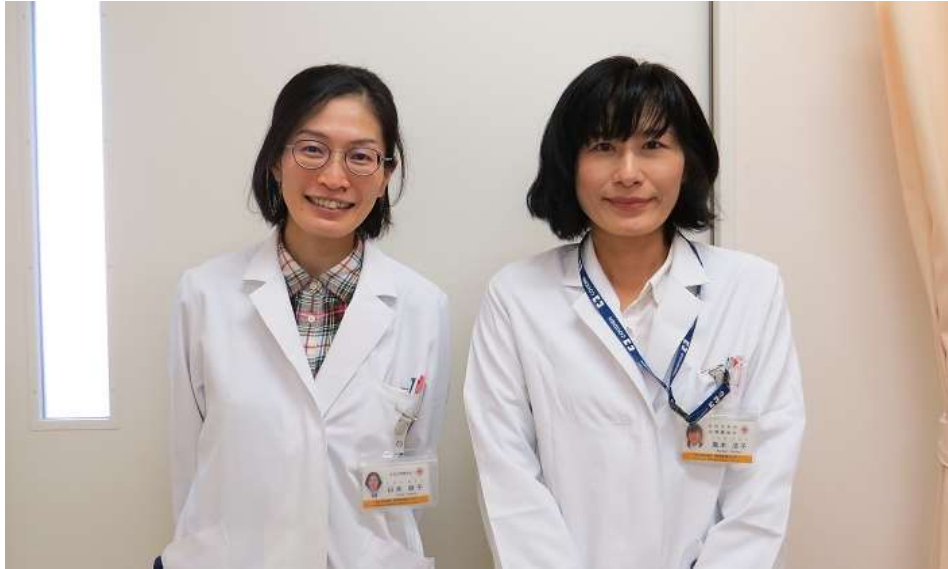
業務領域		症例内容	2021年度	2022年度
血液浄化	透析センター	血液透析(回数)	6,092	5,874
		血症交換療法(件数)	5	0
		血液吸着(件数)	6	11
	集中治療室	持続血液濾過透析療法(件数)	10	6
		エンドトキシン吸着療法(件数)	2	1
		血症交換療法(件数)	0	0
ME室	腹水濾過濃縮再静注療法	57	73	
高気圧酸素治療		高気圧酸素治療(新規患者数)	123	152
		高気圧酸素治療(治療回数)	1,967	2,268
臨床業務立ち合い	脳神経外科	手術ナビゲーション(脳外科)立ち合い(件数)	17	8
		術中モニタリング(SEP)(件数)	3	12
		INVOSセッティング(件数)	9	8
	消化器内科	RFA(ラジオ波焼灼療法)立ち合い(件数)	1	0
	神経内科	新規導入 NPPV (件数)	4	3
		新規導入 TPPV (件数)	1	0
	整形外科	術中神経モニタリング(MEP)	86	77
	心臓血管外科	下肢EVT(ALI)+ 麻酔器	19	27
		下肢EVT(CLI)	29	15
		下肢静脈瘤血管内焼灼術	37	23
		その他	2	4
	麻酔科	全科共通 麻酔器準備 (件数)	17	26

(三代 英紀)

心理療法士

スタッフ

役職・氏名・専門資格		
主任心理療法士	白井 麻子	(公認心理師・臨床心理士)
心理療法士	黒木 浩子	(公認心理師)
心理療法士	佐村 さや香	(公認心理師・臨床心理士)



概要

◆心理的援助◆

カウンセリングや心理療法といった心理面接を通しての心理的援助を実施しています。対象となるのは当院に通院されている外来患者・入院患者であり、またご本人のみではなく、ご家族のご相談もお受けしています。様々な科から面接依頼を頂き内容に応じて主治医・看護師など多職種と連携しながら心理的支援を実施しています。

それぞれの相談内容に合わせて、健康な側面の成長促進を目的とした援助や問題に対する解決方法を一緒に考えていくという援助等、様々な心理的援助アプローチを行っています。ご家族に対しては2番目の患者さんという視点に立ち、積極的に支援できるようスタッフと連携しながら様々な工夫をしています。

◆心理検査◆

心理学的援助を実践するにあたっては心理アセスメントが重要になります。

そのアセスメントの方法の1つに心理検査があります。

言語・視覚認知・記憶・注意・実行機能などの認知機能の諸機能を測定する神経心理学的検査や知的機能を測定し知能指数(IQ)という数値で表す知能検査、パーソナリティ傾向や抑うつや不安を測定する自己記入式の質問紙検査などを実施しています。

◆チーム活動・カンファレンス参加◆

心理療法士もチームの一員として多職種チームやカンファレンスに参加しています。

- ・緩和ケアチーム
- ・認知症ケアサポートチーム
- ・HIV診療チーム 等

 実績

	2021年度	2022年度
〈心理面接〉	1,021	892
外来	786	723
入院	235	169
〈心理検査〉		
MMSE	167	236
HDS-R	372	427
ADAS-cog	276	262
時計描画	6	0
FAB	5	83
WMS-R	6	78
WAIS-Ⅲ&WAIS-Ⅳ	18	12
WISC-Ⅲ	3	3
その他の心理検査	15	33

(白井 麻子)

地域医療連携室

👤 スタッフ

役職・氏名		専門・認定資格
医療社会事業専門職	沖本 慎一郎	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員	古永 智子	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員	大羽 智也	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員	河本 香織	社会福祉士・介護支援専門員
医療社会事業専門員	内田 恵梨	社会福祉士



👤 概要

保健医療機関において、社会福祉の立場から患者さんやその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行います。主な業務内容は

1. 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助
2. 退院援助
3. 社会復帰援助
4. 受診・受療援助
5. 経済的問題の解決、調整援助
6. 地域活動 などを中心に活動しています。

実績

○相談活動内容

件数

		R3年度	R4年度
診療科別	内科	936	978
	消化器科	649	663
	循環器科	275	318
	脳神経外科	320	266
	整形外科	1,892	1,959
	脳神経内科	636	974
	外科	885	994
	救急科	104	69
	精神科	123	193
	産婦人科	8	26
	耳鼻咽喉科	76	44
	皮膚科	2	0
	泌尿器科	251	238
	小児科	23	5
その他	45	62	
病棟別	外来	1,103	1,409
	救命救急	118	103
	ICU	12	18
	4C	678	586
	5B	867	973
	5C	190	329
	6B	947	966
	6C	699	712
新規別	7B	1,090	1,052
	7C	524	646
新規別	新規	1,938	2,054
	継続	4,391	4,681
相談内容	経済的問題	512	622
	心理社会的問題	433	611
	受診・受療問題	2,830	2,998
	退院援助	4,254	4,476
	社会復帰	25	14

○入退院支援加算算定状況

		R3年度	R4年度
件数		1,135件	1,207件
スクリーニング実績		1.1日	1.1日
カンファレンス実績		5.4日	5.1日
計画書作成実績		5.4日	5.1日
退院先	自宅	106件	140件
	施設	94件	164件
	老健	16件	27件
	転院	919件	876件
地連パス	脳卒中	151件	106件
	大腿骨	134件	152件
男女別	男性	471人	473人
	女性	664人	734件
平均年齢	男性	78.7才	78.5才
	女性	84.4才	84.7才

(沖本 慎一郎)

看護部

🏠 スタッフ 2023年5月現在

役職・氏名	
看護部長	小林 奈々
副看護部長	川添 由紀子・服部 有希
看護師長	14 名
副看護師長	26 名
看護師	357 名

専門・認定資格	
感染管理認定看護師	2 名
救急看護認定看護師	3 名
がん化学療法認定看護師	1 名
集中ケア認定看護師	1 名
皮膚排泄ケア認定看護師	1 名
緩和ケア認定看護師	1 名
認定看護管理者	4 名
(うち特定行為看護師)	5 名)



🏠 看護部の理念・基本方針

看護部の理念

- 1 患者さんの思いを大切にして共に歩む看護を目指します
- 2 患者さんに納得と信頼を得る看護を目指します
- 3 看護者としての責務を誠実に実践します

看護部の基本方針

- 1 生命の尊厳と、人としての尊厳および権利を尊重します
- 2 安全で効果的な看護実践を目指し、患者さんご家族と共に考えることを基本とし、親切で配慮ある看護を提供します
- 3 看護職員としての気品と誇りをもち、他部門との信頼関係を保持します
- 4 組織の一員として積極的に病院経営に参画します
- 5 最良の看護実践のため、自己研鑽につとめます
- 6 医療・看護を学ぶ人々によりよい教育環境を提供します

看護部の取り組み

2021	4月	看護師特定行為研修指定研修機関に指定 外科系基本パッケージ・救急領域パッケージ研修開始
	5月	急性期看護補助体制加算(25対1) 夜間100対1急性期看護補助体制加算取得 夜間看護体制加算取得
2022	4月	特定行為看護師 3名配置
	7月	2交替勤務導入(4C病棟)
	10月	白衣中央管理(女性のみ)
2023	3月	ICカードを利用した新たな勤務時間管理システム導入
	4月	特定行為看護師 1名配置

🏠 研修の実績(2021年度)

○新人看護師研修

内容		参加人数
新人看護師研修	新採用者研修	26名
	新採用者技術研修	26名
	インフォメーション研修	26名
	3か月の振り返り・リフレッシュ研修	26名
	6か月の振り返り	24名

○ラダーレベル研修 新型コロナウイルス感染拡大のため一部中止または部署・書面開催

内容		参加人数
ラダーレベル I	新採用者オリエンテーション	26名
	看護技術	26名
	インフォメーション研修	26名
	メンバーシップ研修	26名
	3か月の振り返りリフレッシュ研修	24名
	フィジカルアセスメント I	26名
	多重課題	25名
	6ヶ月の振り返りリフレッシュ研修	24名
ラダーレベル II	看護倫理 I	24名
	リフレクション	21名
	急変シミュレーション	22名
ラダーレベル III	看護倫理 II	22名
	リフレクション	17名
	リーダーシップ研修	44名
	後輩支援研修 3ヶ月フォローアップ研修	44名
	後輩支援研修 6ヶ月フォローアップ研修	42名
ラダーレベル IV	看護倫理 III	42名
	後輩支援研修 12ヶ月フォローアップ研修	42名
ラダーレベル V	リフレクション	書面開催43名
	経営参画 I	17名
	看護倫理 IV	17名
ラダーレベル V	看護を語る I (ナラティブ研修)	17名
	経営参画 II	2名
	看護を語る II	2名
	看護倫理 V	2名

内容		参加人数
全体研修	看護必要度	320名
	看護を語る会	部署開催91名
	e-ラーニング(倫理・コミュニケーション)	部署開催342名
看護研究	看護研究導入	17名
	看護研究計画書指導	26名
	分析、統計	25名
	看護研究のまとめ	27名
	看護研究発表会	50名
役割別研修	固定チームリーダー研修	26名
	固定チーム取り組み発表会	書面開催
	チューター・実地指導者導入研修	27名
看護補助者研修	接遇・倫理	17名
	守秘義務・個人情報の保護	17名
	日常生活援助	中止資料配布

○院内認定専門領域看護師育成研修

内容		参加人数
院内認定専門領域 看護師育成研修	緩和ケア (計10回)	延べ93名
	救急看護 (計13回)	延べ212名

○看護研究発表

テーマ		所属
院内看護研究発表	化学療法を受ける悪性リンパ腫患者のサルコペニア予防に関する一考察 ～運動・食事療法を実施して～	4C
	がん看護に対する看護師の困難感に関する属性比較	6C
	救命救急センターを擁する地域支援病院で勤務する看護師の救命スキルおよび知識に関する調査	5B
	音楽による局所麻酔手術に対する不安・恐怖軽減の効果 ～患者が好みの音楽を取り入れて～	手術室

○院外看護研究発表

テーマ		所属
第74回 国立病院総合医学会	内視鏡下手術器材の点検方法の検討 ～内視鏡下器材点検表の導入に向けて～	手術室
	外来患者が外来看護師に求める接遇 ～外来看護者と外来患者の接遇に対する評価を比較して～	外来
日本集中治療医学会 第5回中国・四国 学術集会(WEB)	救命救急センター病棟に入院する患者のICDSCスケールを用いたせん妄評価と改善の 取り組み	E1

🍷 研修の実績(2022年度)

○新人看護師研修

内容		参加人数
新人看護師研修	新採用者オリエンテーション	26名
	看護技術研修	26名
	ローテーション研修	26名
	インフォメーション研修	26名
	3カ月の振り返りリフレッシュ研修	26名
	6ヶ月の振り返りリフレッシュ研修	24名

○ラダーレベル研修

内容		参加人数
ラダーレベルⅠ	メンバーシップ研修	26名
	多重課題	25名
	看護倫理Ⅰ	24名
	リフレクション	23名
ラダーレベルⅡ	フィジカルアセスメント	20名
	急変シミュレーション	20名
	看護倫理Ⅱ	20名
	リフレクション導入	20名
ラダーレベルⅢ	リフレクション	19名
	後輩支援研修Ⅰ-① コーチング	27名
	後輩支援研修Ⅰ-② 3ヶ月フォローアップ研修	27名
	後輩支援研修Ⅰ-③ 6ヶ月フォローアップ研修	26名
	後輩支援研修Ⅰ-④ 12ヶ月フォローアップ研修	24名
	退院支援	21名
	ケーススタディ導入	25名
ケーススタディ発表会	12名	
ラダーレベルⅣ	リーダーシップ研修	7名
	後輩支援Ⅱ	9名
	経営参画Ⅰ	9名
	キャリア形成	16名
ラダーレベルⅤ	看護倫理Ⅳ	8名
	経営参画Ⅱ	3名
	看護倫理Ⅴ	3名

○全体研修

内容		参加人数
全体研修	看護を語る会	112名
	看護必要度	302名
	院内留学	10名
看護研究	看護研究計画書指導	30名
	分析・統計	21名
	看護研究のまとめ	29名
	看護研究発表会	64名
	看護研究導入	10名
役割別研修	固定チームリーダー研修	30名
	固定チーム取り組み発表会	82名
	チューター・実地指導責任者導入研修	23名
看護補助者研修	医療制度の概要と組織の理解	27名
	感染予防の必要性がわかる	27名
	医療安全患者誤認を防ぐ	27名
	日常生活援助	29名

○院内認定専門領域看護師育成研修

内容		参加人数
院内認定専門領域 看護師育成研修	感染管理(計12回)	延べ83人


○看護研究発表

テーマ		所属
院内看護研究発表	ICU入室患者の退院時自立歩行に関連する因子に関する研修	E2
	化学療法を受ける患者のセルフケア能力向上に有効な患者指導のタイミングの検討	4C
	高齢患者の栄養改善に対する看護師の意識調査	6B
	整形外科で手術を受ける高齢患者を対象とした修正早期警戒スコア(MEWS)調査	7B
	透析患者へのパーソン・センタード・ケアを用いた関わり	外来
	～アルツハイマー型認知症患者の体重コントロールを家族と共に取り組んだ1事例～	

○院外看護研究発表

	テーマ	所属
第17回中国四国地区 国立病院機構国立病院療養 所看護研究会(WEB)	化学療法を受ける悪性リンパ腫患者のサルコペニア予防に関する一考察 ～運動・食事療法を実施して～	4C
日本医療マネジメント学会 第19回九州・山口連合大会 (WEB)	大腿骨骨折手術後患者へのリハビリテーション状況を反映したADL拡大の取り組み	7B
	地域包括ケア病棟における急変時の対応力向上に向けた取り組み	7C
第75回 国立病院総合医学会 (WEB)	洗面台に残存する水分を拭き取る際の手指再汚染に関する調査	5B
	がん看護に対する看護師の困難感と属性比較	6C

(服部 有希)

 E1【救命救急センター】 看護師長 神田 典子


- 1 病床数 24床
- 2 看護方針
 - 1)救命救命としての役割を十分に発揮し、専門知識、技術を提供します。
 - 2)チーム医療を実践し、患者さん・ご家族に対し安心・安全な医療を提供します。
 - 3)救命救急センターとして人材育成に力を注ぎ専門性の高い看護を提供します。

 E2【ICU】 看護師長 神田 典子


- 1 病床数 6床
- 2 看護方針
 - 1)ICUとしての役割を發揮し、専門知識・技術を提供します。
 - 2)チーム医療を実践し、患者さん・ご家族に対し安心・安全な医療を提供します。
 - 3)専門性の高い分野として人材育成に努め専門性の高い看護を提供します。

 4C病棟 看護師長 東 直美


- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科：産婦人科・小児科・総合診療科・泌尿器科
- 3 看護方針
 - 1)患者さん・ご家族にとっての最善を、チームで検討し看護実践していきます。
 - 2)受け持ち看護師を主体に、患者さん・ご家族の意向を取り入れた看護を提供していきます。
 - 3)専門的知識と技術のある看護実践を行います。

 5B病棟 看護師長 西田 茂雄


- 1 病床数 52床
- 2 主な診療科：脳神経外科・神経内科・循環器内科
- 3 看護方針
 - 1)循環器内科・脳神経内科・脳神経外科疾患患者さんに対する質の高い急性期医療を提供します。
 - 2)患者さん・ご家族の目線に立ったチーム医療を実践します。
 - 3)事故防止に努め、安心安全な医療を提供します。
 - 4)地域および他の医療機関との連携を強化し、患者さん・ご家族を支援します。

 5C病棟 看護師長 小林 陽子


- 1 病床数 51床
- 2 主な診療科：地域支援病棟
- 3 看護方針
 - 1)自宅復帰に向けて、医療・看護・退院支援を行います。
 - 2)多職種と連携し、チームで退院支援に対応します。
 - 3)安全・安楽な療養環境を提供します。

 6B病棟 看護師長 鶴原 智美


- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科：消化器内科・口腔外科
- 3 看護方針
 - 1)がん、消化器をはじめとした急性期内科疾患に対する質の高い医療を提供します。
 - 2)患者さん、ご家族、多職種間で共に考え、健康の回復を目指す医療を展開していきます。
 - 3)患者さんや、ご家族の意思決定場面に立ち会い、意思決定支援のサポートを行っています。
 - 4)退院支援カンファレンスにて、退院調整が必要となる患者さんへの早期介入や転院調整、緩和ケアラウンドなど、多職種カンファレンスを定期的で開催し、チーム医療を提供しています。

 6C病棟 看護師長 田中 栄智

- 1 病床数 53床
- 2 主な診療科：消化器外科・乳腺外科
- 3 看護方針
 - 1)消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、がん患者さんへ質の高い医療を提供します。
 - 2)意思決定支援を行い、患者様とご家族の希望に沿った医療・看護を提供します。
 - 3)患者さんが安心して治療を受けられる環境を提供します。
 - 4)手術の前後から退院後の生活について、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士がチームとなって支えます。

 7B病棟 看護師長 岡 美樹

- 1 病床数 54床
- 2 主な診療科:整形外科・小児科・耳鼻科・皮膚科
- 3 看護方針
 - 1)質の高い急性期医療を提供します。
 - 2)インフォームドコンセントに基づき、信頼される医療を展開していきます。
 - 3)リハビリやMSW等の他部門と協力し早期離床に努めることでQOLの向上を目指します。

 7C病棟 看護師長 田中 雅美

- 1 病床数 52床
- 2 主な診療科:地域支援病棟
- 3 看護方針
 - 1)医師・看護師・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカー等と連携し患者さんの治療や支援を行っています。
 - 2)地域や関連する施設との連携を大切にし、病院から在宅への「架け橋」の役割を果たします。
 - 3)患者が安全・安心でできる療養生活を送ることができるよう看護提供します。

 手術・中央材料室 看護師長 曾根 真弓

- 1 手術室数 6室
- 2 看護の方針
 - 1)受け持ち看護師として手術を受ける患者さんの入室から退室まで責任をもって対応に努めます。
 - 2)専門的知識・技術をもとに、安全でより質の高い医療・看護を提供します。

表1 診療科別手術件数

診療科	R3年度	R4年度
外科	495	517
心臓血管外科	70	63
脳神経外科	93	97
整形外科	1030	993
産婦人科	45	46
泌尿器科	148	166
眼科	577	418
耳鼻咽喉科	37	49
歯科口腔外科	36	44
その他	4	4
総手術件数	2537	2397

表2 麻酔件数

麻酔区分	R3年度	R4年度
全麻	1201	1507
腰硬麻	422	60
局麻	811	683
その他	103	147

- 1 診療科:36 特殊外来:14
救急外来・内視鏡センター・透析センター・化学療法センター
- 2 看護方針
 - 1)患者さんが安心・安全に受診できるよう、患者さん中心の看護を提供します。
 - 2)健康に不安をもつ患者さんに寄り添い地域、病棟と連携し安心して治療を行い地域で過ごせるよう支援します。
- 3 外来患者状況

表1 1日平均外来患者数

診療科名	令和3年度	令和4年度
内科	86.9	80.9
精神科	20.1	20.5
神経内科	35.3	37.1
呼吸器科	7.2	8.2
消化器科	43.6	45.7
循環器科	28.7	29.3
小児科	15	15.5
外科	46.5	47.7
整形外科	76.7	67.8
脳神経外科	8.3	7.3
腫瘍内科	0	0
皮膚科	8.3	8.9
泌尿器科	76.5	74.4
産婦人科	13.6	12.9
眼科	50.2	37.8
耳鼻咽喉科	20.2	17.9
放射線科	14.4	10.2
麻酔科	4.2	4.5
歯科口腔外科	18.7	14
心臓血管外科	5.1	5.3
小児外科	0	0
形成外科	2.2	2.5
リハビリ科	13.5	8.9
救急科	18.6	22.6
計	613.8	579.9

表2 救急来院患者数状況

			救急患者 来院件数	来院方法別	
				救急車 搬送総数	救急車以外 搬送総数
総数	令和3年	入院	2,440	1,638	802
		外来	4,340	1,452	2,888
	令和4年	入院	2,278	1,682	561
		外来	5,151	1,779	3,348
診療時間内	令和3年	入院	794	623	171
		外来	735	503	232
	令和4年	入院	835	730	71
		外来	715	560	151
診療時間外	令和3年	入院	1,646	1,015	631
		外来	3,605	949	2,656
	令和4年	入院	1,443	952	490
		外来	4,436	1,219	3,197
深夜(再掲)	令和3年	入院	450	283	167
		外来	893	285	608
	令和4年	入院	218	153	65
		外来	729	278	451

表3 人工透析患者状況 (入院・外来含む)

		年度別		
		年度	計	月平均
血液透析	患者数	3年度	216	18
		4年度	226	18.8
	延回数	3年度	6076	506.3
		4年度	5923	493.6

表4 特殊検査件数

検査内容		年度別		
		年度	計	月平均
内視鏡	胃・十二指腸ファイバー	3年度	2359	196.58
		4年度	2326	193.83
	大腸ファイバー(ポリペク)	3年度	941	78.4
		4年度	861	71.75
	気管支ファイバー	3年度	18	1.5
		4年度	13	1.08
ERCP	3年度	180	15	
	4年度	88	7.33	
放射線関係	血管造影	3年度	137	11.4
		4年度	102	8.5
	心臓カテーテル	3年度	4	0.3
		4年度	6	0.5
	ミエログラフィー	3年度	45	3.8
		4年度	35	2.92
ペースメーカー	3年度	19	1.6	
	4年度	32	2.67	



1 看護方針

- 1) 退院後やご自宅での生活に不安がある方に、看護師が訪問してケアを提供します。
 住み慣れた自宅で生活しながら、安心・安全に療養できるよう、ビーンズ訪問看護ステーションは、ご本人・ご家族をマメ(豆)な心くばりで支援していきます。

表1: 訪問看護ステーション運営状況

利用 件数	保険区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	当該月累計
	令和 3年度	介護保険		218	204	235	199	205	180	201	199	190	163	169	197
医療保険			94	86	105	110	111	143	152	110	104	100	98	111	1115
計			312	290	340	309	316	323	353	309	294	263	267	308	3109
令和 4年度	介護保険		169	164	171	164	195	186	182	196	201	174	170	193	2165
	医療保険		114	123	138	121	112	99	108	128	102	87	69	65	1266
	計		283	287	309	285	307	285	290	324	303	261	239	258	3431

1 看護方針

- 1) 地域医療連携室では、かかりつけの医師からの診察・検査やセカンドオピニオンの予約調整を行います。
- 2) 外来通院中や退院後も安心して在宅治療継続することができるよう、退院のお手伝いや訪問看護・医療相談を行っています。

MEMO 

事務部(企画課・管理課)

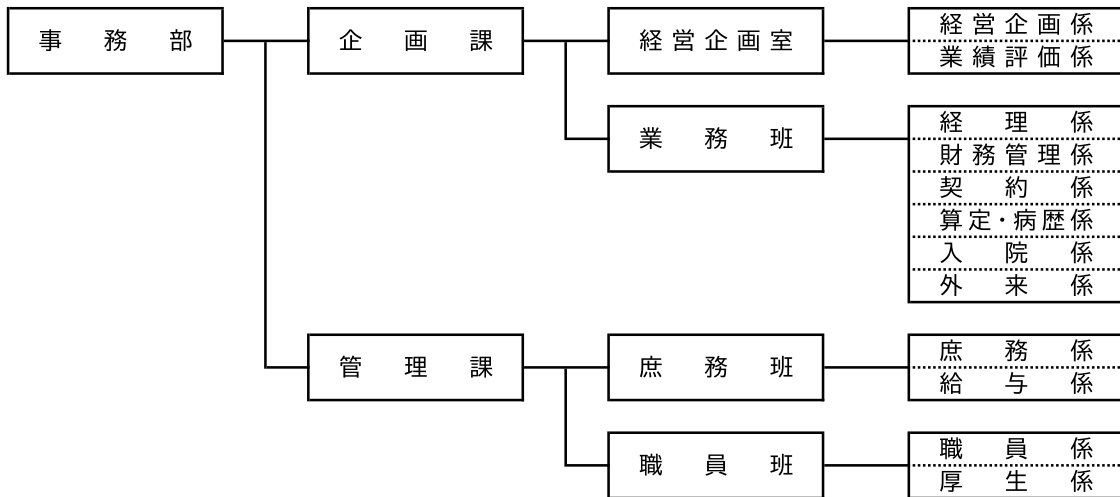
1. 事務部職員数(各年4月1日現在)

職 群	定 数	現 員	
		令和03年度	令和04年度
部長	1	1	1
課長・室長	3	2	2
班長・専門職	4	3	3
係長	8	5	5
主任			
一般職員	6	7	9
計	22	18	20

※現員は休職者を含む

※欠員は経営面を考慮し、固定費削減方策として補充していない。

2. 組織



3. トピックス

2019年(令和元年)12月、中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対し、物資の調達、職員へのワクチン接種、発熱外来の設置、来院者の発熱・行動確認、医療ひっ迫地域やワクチン集団接種会場への職員派遣、入院受入病床の整備及び関連補助金の確保等、事務部においても新型コロナウイルス感染症対応に追われた。

以降、令和3年4月末からの第4波、令和3年8月のデルタ株による第5波、令和4年1月中旬からのオミクロン株による第6波、令和4年7月のオミクロンBA.5による第7波、令和4年12月からの第8波に対応しながら、また院内クラスターの発生にも対処しながら重点医療機関としての責務を全うしている。

詳細については、関連部署の報告等を参照されたい。

以下は、事務部のトピックスとして報告する。

①地域医療構想調整会議(令和03年度～令和04年度)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により議論が中断されていた地域医療構想に関し、令和3年12月から水面下での議論が再開された。

令和4年1月に下関医療圏地域医療構想調整会議高度急性期・急性期専門部会が書面開催され、下関構想区域を国の重点支援地域として申請することの合意が得られ、山口県より国に申請、令和4年4月27日に下関構想区域が重点支援地域に選定されている。

その後、市内4病院及び下関市との間で議論が重ねられ、令和5年3月2日に令和4年度第1回下関市医療対策協議会(下関市医療圏地域医療構想調整会議)が開催され、第2次中間報告がとりまとめされている。この中で、下関市立市民病院とJCHO下関医療センターの統合を検討することとなり、地域医療構想実現の第一段階として、4病院体制から3病院体制による医療提供体制の再編を検討することとなった。

このことは、令和5年4月16日に開催された下関市主催の「地域医療に関するシンポジウム」等の場で広く市民に公表されている。

②新型コロナ関連の補助金獲得について

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、政府は新型コロナウイルス感染症患者を受け入れる病床の確保が喫緊の課題であると捉え、受け入れ病床が逼迫している現状にかんがみ、新型コロナウイルス感染症患者の入院受入医療機関への緊急支援策として新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業(医療分)等の補助金制度を設け、受け入れ病院の更なる確保を図った。

当院も山口県における入院協力医療機関(重点医療機関)としての役割を担うことにより、以下のとおり当該補助金の支給を受けている。

新型コロナウイルス感染症対応関連獲得補助金リスト(入金日で整理)

(単位:円)

年度	所掌	事業名等	金額
2021	厚生労働省	令和2年度 拡大防止・医療提供体制確保支援金	6,250,000
2021	山口県	令和2年度 帰国者接触者外来等設備整備事業	9,394,000
2021	厚生労働省	令和2年度 救急・周産期・小児医療機関体制確保事業	24,000,000
2021	山口県	令和2年度 宿泊施設確保支援事業	99,000
2021	山口県	令和2年度 設備整備等事業	21,931,000
2021	山口県	令和2年度 入院医療機関設備整備事業	9,526,000
2021	山口県	令和2年度 入院病床確保支援事業(令和2年度第四期分)	207,547,089
2021	山口県	令和3年度 外国人患者受入れ体制確保事業補助金	9,152,000
2021	山口県	令和3年度 入院協力医療機関設備整備事業費補助金 ※全身用X線CT装置更新	66,000,000
2021	山口県	令和3年度 入院病床確保支援事業(令和3年度第一～三期分)	505,851,316
		令和3年度入金合計	859,750,405

年度	所掌	事業名等	金額
2022	厚生労働省	令和3年度 発熱患者の外来診療・検査体制確保事業実施医療機関支援事業	1,708,000
2022	山口県	令和3年度 入院病床確保支援事業(令和3年度第一期追加分)	28,614,000
2022	山口県	令和3年度 宿泊施設確保支援事業	11,000
2022	山口県	令和3年度 入院医療機関設備整備事業補助金	922,000
2022	山口県	令和3年度 入院病床確保支援事業(令和3年度第四期分)	195,780,160
2022	山口県	令和4年度 入院病床確保支援事業(令和4年度第一～三期分)	664,954,472
		令和4年度入金合計	891,989,632

③勤務時間管理システムの導入について

国立病院機構では、客観的な記録に基づく新たな勤務時間管理方法を実施するため、ICカード等を利用した勤務時間システムの導入を行う方針を掲げ、当院でも令和5年度の稼働に向けて事務部を中心に取り組み、令和4年度末月に既存の勤務表作成システムを拡張する形でシステムの導入を行った。

この取り組みは、今後の労務管理の在り方において大きな転換点となるものと位置づけられており、職員の勤務時間をより適切に把握する仕組みとして、「働き方改革」の柱である長時間労働の削減に向けた重要な取り組みの一つとなり得るものである。引続き、組織内での理解や更なる精度向上に努めていきたい。

(難波 和弘)

MEMO 

診療情報管理室

スタッフ

役職・氏名	
室長	佐藤 穰
診療情報管理士	太田 恭司
	島 且大
	宮添 夏生
	枝松 希
	藤本 泰生
	ほか1名

専門・認定資格	
診療情報管理士	5名
医療情報技師	1名
がん登録実務初級者	4名
医療クオリティ マネージャー	1名



概要

◆診療情報管理業務◆

診療情報の適切な保管・管理を行っています。
また、診療記録に不整合がないかを点検し、診療情報管理システムの構築を行い、精度管理に努めています。

◆疾病統計、分析業務◆

入院患者について国際疾病分類(ICD)による疾病統計を行っています。
疾病統計の作成、臨床評価指標の作成等に役立てています。

◆DPC管理業務◆

退院前に、診療報酬の請求担当者とは別の視点で診療情報管理の一貫としてのDPCコーディングの適正化を行っています。

◆がん登録業務◆

がん登録等の推進に関する法律、および院内がん登録の実施に係る指針に基づき、がん登録を実施しています。

◆疾病統計◆

大分類	ICD	性別	2021年度	2022年度
01:感染症及び寄生虫症	(A00-B99)	男	84	72
		女	74	57
02:新生物	(C00-D48)	男	844	791
		女	799	774
03:血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	(D50-D89)	男	10	9
		女	11	16
04:内分泌、栄養および代謝疾患	(E00-E90)	男	34	35
		女	27	31
05:精神および行動の障害	(F00-F99)	男	15	23
		女	26	27
06:神経系の疾患	(G00-G99)	男	132	133
		女	98	105
07:眼および付属器の疾患	(H00-H59)	男	120	65
		女	148	127
08:耳および乳様突起の疾患	(H60-H95)	男	20	15
		女	23	23
09:循環器系の疾患	(I00-I99)	男	280	267
		女	230	222
10:呼吸器系の疾患	(J00-J99)	男	147	170
		女	98	96
11:消化器系の疾患	(K00-K93)	男	474	472
		女	352	292
12:皮膚および皮下組織の疾患	(L00-L99)	男	22	26
		女	19	27
13:筋骨格系および結合組織の疾患	(M00-M99)	男	146	126
		女	193	156
14:腎尿路生殖器系の疾患	(N00-N99)	男	131	105
		女	103	142
15:妊娠、分娩および産じょく<褥>	(O00-O99)	男		
		女	25	16
16:周産期に発生した病態	(P00-P96)	男	5	4
		女	5	2
17:先天奇形、変形および染色体異常	(Q00-Q99)	男	1	4
		女		1
18:症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	(R00-R99)	男	67	55
		女	60	43
19:損傷、中毒およびその他の外因の影響	(S00-T98)	男	339	353
		女	526	484
20:傷病および死亡の外因	(V01-Y98)	男		
		女		
21:健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	(Z00-Z99)	男	10	10
		女	18	12
22:特殊目的用コード	(U00-U89)	男	199	137
		女	175	168
???分類不明	※NEC	男	1	3
		女	7	3
合計		男	3,081	2,875
		女	3,017	2,824

※NEC:国際疾病分類”not elsewhere classified”の略で、他のいずれの項目にも分類されないもの

◆がん登録統計◆

診断年	男	女	計
2021年	345	337	682
2022年	322	281	603
合計	667	618	1,285

(太田 恭司)



 *Section 4*

研究実績

原著論文、総説、著書(英文)

2021(R3)年度

No.	タイトル	雑誌名	巻 号 ページ		
	著者		年月		
1	Endoscopic and pathologic motifs for the clinical diagnosis of Epstein-Barr virus-associated gastric cancer.	DEN open	1	1	7
	Hideo Yanai, Daisuke Chihara, Megumi Harano, Eiki Sakaguchi, Tomoyuki Murakami and Jun Nishikawa.		2021年4月		
2	A Triphasic Split-bolus Contrast Injection Protocol for Artery-vein Separation During Pulmonary Computed Tomographic Angiography	Journal of thoracic imaging			
	Tokurei S, Takegami K, Ikushima Y, Sato S, Kudomi S, Okada M		2021年9月		
3	Portal vein embolization via the ipsilateral percutaneous transhepatic approach versus laparotomic transileocecal approach: Complications, profile and changes in future liver remnant volume	The British journal of radiology			
	Okada M, Ihara K, Miyoshi K, Nakao S, Tanabe M, Tokumitsu Y, Harada E, Sakamoto K, Nagano H, Ito K		2022年3月		
4	Antitumor effects of bevacizumab in combination with fluoropyrimidine drugs on human oral squamous cell carcinoma	ONCOLOGY LETTERS	22	4	730-741
	YASUTAKA ITASHIKI ^{1,2} , KOJI HARADA ¹ , TAKANORI TAKENAWA ¹ , TARANNUM FERDOUS ¹ , YOSHIYA UEYAMA ³ and KATSUAKI MISHIMA ¹		2021年10月		
5	Clinical biomarkers in adjuvant chemotherapy for gastric cancer after D2 dissection by a pooled analysis of individual patient data from large randomized controlled trials	GASTRIC CANCER	24		1184-1193
	Akira Tsuburaya, Jia Guan, Kazuhiro Yoshida, Michiya Kobayashi, Shigefumi Yoshino, Kazuaki Tanabe, Takaki Yoshikawa, Takashi Oshima, Yumi Miyashita, Junichi Sakamoto & Shiro Tanaka		2021年11月		
6	Mucin-producing urothelial-type adenocarcinoma of the prostate diagnosed after robot-assisted radical prostatectomy	IJU case reports	25	1	32-35
	Kosuke Shimizu, Ryo Inoue, Shinobu Tomochika, Naohito Isoyama, Yoshiaki Yamamoto, Hiroaki Matsumoto, Koji Shiraiishi, Shigefumi Yoshino, Toyonori Tsuzuki and Hideyasu Matsuyama		2021年9月		
7	Application and utility of surgical techniques for cystic plate isolation in liver surgery	ANNALS OF GASTROENTEROLOGICAL SURGERY			
	Yukio Tokumitsu, Takao Tamesa, Yoshitaro Shindo, Kazuhiko Sakamoto, Hiroaki Nagano		2022年3月		

2022(R4)年度

No.	タイトル	雑誌名	巻 号 ページ		
	著者		年月		
1	Cooperation between artificial intelligence and endoscopists for diagnosing invasion depth of early gastric cancer	Gastric Cancer	26	1	116-122
	Goto A,Kubota N,Nishikawa J,Ogawa R,Hamabe K,Hashimoto S,Ogihara H,Hamamoto Y,Yanai H,Miura O,Takami T		2023年1月		
2	Risk factors for non-gastric-cancer-related death after gastrectomy in elderly patients	Ann Gastroent Surg	6	6	753-766
	Iida M,Takeda S,Nakashima C,Nishiyama M,Watanabe Y,Suzuki N,Yoshino S,Nakagami Y,Tanabe T,Nagano H		2022年11月		
3	A prospective analysis of two studies that used the 5-mm interval slices and 5-mm margin-free method for ipsilateral breast tumor recurrence after breast-conserving surgery without radiotherapy	Breast Cancer	30	1	131-138
	Ohsumi S,Nishimura R,Masuda N,Akashi-Tanaka S,Suemasu K,Yamauchi H,Tokunaga E,Ikeda T,Nishi T,Hayashi H,Iino Y,Takatsuka Y,Ohashi Y,Inaji H		2023年1月		
4	CA19-9 in Combination with Methylated HOXA1 and SST Is Useful to Diagnose Stage I Pancreatic Cancer	Oncology			
	Suehiro Y,Suenaga S,Kunimune Y,Yada S,Hamamoto K,Tsuyama T,Amano S,Matsui H,Higaki S,Fujii I,Suzuki C,Hoshida T,Matsumoto T,Fujimoto Y,Kaino S,Shinjo K,Kondo Y,Sakaida I,Takami T,Nagano H,Yamasaki T		2022年10月		
5	Epstein-Barr virus detection in endoscopic submucosal dissection-proven early gastric cancer with mixed-type histology	Cancer Rep-US			
	Yanai H,Chihara D,Harano M,Sakaguchi E,Kaino S,Murakami T,Nishikawa J		2022年11月		
6	Computational Fluid Dynamics Analysis of Blood Flow Changes during the Growth of Saccular Abdominal Aortic Aneurysm	Annals of Vascular Diseases	15	4	260-267
	Masanori Murakami, Fei Jiang, Nobuyasu Kageyama, Xian Chen		2022年12月		

原著論文、総説、著書(和文)

2021(R3)年度

No.	タイトル	雑誌名	巻 号	ページ	備考
	著者		年月		
1	EBウイルス感染と胃発癌.	日本臨床	80	28~32	
	柳井秀雄・千原大典・戒能聖治・村田建一郎・西川潤				
2	生検にて良悪性境界領域であった胃病変に対する内視鏡的切除による最終診断	山口県医学会雑誌	56	11~13	
	柳井秀雄・千原大典・原野恵・坂口栄樹・西山夏子・吉田拓生・戒能聖治・村上知之				
3	肺動静脈奇形を合併した遺伝性出血性毛細血管拡張症(Osler病)を有する両側下顎智歯抜去の1例	有病者歯科医療	30	5	344-349
	板敷 康隆・山内 良太・岡藤 正樹・植田 和樹・二宮 史浩・久野 高博・上山 吉哉				
4	術後4年目に内腸骨静脈内腫瘍塞栓を来した直腸癌の1例	癌と化学療法	48	9	1177-1180
	鈴木 有十夢				

2022(R4)年度

No.	タイトル	雑誌名	巻 号	ページ	備考
	著者		年月		
1	内視鏡的切除後の経過観察中に超音波内視鏡下穿刺吸引生検法(Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration, EUS-FNA)にて診断した粘膜内乳頭腺癌の分化型早期胃癌リンパ節転移の1例	医療	76	230-234	
	柳井秀雄・原野恵・鶴政俊・南麻梨子				
2	上部消化管EUSにおける診断困難病変への対応	消化器内視鏡	34	1530-1537	
	柳井秀雄・千原大典・吉田拓生・原野恵・坂口栄樹・戒能聖治				
3	内視鏡的胃粘膜下層剥離術(Endoscopic submucosal dissection, ESD)にて一括切除するも予後不良であった表在型胃Mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm (MiNEN) の一例	医療	76	380-384	
	柳井秀雄・千原大典・原野恵・坂口栄樹・矢原昇・和泉屋勇太・村上知之				
4	EBウイルス関連胃癌 改訂第2版				
	柳井秀雄・西川潤・吉山裕規				
5	肝内胆管癌とS状結腸癌の重複癌に対して一期的に腹腔鏡下手術を施行した1例	癌と化学療法	49	13	1808-1810
	堤 甲輔,坂本 和彦,近藤 潤也,北原 正博,濱崎 太郎,村上 雅憲,長島 由紀子,矢原 昇,吉野 茂文,林 弘人				
6	山口県における高齢者乳癌治療に関するアンケート調査	癌と化学療法	49	13	1402-1404
	前田 訓子,鍋屋 まり,鈴木 伸明,武田 茂,為佐 路子,長島 由紀子,久保 秀文,山本 滋,永野 浩昭				
7	総頸動脈が閉塞している症例の頸動脈血栓内膜剥離術	脳神経外科ジャーナル Jpn J Neurosurg (Tokyo)	31	9	594-599
	山下勝弘・副島慶輝				
8	流体構造連成解析を用いた嚢状腹部大動脈瘤に対するステント留置術の力学的評価	脈管学	62	11	111-119
	村上 雅憲・蔣飛・Bin Saiful Yew Shahreen,陳献				
9	体温上昇時の四肢倦怠感を訴える新規の遺伝子変異によるFabry病女性の1例	脳神経内科	97	2	264-266
	田崎 彩子,仲 徹,鄭 泰秀,田中 信一郎,佐藤 穰				

国際学会発表

2021(R3)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R3.7.29	19th International symposium on Epstein-Barr virus and associated diseases	Clinical diagnosis of Epstein-Barr virus-associated gastric cancer	臨床研究部長	柳井 秀雄
2	R3.7.29	19th International symposium on Epstein-Barr virus and associated diseases	EBV genomic DNA detection on gastric biopsy samples used for Helicobacter pylori urease test	臨床研究部長	柳井 秀雄
3	R4.3.2	94th Annual Meeting of the Japanese Gastric Cancer Association	Nontypical gastric tumors may be important in differential diagnosis of Epstein-Barr virus-associated gastric cancer	臨床研究部長	柳井 秀雄
4	R3.9.2	17th world congress of anesthesiologists (Prague)	a case of intrinsic paroxysmal atrioventricular block(I-PAVB) diagnosed by routine ECG monitoring on the night after surgery	麻酔科医長	田和 聖子
5	R3.7.1	19th Asian Oceanian Congress of Radiology (2021), Kuala Lumpur, Malaysia (Zoom)	Hydrogel-Coated Coil (Hydrocoil): The Next Evolution In Embolization?	麻酔科医長	岡田 宗正

2022(R4)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R4.9.8	第21回ISOLSL国際患肢温存学会	Frozen bone-tendon-bone autograft for reconstruction of extensor apparatus of the knee in a patient with soft tissue sarcoma	統括診療部長	伊原 公一郎

国内学会発表

2021(R3)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R3.10.23	第75回国立病院総合医学会	内視鏡的切除の結果が未分化型混在胃癌であった早期胃癌病変におけるEBウイルス関連胃癌の検索	臨床研究部長	柳井 秀雄
2	R3.11.20	第116回日本消化器病学会中国支部例会	熱い飲み物の繰り返し摂取が発癌に関与したと疑われる食道表在癌の2症例	臨床研究部長	柳井 秀雄
3	R3.9.4	第3回日本フットケア・足病医学会 中国・四国地方会学術集会	重症下肢虚血に対する吸着型血液浄化器(レオカーナ)の使用経験	心臓血管外科医長	村上 雅憲
4	R3.10.15	第62回日本脈管学会総会	嚢状腹部大動脈瘤に対するステント留置前後の力学的評価	心臓血管外科医長	村上 雅憲
5	R3.10.16	第133回山口県脳神経外科談話会	破裂したMCA紡錘状動脈瘤の治療例と病理所見からの考察	脳神経外科医長	山下 勝弘
6	R4.3.17	第51回中国四国地区脳神経外科学会学術集会	特殊なケースの頸動脈血栓内膜剥離術	脳神経外科医長	山下 勝弘
7	R3.9.4	第59回中国四国地区国立病院 薬学研究会	注射薬の払い出し時間の見直しによる業務効率化	治験主任	中村 良子
8	R3.9.12	山口県病院薬剤師会 薬学研究会 第201回例会	注射薬の払い出し時間の見直しによる業務効率化への取り組み	薬剤部	瀧砂 恵理香
9	R3.10.23	第75回国立病院総合医学会	今後の事務部の組織を考える～将来の戦略を見据えて～NHOの事務部組織の不都合な真実	事務部長	難波 和弘
10	R3.11.5	臨床麻酔学会第41回	慢性炎症性脱髄性多発神経炎患者1症例の全身麻酔中TOF値	麻酔科医長	田和 聖子
11	R3.11.6	臨床麻酔学会第41回	5名の続発性胆のう炎患者と全身麻酔	麻酔科医長	田和 聖子
12	R3.5.14	第75回手術手技研究会	トライステーブル TM 2.0 リンフォースを用いて体腔内吻合を施行した腹腔鏡下回盲部切除の1例	外科医師	近藤 潤也

2022(R4)年度

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
1	R4.6.11	第117回日本消化器病学会 中国支部例会	膵管ステントが有効であった膵管破綻をきたした慢性膵炎急性増悪の一例	消化器内科医長	戒能聖治
2	R4.7.3	第128回日本消化器内視鏡学会中国支部例会	導管内進展を伴った食道表在癌の一例	臨床研究部長	柳井秀雄
3	R4.10.7	第76回国立病院総合医学会	EUSによる早期胃癌cT1aの診断	臨床研究部長	柳井秀雄
4	R4.10.8	第76回国立病院総合医学会	プロキシマルリリースタイプ大腸ステントを留置した直腸癌の一例	消化器内科医長	戒能聖治
5	R4.12.11	第118回日本消化器病学会 中国支部例会	腹痛を伴う血便で発症した重症熱性血小板減少症候群の一例	消化器内科医長	戒能聖治
6	R4.10.14	第58回日本胆道学会学術集会	急性化膿性胆管炎で発症した胆管内発育を来した肝細胞癌の一例	消化器内科医長	戒能聖治
7	R4.10.14	第58回日本胆道学会学術集会	異時性胆道癌発症時に診断された膵胆管合流異常の1例	外科医長	坂本和彦
8	R4.9.15	第97回中国四国外科学会 総会	同時性両葉肝転移を伴う切除不能大腸癌に対しConversion therapy後Two stage hepatectomyを施行した1例	外科医長	坂本和彦
9	R4.11.24	第84回日本臨床外科学会 総会	膵頭部周囲リンパ節を原発とするガストリノーマの1例	外科医長	坂本和彦
10	R5.3.9	第59回日本腹部救急医学会 総会	悪性腫瘍による上部消化管閉塞に対するステント治療とバイパス手術の検討	外科医長	坂本和彦
11	R4.8.28	固定チームナーシング研究会 第13回中国地方会	COVID-19入院患者の不安を軽減するための取り組み ～こころのアンケートを実施して～	看護師	熊谷みずき
12	R4.9.10	第19回中国四国地区国立病院機構国立療養所 看護研究学会	認知症透析患者いおよび家族へのパーソン・センタード・ケアを活用した体重コントロールへの関わり	看護師	光永さやか
13	R4.9.10	第20回中国四国地区国立病院機構国立療養所 看護研究学会	整形外科病棟で手術を受ける高齢者を対象とした修正早期警戒スコア(MEWS)調査	看護師	森崎智貴
14	R4.9.10	第21回中国四国地区国立病院機構国立療養所 看護研究学会	高齢者の栄養改善に向けた介入に対する看護師の意識調査	看護師	金子彩乃
15	R4.10.7	第76回国立病院総合医学会	足の疾患センターを開設して	看護師	伊東彩華
16	R4.11.4	日本医療マネジメント学会 第20回九州・山口連合大会	患者の安全な療養環境作りへの取り組み	看護師	塩田晴美
17	R4.11.4	日本医療マネジメント学会 第20回九州・山口連合大会	化学療法を受ける患者のセルフケア能力向上に 有効な患者指導のタイミングについての検討	看護師	松井優
18	R4.10.8	第76回国立病院総合医学会	[パネルディスカッション11-5] 無床総合病院精神科における自傷・自殺未遂患者への対応 ～一人医長にできること～	精神科医長	若林祐介

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
19	R4.10.9	透析セミナーin海峡メッセ下関2022年	透析療法の基礎 薬剤紙編	薬剤師	濱砂恵理香
20	R5.3.29	第2回救急集中治療薬学セミナー-online	10年後の集中治療室の薬剤師業務について語らう	薬剤師	槇山翔太
21	R5.3.16	知らなきゃそん塾	ご飯が食べれない…。じゃあ、点滴を入れましょうと言う前に～がん化学療法を行っている患者様を中心に～	製剤主任	綾田翔
22	R5.3.17	外来がん治療地域連携研究会	当院HP公開レジメンの解説	薬剤師	田中翔一
23	R4.10.22	第69回NPO法人日本口腔外科学会中国・四国地方部会および第20回中国四国口腔癌研究会学術集会	右側咀嚼筋に生じた限局性筋炎の1例	歯科口腔外科長	板敷康隆
24	202/10/9	透析セミナーin海峡メッセ2022年 山口県西部透析症例検討会	透析患者の栄養管理について	栄養管理室長	揚村和英
25	R4.3.16	臨床栄養勉強会WEB知らなきゃソン塾 山口県サポートネットワーク	ICU早期栄養管理加算と管理栄養士の役割	栄養管理室長	揚村和英
26	R4.11.12	日本臨床麻酔学会第42回大会	心房細動と心拡大を伴う麻酔患者の周術期合併症	麻酔科医長	田和聖子
27	R4.8.27	第35回中国地方脳神経外科手術研究会	頸動脈血栓内膜剥離術における脳虚血合併症の回避について	脳神経外科医長	山下勝弘
28	R5.1.14	第135回山口県脳神経外科談話会	総頸動脈閉塞症に対する血行再建術	脳神経外科医長	山下勝弘
29	R4.10.8	第76回国立病院総合医学会	重症下肢虚血に対し吸着型血液浄化器(製品名:レオカーナ)を用いた治療を施行した1例	心臓血管外科医長	村上雅憲
30	R4.10.7	第76回国立病院総合医学会	covid-19専用病棟に透析設備が新設されるまで～臨床工学技士の視点～	主任臨床工学技士	石田朋行
31	R4.10.7	第76回国立病院総合医学会	急性期脳卒中患者に対する目標設定共有化の有無による効果の違いについて	理学療法士	佐藤晟也
32	R4.6.25	第59回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院における高悪性骨肉腫の治療成績と社会参加	統括診療部長	伊原公一郎
33	R4.4.16	第81回日本医学放射線学会総会	呼吸dual-energy CTのヨードマップ画像への影響:吸気CTとの比較	放射線科医長	岡田宗正
34	R4.6.17	第136回日本医学放射線学会中国・四国地方会	急性膵炎に伴う仮性腹腔動脈瘤の1例	放射線科医長	岡田宗正
35	R4.9.16	第56回日本作業療法学会	重度失語症を呈した患者に対して急性期でのADOCを使用した作業の共有 —目標設定と意思決定—	理学療法士	佐藤晟也
36	R4.12.10	第35回日本内視鏡外科学会総会	乳癌術後の気管分岐部リンパ節腫大に対し腹臥位胸腔鏡下切除を施行した1例	外科医師	北原正博
37	R5.2.24	第95回日本胃癌学会総会	胃癌術後に多発大腸転移をきたした1例	外科医師	北原正博
38	R5.2.24	第95回日本胃癌学会総会	胃癌における1次治療としてのNivolumab+Sox療法の検討	研修部長	吉野茂文
39	R5.3.5	第108回山口県臨床細胞学会学術集会	当院におけるRapid on-site evaluation(ROSE)の現状	血清主任	見國真樹
40	R4.9.30	第35回中国四国IVR研究会	AZUR Soft3Dを用いて塞栓し得た胃出血の1例	放射線科医長	岡田宗正

No.	発表年月日	発表学会	演題名等	職名	演者氏名
41	R4.12.1	第49回日本マイクロサージャリー学会学術集会	手指軟部腫瘍手術におけるマイクロサージャリーの有用性	統括診療部長	伊原公一郎
42	R4.12.9	第35回日本内視鏡外科学会総会	脊椎破裂骨折術後に生じた医原性横隔膜ヘルニアを内視鏡下に修復した1例	外科医師	近藤潤也
43	R4.9.24	第76回日本食道学会学術集会	腹腔鏡手術を施行した横隔膜上憩室を伴う食道アカラシアの1例	外科医師	北原正博
44	R4.9.24	第76回日本食道学会学術集会	化膿性脊椎炎を合併した食道胃接合部癌の1例	外科医師	近藤潤也

独立行政法人国立病院機構関門医療センター
年報（令和3年度～令和4年度）



発行日 令和6年1月24日
発行者 独立行政法人国立病院機構関門医療センター
所在地 山口県下関市長府外浦町1-1
発行責任者 吉野 茂文
印刷所 株式会社 アートネクスト

